



愛知淑徳大学

履修要覧 大学院

〔 2025 年度入学者用 〕

保存版

履修要覧は入学時のみ配付されます。
卒業まで大切に保管してください。

履修要覧は入学時のみ配付されるため、修了まで大切に保管してください。
本冊子に記載されている内容は、2025年2月28日現在のものです。
最新の情報はCampusSquareもしくは掲示等で確認してください。

本学ホームページから閲覧可能

学 年 暦：トップページ＞学生生活＞学年暦



履修要覧：トップページ＞学生生活＞履修・授業関連＞履修要覧



時間割表：トップページ＞学生生活＞履修・授業関連＞時間割表



目次

履修にあたって（全研究科共通）	5	V 所属する研究科以外における科目履修・聴講および単位の認定等（全研究科共通）	18
1 学生部の事務取扱い時間		1 所属する研究科以外の科目履修・聴講	
2 掲示・連絡		2 単位の認定	
3 問い合わせ		3 資格の取得（教育職員免許状、司書、学芸員）	
4 ガイダンス			
5 進 級		VI 教育職員免許状の取得（全研究科共通）	21
6 指導教員		1 教育職員免許状の取得	
7 教員研究室		2 本大学院で取得できる教育職員免許状の種類および教科	
8 学籍の異動（休学・復学・退学）		3 教育職員免許状取得のための基礎資格と修得単位	
I 授業科目の種類と単位（全研究科共通）	7	〈文化創造研究科 文化創造専攻〉	25
1 授業科目の種類		I 文化創造研究科文化創造専攻のポリシー	26
2 単 位		1 ディプロマ・ポリシー（人材養成像）	
II 授業（全研究科共通）	8	2 カリキュラム・ポリシー（ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系的性を記したもの）	
1 授業時間		3 アドミッション・ポリシー	
2 休講と補講等			
3 授業の出欠席		II 文化創造研究科 文化創造専攻 博士前期課程	29
III 履修登録（全研究科共通）	10	1 修業・在学年限	
1 履修計画		2 修了要件	
2 時間割の作成方法		3 修士論文	
3 履修登録の流れ		4 学位試験	
4 履修登録上の注意事項		5 修了認定	
5 履修中止		6 学位の名称	
IV 試験・成績評価（全研究科共通）	13	III 文化創造研究科 文化創造専攻 博士前期課程 カリキュラム表	33
1 試験の実施		1 文化創造専攻科目	
2 受験資格			
3 受験上の注意		IV 文化創造研究科 文化創造専攻 博士後期課程	39
4 追試験		1 修業・在学年限	
5 レポート提出上の注意		2 修了要件	
6 成績評価		3 研究指導	
7 成績発表		4 博士論文	
8 成績評価に関する質問		5 学位試験	
9 授業担当者に対する陳情等の禁止		6 修了認定	
10 修了認定者の発表		7 博士論文の公表	
		8 学位の名称	

V 文化創造研究科 文化創造専攻 博士後期課程 カリキュラム表	43
1 文化創造専攻科目	
〈教育学研究科〉	49
I 教育学研究科のポリシー	50
1 ディプロマ・ポリシー(人材養成像)	
2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系的性を記したもの)	
3 アドミッション・ポリシー	
II 教育学研究科 修士課程	52
1 修業・在学年限	
2 修了要件	
3 研究計画・学習計画	
4 修士論文	
5 学位試験	
III 教育学研究科 修士課程 カリキュラム表	54
1 発達教育専攻科目	
〈心理医療科学研究科〉	57
I 心理医療科学研究科のポリシー	58
1 ディプロマ・ポリシー(人材養成像)	
2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系的性を記したもの)	
3 アドミッション・ポリシー	
II 心理医療科学研究科 博士前期課程	61
1 修業・在学年限	
2 修了要件	
3 成績評価基準	
4 修士論文	
5 学位試験	
6 修了認定	
7 学位の名称	
8 提出すべき書類と提出期限	

III 心理医療科学研究科 博士前期課程 カリキュラム表	65
1 心理医療科学専攻科目	
2 「臨床心理士」受験資格	
3 「公認心理師」受験資格	
IV 心理医療科学研究科 博士後期課程	75
1 修業・在学年限	
2 修了要件	
3 修得すべき単位	
4 博士論文	
5 学位試験	
6 修了認定	
7 学位の名称	
8 提出すべき書類と提出期限	
V 心理医療科学研究科 博士後期課程 カリキュラム表	78
1 心理医療科学専攻科目	
〈健康栄養科学研究科〉	81
I 健康栄養科学研究科のポリシー	82
1 ディプロマ・ポリシー(人材養成像)	
2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系的性を記したもの)	
3 アドミッション・ポリシー	
II 健康栄養科学研究科 修士課程	84
1 修業・在学年限	
2 修了要件	
3 成績評価基準	
4 研究計画・学修計画	
5 修士論文	
6 学位試験	
7 修了認定	
8 学位の名称	
III 健康栄養科学研究科 修士課程 カリキュラム表	86
1 健康栄養科学専攻科目	

〈グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科〉……	89	Ⅱ ビジネス研究科 博士前期課程 ……	113
Ⅰ グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科 のポリシー ……	90	1 修業・在学年限	
1 ディプロマ・ポリシー(人材養成像)		2 修了要件	
2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシー に整合し、それを保証するカリキュラムの体系 性を記したもの)		3 研究計画・履修計画	
3 アドミッション・ポリシー		4 修士論文および課題研究レポート	
Ⅱ グローバルカルチャー・コミュニケーション研究 科 博士前期課程 ……	94	5 学位試験	
1 修業・在学年限		6 学位授与の取り消し	
2 修了要件		Ⅲ ビジネス研究科 博士前期課程 カリキュラム表 ……	117
3 修士論文・実践研究レポート		1 ビジネス専攻科目	
4 学位試験		Ⅳ ビジネス研究科 博士後期課程 ……	119
Ⅲ グローバルカルチャー・コミュニケーション研究 科 博士前期課程 カリキュラム表 ……	96	1 修業・在学年限	
1 グローバルカルチャー・コミュニケーション専 攻科目		2 修了要件	
Ⅳ グローバルカルチャー・コミュニケーション研究 科 博士後期課程 ……	102	3 修得すべき単位	
1 修業・在学年限		4 研究指導	
2 修了要件		5 博士論文	
3 研究指導		6 学位試験	
4 博士論文		7 博士論文の公表	
5 学位試験		8 学位授与の取り消し	
Ⅴ グローバルカルチャー・コミュニケーション研究 科 博士後期課程 カリキュラム表 ……	105	Ⅴ ビジネス研究科 博士後期課程 カリキュラム表 ……	122
1 グローバルカルチャー・コミュニケーション専 攻科目		1 ビジネス専攻科目	
〈ビジネス研究科〉 ……	109		
Ⅰ ビジネス研究科のポリシー ……	110		
1 ディプロマ・ポリシー(人材養成像)			
2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシー に整合し、それを保証するカリキュラムの体系 性を記したもの)			
3 アドミッション・ポリシー			

1 学生部の事務取扱い時間

学生部の事務取扱い時間は、下記のとおりである。時間外は取扱わない。

期 間	事務取扱い時間	証明書自動発行機稼動時間
授業日	9:00～18:30	9:00～18:30
授業日以外	9:00～17:00	9:00～17:00

ただし、土（補講日・集中授業を含む）・日・祝日および夏季・冬季休業期間は取扱わない。

2 掲示・連絡

学生への情報は、CampusSquareおよび掲示によって通知する。**緊急の情報もあるので、必ず情報を確認する。**情報の確認を怠ったことによる不利益は各自の責任とする。学生個人への授業に関する連絡は、CampusSquareで行われる。呼び出しがあった場合には、早急に関係部署に連絡を取らなければならない。

3 問い合わせ

電話・メールによる各種問い合わせ（行事予定・休講・授業・試験・成績等）には対応できない。CampusSquareで確認するか、必要がある場合は、原則として関係事務室窓口本人が出向き直接問い合わせる。

ただし、本人が感染症にかかり出校停止と判断されている場合は、この限りではない。

4 ガイダンス

新学期にあたり、学生の学習をサポートするために対面または遠隔による各種ガイダンスを実施している。

ガイダンスでは、学修計画の立て方、カリキュラム内容、資格取得上の注意、履修登録等の方法について、各担当者から詳細な説明がある。各種ガイダンスでの説明・注意事項に従った履修登録が必要になるので、自身が対象となるガイダンスは必ず出席または確認しなければならない。

ガイダンスの詳細な日程等は、CampusSquareで確認する（新年度ガイダンスの日程は毎年1月頃に掲載予定）。

5 進 級

本学では、原則として修得単位数に関わらず、入学してから最終年次まで順次進級する（休学の場合も同様）。ただし、修了に必要な単位を満たしていない場合や、論文が合格しない場合は修了延期となり、留年となる。在学年数（休学期間は算入しない）は、前期課程・修士課程は4年まで、後期課程は6年までとする。

6 指導教員

本大学院では、入学後、学生の研究分野により指導教員を定め、学修指導等にあたっているため、遠慮なく相談してほしい。

7 教員研究室

『GUIDEPOST』の研究室一覧のページを参照する。ここに記載のない教員は、授業日のみ出校しているため、連絡をとる場合は、原則として授業の前後に教室で行う。

8 学籍の異動（休学・復学・退学）

学則の規定により、やむを得ない事情がある場合は休学や退学を願い出ることができる。休学期間が満了した場合は、手続き無く復学となる。手続きについては、詳細を『GUIDEPOST』の学籍のページやホームページで確認したうえで、事前に指導教員や保証人と相談してすすめる。不明な点は学生事務室・教学事務室で確認する。

また、履修登録についての質問は、教務事務室・教学事務室で確認する。



1 授業科目の種類

(1) 開講科目

● 専門教育科目

専攻及び課程に応じ、教育上必要な授業科目を開講している。

● 所属する研究科以外の科目

所属する研究科以外の科目（他の研究科および学部の授業科目）を履修または聴講することができる。

詳細は、『履修要覧』の「V所属する研究科以外における科目履修・聴講および単位の認定等」のページを参照する。

(2) 必修科目と選択科目

修了までに必ず単位を修得しなければならない科目を**必修科目**、その他複数科目の中から所定の単位を修得しなければならない科目を**選択必修科目**という。

適宜自由に選択して単位を修得する科目を、**選択科目**という。

(3) 通年科目と半期科目と1/4期科目

開講期間によって科目を区別することがあり、その場合、1年を通じて受講し、所定の単位を修得する科目を**通年科目**といい、半期で受講が完了する科目を**半期科目**、1/4期で受講が完了する科目を**1/4期科目**という。

一定の期間を設けて集中的に行う**集中授業**もある。

2 単 位

(1) 単 位

45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とした授業科目を1単位とし、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、定められた基準により単位数を計算する。

ひとつの授業科目を履修し、定められた回数以上の出席を確保し、試験等により評価を受け合格することで、単位が与えられる。

(2) 単位計算の基準

本学では、講義科目、演習科目については15時間の授業をもって1単位とし、実験・実習・実技については、30時間の授業をもって1単位とする。1時限の授業時間は2時間（本学ではこれを1コマと呼び正味90分）として計算する。

ただし、大学院学則第27条に「授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする」とあり、授業時間以外にも各自の学修時間が要求されている。

具体的には下記のとおりである。

授 業 の 形 態	単 位 数
講義・演習	半期科目は2単位。 ただし、科目によっては単位数の異なるものがある。
実験・実習・実技	半期科目は1単位。1週間に2コマ連続して行われる半期科目は2単位。 ただし、科目によっては単位数の異なるものがある。

論文作成等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮し、単位数を定める。

1 授業時間

年間を通じて、次のとおりとする。

第1限 9：30～11：00	第5限 16：50～18：20
第2限 11：10～12：40	第6限 18：30～20：00
第3限 13：30～15：00	第7限 20：10～21：40
第4限 15：10～16：40	

グローバル・コミュニケーション学部の一部の専門教育科目のみ60分授業を行う（以下のとおり）。

第G1限 9：30～10：30
第G2限 10：40～11：40
第G3限 11：50～12：50
第G4限 13：50～14：50

2 休講と補講等

（1）休 講

行事、天候、交通事情あるいは各科目の授業担当者のやむを得ない理由により、授業を休講にすることがある。休講情報はCampusSquareで確認する。当日休講になる場合もあるので、必ずCampusSquareで確認する。

授業開始後30分が経過しても授業担当者から何の連絡もなく、授業がなされない場合は、教務事務室・教学事務室に問い合わせる。

（2）補 講

授業担当者の都合等による休講のため、規定の授業時間数に満たない科目については、補講を行う。その場合は、授業担当者より授業日、時間、教室等の指示がある。補講情報はCampusSquareで確認できる。

なお、規定の授業時間数を満たしていても、授業内容および進度等を考慮して、授業担当者が臨時に補講を行うことがある。

（３）暴風警報・地震情報発表等緊急時の授業（名古屋市営交通機関のストライキを含む）

①愛知県全域または愛知県西部の尾張西部・尾張東部・西三河北西部・西三河南部・知多地域のうちのいずれかの地域に暴風警報が発表された場合および名古屋市営交通機関（地下鉄・バス）が停止した場合、原則として下記の措置をとる。

ただし、下記にかかわらず、気象状況・交通事情等を勘案し、状況に応じて別の措置をとる場合があるので、必ずホームページ・CampusSquareにて確認する。

<内規より抜粋>

発 表 状 況	措 置
（１）午前７時以前に解除	第１限目より平常通り
（２）午前７時現在発表中	第１限目及び第２限目の授業を中止 第G１限目から第G３限目の授業を中止
（３）午前10時現在発表中	第３限目及び第４限目の授業を中止 第G４限目の授業を中止
（４）午後２時現在発表中	第５限目以降の授業を中止
（５）授業開始時以後に発表	発表時において登校していない学生については、（１）～（４）の例による。 登校している学生については、学生の安全及び交通事情を勘案し、状況に応じて、授業等の教育活動を打ち切り、帰宅又は避難させる。

②南海トラフ地震臨時情報が発表された場合、授業等の実施については大学からの指示に従う。

なお、試験については上記の取り扱いに準じて変更し、変更された試験の実施要項は後日公示する。

（４）教室変更

履修者数の増減または授業で使用する教材機器等の事情により、授業教室を変更することがある。その場合はCampusSquareによって通知する。

教室変更の内容については、臨時のものと常時のものがあるため注意する。

3 授業の出欠席

- （１）授業の出欠の取扱いについては、授業担当者に一任されている。本学には、忌引や課外活動等のために欠席する場合の**公欠制度はない**。欠席する場合は、直接授業担当者に申し出て指示に従う。
- （２）「学校保健安全法施行規則」に定める感染症に罹患した場合は、保健管理室に申し出て指示に従う。

1 履修計画

修了に必要な単位数は、入学年度、研究科、専攻・コース・領域・専修により異なるので注意する。

履修計画を立てるにあたっては、ガイダンスの内容、履修要覧、時間割表、CampusSquareの「シラバス」、CampusSquareのリンク「履修登録の注意事項」を必ず確認し、間違いのないように履修登録をする。

シラバスは、その授業科目の授業内容や進め方について、詳細に記したものである。

2 時間割の作成方法

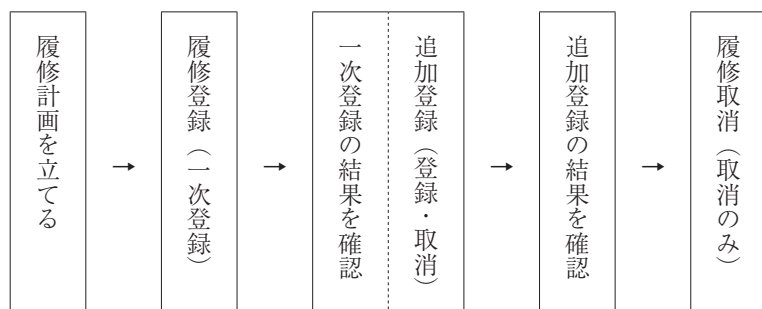
- (1) 最初に必修科目の開講曜日時限を「時間割表」で確認する。
- (2) 次に選択必修科目の開講曜日時限を「時間割表」で確認する。
- (3) 空いている曜日時限に、選択科目の中から履修を希望する科目を選ぶ。
- (4) 「時間割表」から曜日時限・担当者が変更になっている場合もあるため、CampusSquareのリンク「履修登録の注意事項」で確認する。
- (5) 「時間割表」の開講年組の欄には、各科目の開講学年等の条件が記載されているので注意する。
- (6) Web履修登録の指定の日時までに登録する科目を決め、Web履修登録を行うこと。

3 履修登録の流れ

指定の期間内に、学外のPC、タブレット、スマートフォンからWebにより履修登録および確認を行う。

操作方法については「Web履修登録操作マニュアル」を参照すること。

日程の詳細は、時間割表で確認する。



- (1) 各行事後にはCampusSquareの「履修（履修登録・登録状況照会）」で各自の登録状況を確認し、印刷したものを保管（登録画面を画像データで保存する場合は、必ず学籍番号や氏名を見えるように保存）しておく。
- (2) 履修の意志がない科目は「追加登録」期間あるいは「履修取消」期間に必ず取り消す。
- (3) 「追加登録」期間あるいは「履修取消」期間に訂正を行わなかった場合、いかなる理由があっても履修登録に関する変更・訂正は一切受けられないので注意する。
- (4) 履修登録結果に疑問のある場合は、速やかに教務事務室・教学事務室に問い合わせる。必要があれば履修登録時の「登録画面」を印刷したもの、および「履修（履修登録・登録状況照会）」を印刷して持参する。
- (5) 履修登録の手続きをしなかったり誤ったりした場合、その科目の履修は認められず、たとえ授業担当者から個別に口頭で履修を許可され、その授業に出席し試験を受けても、単位は認定されないで注意する。

4 履修登録上の注意事項

- (1) 履修登録は前期・後期それぞれ行う。ただし、通年科目は前期に登録する。
後期に通年科目に登録・取り消しをすることはできない。
- (2) **履修できない科目**
 - ▷ 同学年の他クラスの科目
 - ▷ 上級年次対象の科目
 - ▷ 同一科目
 - ▷ 同一曜日時限科目
 - ▷ 既に単位を修得した科目
- (3) 上級年次の学生は、下級年次対象科目を履修することができる。
- (4) 集中授業は、日程が1日でも重なると複数の科目を履修登録することができない。
- (5) 前提科目の単位を修得していないと履修できない科目があるので、「カリキュラム表」や「履修上の注意」をよく読み注意する。
- (6) **キャンパス間の移動**

所属キャンパス以外で開講される科目を受講する場合は、移動の時間を見込んで無理のない履修計画を立てる。

授業日に限り連絡バスが運行されるので、両キャンパス間の移動に利用することができる。利用に関することは、『GUIDEPOST』の通学のページを参照する。
- (7) 病気等やむを得ない理由により、所定の期間に履修登録が不可能な場合は、必ず事前に教務事務室・教学事務室へ相談し、指示を受ける。
- (8) CampusSquareのお知らせや各種掲示等の確認を怠ったことによる不利益は各自の責任とする。

5 履修中止

履修中の科目について、取消期間を過ぎてから、病気等やむを得ない理由により学期の途中で履修を継続することが困難となった場合、以下の通り履修中止を申請することができる。

1. 申請できる事由

事 由	添 付 書 類
I 傷病により長期入院、長期加療が必要となった場合※	診断書（コピー不可）
II 次の①～⑨の科目について、履修登録時に開講（実習）日が未定または開講（実習）日が変更されたため、予め履修登録した授業科目の開講日と重複した場合	
① 海外研修科目	海外研修募集要項等、日程が確認できるもの
② インターンシップ科目（単位認定科目に限る）	インターンシップ実施要項等、日程が確認できるもの
③ 集中授業科目	—
④ 学外実習（心理学部・健康医療科学部・食健康科学部・福祉貢献学部）	—
⑤ 教育実習	実習の日程の確認できる書類
⑥ 介護等体験	実習の日程の確認できる書類
⑦ 図書館実習	実習の日程の確認できる書類
⑧ 博物館実習	実習の日程の確認できる書類
⑨ 学校教育体験	—
III 図書館実習先・インターンシップ受け入れ先・学校体験先の確保が困難な場合	—
IV 学部長・研究科長等が特に履修中止の事由に値すると認めた場合	—

※ 集中授業の履修に際して傷病により加療が必要となった場合、開講形態と診断書により判断する。

※ 集中授業の履修に際して家族の忌引や危篤により欠席しなければならない場合、開講形態と当該者の火葬・埋葬許可書等又は診断書により判断する。

2. 申請手続きおよび提出期間

- ① 履修を中止したい事由が発生した場合、速やかに履修中止申請書に必要な書類を添付し、教務事務室・教学事務室へ提出する。提出期間は当該学期の履修登録期間終了後から授業終了日（集中授業は各授業科目の終了日）までとする。
- ② 申請手続きは原則として学生本人が行う。ただし、Iの事由の場合に限り、代理人の申請も認める。
やむを得ない事情により提出期間内に提出できない場合は、あらかじめ教務事務室・教学事務室まで相談する。

所属研究科の研究科長の承認を得て履修中止が認められた場合、当該科目は成績評価対象外（GPA算出対象外）となり、次学期以降再度履修登録することができる。

1 試験の実施

定期試験は、各学期15回の授業の後、学年暦に定められた定期試験期間に実施する。また、定期試験期間における不測の事態（気象警報や公共交通機関の運行停止などによる全学的な休校措置）が発生した場合は、定期試験予備日に実施する。

試験の開始時間は、原則として通常の授業開始時間とする。試験時間は通常60分だが、科目によっては60分を超えて実施される場合がある。

授業担当者の判断により、課題を課し、そのレポートをもって試験に代えることがある。なお、授業の中で実施される試験については、授業担当者の指示に従うこと。

2 受験資格

授業担当者が実授業時数の3分の1を超えて欠席したと認めた場合は、受験資格を喪失する（「愛知淑徳大学履修及び試験規程」第12条参照）。

3 受験上の注意

学生証が無ければ、受験できない。紛失等により再発行が必要な場合は、学生事務室・教学事務室にて再発行の申請手続きを行うこと。申請から引渡しまで1週間程度を要するため、受験日に間に合うように、必ず学生証の有無を確認しておくこと。

- (1) 試験当日は、交通機関の混雑、遅延等により遅刻することのないよう、早めに登校する。
- (2) 定期試験は、指定された日時および教室で受験する。通常教室と異なる場合があるので定期試験時間割を確認する。試験時間割は、定期試験期間の2週間前よりCampusSquareで発表する。**日時・場所を間違えたことを理由に追試験を受験することはできない。**
- (3) 試験室では所持品はすべて鞆などに入れ、通路側でなく足もとに置く。机の中には入れない。
- (4) 座席に指定がある場合は、指定された席に着席する。座席の指定が無い場合は、監督者の指示に従う。
- (5) 受験の際は、学生証を机上の通路側に置き、監督者の確認を受けなければならない。
- (6) 携帯電話やウェアラブル端末（時計機能のあるものも含む）の使用を禁止する。
- (7) 試験開始後20分以上遅刻した者は、試験室に入室できない。また、試験開始後30分以内は退室できない。
- (8) 受験した学生は、必ず答案を提出しなければならない。
- (9) 不正行為はもとより、文房具の貸借など紛らわしい行為を一切してはならない。**不正行為を行った者とその援助者は、当該科目を失格とし、「学生の懲戒処分等に関する規程」による懲戒処分を行う。**

4 追試験

追試験は、定期試験を病気その他正当と認められる事由で欠席した者に対して行われる試験である。追試験の受験を希望する者は指定された申込期間中に申請が必要である。詳細は時間割表で確認する。

（注）追試験を欠席した者に対する再度の追試験は行わない（「愛知淑徳大学履修及び試験規程」第14条参照）。

5 レポート提出上の注意

- (1) 提出期限は厳守しなければならない。
- (2) レポートは、原則として授業担当者に提出する。指定のあった場合は、下記の場所に設置されているレポートボックスに提出する。レポートは各自コピーをとるなどし、手元に控を保管しておくこと。レポートボックスは原則として締切日の1週間前に設置されるので、開室時間内に該当のボックスに提出（下表参照）すること。

レポートの入れ間違いに注意する（レポートボックスを間違えない。違うレポートボックスに入れた場合は、提出したことにならない）。

- (3) レポートのタイトル・内容・締切等については、授業担当者に確認する。
- (4) レポートに表紙をつけるよう授業担当者から指示があった場合は、所定の表紙をつけ、必ずホチキス留めをしてレポートボックスに提出すること。

表紙は、レポートボックス設置場所に用意されている。

キャンパス	レポートボックス設置場所	開室時間〔月～金〕	問合せ先
長久手キャンパス	3号棟1階 レポートボックス室	授業日：9：00～18：30 授業日以外：9：00～17：00	教務事務室
星が丘キャンパス	1号館2階 印刷室2	授業日：9：00～18：30 授業日以外：9：00～17：00	教学事務室

剽窃(ひょうせつ)・盗用について

レポートを作成する際に、書籍、ウェブサイトなどで入手した他人の資料や見解をあたかも自分のものであるかのように装ったものは、適切なレポートでないだけでなく、剽窃と呼ばれる犯罪行為にあたる。このような不正行為を行った場合は、当該科目を失格とし、「学生の懲戒処分等に関する規程」により懲戒等の処分の対象となる。

また、他人にレポートを代筆させる行為や他人のレポートを代筆する行為は、いずれも不正行為とみなし、懲戒等の処分の対象となる。

ChatGPT等(生成系AI)の利用について

近年、ChatGPT等をはじめとする生成系人工知能（AI）技術は目覚ましい発展をとげ、社会に大きな影響を与えはじめています。その活用には大きなメリットがあると同時に、教育においては慎重な判断が必要と考えられます。安易な生成系AIの利用は、剽窃などの不正行為につながる可能性を生じさせます。本学では、現時点における学生の利用について、以下の通りとします。

レポートや論文、課題への取り組みにおいて、生成系AIを利用して作成することを原則として禁止する。ただし、授業担当者の指示により使用する場合、その使用範囲については授業担当教員の指示に従うこと。

6 成績評価

成績は、授業担当者が定期試験・レポート・小テスト・平常の学修状況・実技実習等の評価方法により、学修目標に対する到達結果をもって評価する。各科目の具体的な成績評価基準については、『シラバス』を参照する。学位論文および学位試験の成績は、合格または不合格とする。

成績評価	評価点 (Grade Point)	単位	基準	説明
A+	4	認定	90%以上	到達目標に対して特に優秀な結果を残したと授業担当者が判断したもの
A	3		80%～89%	到達目標に対して優秀な結果を残したと授業担当者が判断したもの
B	2		70%～79%	到達目標をほぼ充足する結果を残したと授業担当者が判断したもの
C	1		60%～69%	到達目標に対して必要最低限については充足できたと授業担当者が判断したもの
合	—		—	合/否により成績が評価される授業において到達目標を達成したと授業担当者が判断したもの
認	—		—	到達目標を達成したと授業担当者が判断したもの（読み替えによる認定のみ）
F	0	不認定	59%以下	到達目標に到達できていないと授業担当者が判断したもの
失	0		—	失格：受験資格喪失
欠	0		—	欠席：定期試験欠席・定期試験に代わる課題の不提出
否	—		—	合/否により成績が評価される授業において到達目標を達成していないと授業担当者が判断したもの
W	—	成績評価対象外	—	履修中止：研究科長の承認により、履修の取消しが行われたもの

（注） 休学、退学、除籍、長期の停学に伴い、学期の途中で履修継続が不可能となった場合は、当該科目の単位を認定しない（履修情報を削除する）。

履修した各科目の成績を表す評価点（Grade Point）は、**大学院生（2025年度以降入学）には適用されません**。したがって、GPA（Grade Point Average）は算出されません。

7 成績発表

成績はCampusSquareの「試験・成績」の「履修成績照会」から「画面に表示する」または「PDF出力」を選択して確認する。「PDF出力」を選択すると成績通知書を出力することができる（成績通知書の出力期限は、前期：成績発表日～12月31日、後期：成績発表日～6月30日）。ただし、正式な書類を希望する場合は、証明書発行機で成績証明書を購入する。

成績発表日時は、時間割表で確認する。成績発表日時点で未評価の科目については、成績が確定次第、CampusSquareの全学掲示板で通知される。成績評価質問票は、所定の期間内に教務事務室・教学事務室の窓口に出す。

通年科目の成績は、後期に発表される。

8 成績評価に関する質問

成績評価に関して質問等がある場合は、所定の期間内に「成績評価質問票」を教務事務室・教学事務室に提出する。受付日時は、時間割表で確認する。

- （1）「成績評価質問票」には、授業の出席、提出物、小テスト等の状況をできるだけ詳細に記入するとともに、質問内容を明確に記入する。
- （2）成績評価に関する陳情は禁止されている。評価を上げてほしい等の要望になっている場合、提出は認められない。
- （3）成績は学修目標の到達結果をもって評価される。F＝出席状況（欠席）による評価ではない。
- （4）「成績評価質問票」は、教務事務室・教学事務室を経由して授業担当者に渡される。授業担当者からの回答が届き次第、CampusSquareにより連絡するので、学生証を呈示し教務事務室・教学事務室で受取る。

なお、授業担当者からの回答に質問等がある場合は、教務事務室・教学事務室まで申し出ることができる。この場合の質問等については、研究科教務委員会等が授業担当者からヒアリングをしたうえ回答する。

9 授業担当者に対する陳情等の禁止

成績評価に関して質問等がある場合は、必ず、前述の「成績評価に関する質問」に従って「成績評価質問票」を提出すること。本学では、成績発表後に、成績評価に関する質問を、学生が授業担当者に対して、直接、メールや電話等で行うことを禁止している。また、授業期間中、成績発表後などその時期に関わらず、学生が授業担当者に対して、陳情を行うことを禁止している。授業担当者は、学生からの以下のような陳情には、一切対応しない。禁止行為となっている陳情を繰り返し行う学生に対しては、研究科教務委員会等による指導を行う。

	具 体 例	授業期間中	成績発表後
質 問	・授業を○回欠席したが、受験資格はあるか。 ・小テストを受けなかったが、大丈夫か。	授業担当者に直接質問する。	
	・授業に全回出席したのに評価が「失」なのはなぜか。 ・レポートを提出した（試験を受けた）のに評価が「欠」なのはなぜか。 ・出席回数もレポートの完成度も友人とほぼ同じだと思うが、成績が異なるのはなぜか。		期間内に提出された「成績評価質問票」による質問のみ受け付ける。
陳 情	・この授業の単位がないと卒業できない。 ・就職先が決まっているので、この授業の単位が欲しい。 ・追加でレポート課題を出してもらえれば提出するので、単位をください。	時期を問わず陳情には一切対応しない ×	×

<適切ではない質問の例>

- ・授業に全回出席したのに評価が「F」なのはなぜか。
- ・レポートを期限内に提出したのに評価が「F」なのはなぜか。

【解説】

成績は学修目標に対する到達結果をもって評価される。特に以下の点に注意すること。

- ・授業に出席することによって「出席点」が得られることはない。
- ・レポートを期限内に提出したからといって、必ず単位が認定される訳ではない。

成績評価に関する質問をする際には、以上の点を踏まえ、自分が一定の評価に値する内容のレポート等を提出していたかを確認する。今後の学習に生かすために自分に何が足らなかったかを知りたい場合は、その旨を具体的に成績評価質問票に記入する。

10 修了認定者の発表

修了認定者は、3月中旬（9月修了の場合は9月中旬）にCampusSquareで発表する。

1 所属する研究科以外の科目履修・聴講

大学院生は、指導教員が教育上有益と認めるときは、以下に述べる所定の手続きを経た上で、他の研究科および学部
の授業科目を履修または聴講することができる。

なお、博士後期課程に在学する大学院生が、前期課程の科目を履修または聴講するときも、同様の手続きを経ることとする。

(1) 授業科目の履修・聴講

【博士前期・修士課程学生】

他研究科博士前期・修士課程（所属研究科の他専攻科目を含む）の授業科目を履修または聴講する場合は、指導教員および当該授業科目担当教員の許可を得る。

学部の専門教育科目・全学共通履修科目の授業科目を履修または聴講する場合は、指導教員の許可を得る。

【博士後期課程学生】

博士前期・修士課程（所属研究科を含む）の授業科目を履修または聴講する場合は、指導教員および当該授業科目担当教員の許可を得る。

学部の専門教育科目・全学共通履修科目の授業科目を履修または聴講する場合は、指導教員の許可を得る。

＜注意＞受講者数に制限が設けられた科目で受入れ余地のない場合は、履修または聴講することができない。

科目履修とは、許可された授業科目を受講し、試験（レポート等を含む）に合格した場合、その科目の単位が修得できる。

聴講とは、許可された授業科目を受講することはできるが、単位を修得することはできない。

(2) 履修上の注意事項

- ① 在学中に履修および聴講できる所属専攻以外の科目の単位数の合計は、30単位を超えることができない。
ただし、資格取得のために必要な場合に限り、研究科の承認を得て30単位を超えることができることとする。
- ② 単位を修得した科目は、成績関連書類（成績通知書・成績証明書）に記載する。
- ③ 他研究科の授業科目を履修して修得した単位は、単位認定申請により研究科委員会で認められたもの以外は、修了要件単位に含めない。ただし、資格取得に必要な単位として算入することができる。
- ④ 所属する研究科以外における科目履修により、教員免許状（教育職員免許状）および司書・学芸員の資格取得を予定している場合は、事前に教職・司書・学芸員教育センターまたは教学事務室に申し出る。
- ⑤ 履修・聴講いずれの場合も授業料を必要としない。

(3) 手続き

- ① 教務事務室・教学事務室にて『科目履修・聴講許可願』を受け取り、履修（聴講）を希望する科目を記入する。

【他研究科の科目（所属研究科の他専攻科目を含む）】

大学院履修要覧の他研究科（所属研究科の他専攻科目を含む）のカリキュラム表を確認する。

【学部の専門教育科目】

原則として、「他学部・他学科開放科目」のみ申請可。事前に、CampusSquareに掲載された「他学部・他学科開放科目一覧」で該当科目を確認する。

なお、「他学部・他学科開放科目」に含まれていない科目を履修（聴講）する必要がある場合は、事前に教務事務室・教学事務室へ申し出る。

【全学共通履修科目】

大学院生に開放された科目のみ申請可。事前に、教務事務室・教学事務室に設置された『所属外科目履修・聴講用 開放科目一覧』にて大学院生への開放科目を確認する（ただし、学部生の一次登録の結果により空席のある科目のみ申請可。空席状況についてはCampusSquareのリンク「履修登録の注意事項」で確認する）。

- ② 指導教員の許可を得る。
- ③ 博士前期・修士課程学生が他研究科の科目（所属研究科の他専攻科目を含む）を履修（聴講）する場合は、当該授業科目担当教員の許可を得る。後期課程学生が博士前期・修士課程（所属研究科を含む）の科目を履修（聴講）する場合は、当該授業科目担当教員の許可を得る。
- ④ 履修一次登録日～追加登録最終日の17:00の間に教務事務室・教学事務室へ『科目履修・聴講許可願』を提出する。また、「別途申込」となっている科目についても、履修（聴講）を予定している場合は、履修一次登録日～追加登録最終日の17:00の間に提出する。所定の用紙以外は、申請期間内であっても一切受け付けられない（Web履修登録やOCR用紙での登録はできない）。なお、一次登録の結果、抽選や履修定員の超過等で受け入れできない場合があるため、「履修登録の注意事項」で確認する。それによる変更は認めるので、申請期間内に手続きする。
- ⑤ 最終的な履修（聴講）の可否は、必ず各自CampusSquareの「履修（履修登録・登録状況照会）」で確認する（抽選や履修定員の超過など、履修登録状況や各科目の開講主体の判断によって受け入れが認められない場合がある）。
- ⑥ 授業開始直後の担当教員の履修者名簿には氏名が記載されていないため、初回の授業に出席した際に履修（聴講）の意思を担当教員に申し出る。
- ⑦ 他研究科の授業科目を履修し修得した単位について、その一部またはすべてを修了要件単位として認定を希望する場合は、『科目履修・聴講許可願』と一緒に『単位認定申請書（他研究科科目履修）』を提出する。
- ⑧ 申請期間終了後の申請科目の追加・変更・取り下げは原則として認められない。

2 単位の認定

（1）単位認定の対象

① 入学前に他の大学院で修得した単位

学生が、本大学院に入学する前に他の大学院において修得した単位は、教育上有益と認める場合、15単位を上限とし、入学後本大学院において修得したものとみなして認定することができる（大学院学則第30条）。

② 入学前に本大学院科目等履修生として修得した単位(学部4年次に研究科開放科目として修得した単位を含む)

学生が、入学前に本大学院科目等履修生として修得した当該研究科の単位は、当該研究科の規程に定めるところにより、入学後当該研究科において修得したものとみなして認定することができる。

③ 入学後に他の大学院で修得した単位

学生が、入学後に他の大学院において履修した授業科目について修得した単位は、15単位を上限として本大学院において修得したものとみなして認定することができる（大学院学則第29条）。

④ 入学後に所属研究科以外で修得した単位

学生が所属する研究科以外の研究科において修得した単位は、当該研究科規程に定める単位数を上限として、当該研究科において修得したものとみなして認定することができる。

上記①～④のいずれの場合も、審査の結果単位認定されない場合がある。

また、上記①と③により認定できる単位数は合わせて20単位を超えないものとする。

大学院学則第32条による「留学」の場合は、留学生派遣規程により、上記③の扱いとし、手続きについては別途、教務事務室・教学事務室より指示する。

(2) 手続き

上記①～④で修得した単位の認定を希望する場合は、以下の要領で所定の書類を教務事務室・教学事務室に提出する。

入学前の既修得単位の認定

履修先	提出書類	提出場所	承認機関	提出期間	単位認定の上限
他の大学院 (海外の大学院を含む)	1) 単位認定申請書 2) 成績証明書 ※ 3) 授業概要の写し 注) 履修先が海外の大学院の場合、授業科目の時間数・期間を明記した書類	教務事務室 教学事務室	所属研究科 委員会	入学後1ヶ月以内	15単位
本大学院 (当該研究科の 研究科開放科目)	1) 単位認定申請書 2) 成績証明書 ※				研究科規程で定めるとおり

入学後の修得単位の認定

履修先	提出書類	提出場所	承認機関	提出期間	単位認定の上限
他の大学院 (海外の大学院を含む)	1) 単位認定申請書 2) 成績証明書 ※ 3) 授業概要の写し 注) 履修先が海外の大学院の場合、授業科目の時間数・期間を明記した書類	教務事務室 教学事務室	所属研究科 委員会	随時	15単位
本大学院 (他研究科)	1) 単位認定申請書 (他研究科科目履修)			「1 所属する研究科以外の科目履修」の(3)手続きに記載されている申請期間	研究科規程で定めるとおり

※ 履修した機関が発行するもの

3 資格の取得 (教育職員免許状、司書、学芸員)

教員免許状取得のための科目の履修ならびに資格取得については、「教育職員免許状の取得」の頁に加えて、別冊「教員免許状取得の手引き 教職課程便覧」および学部履修要覧の「教職課程科目」の頁を参照する。

司書資格、学芸員資格取得のための科目の履修については、学部履修要覧の「司書課程科目」「学芸員課程科目」の頁に加えて、別冊「司書・学芸員課程便覧 資格取得の手引き」を参照する。

なお、司書資格証明書および学芸員資格証明書と、それらの資格取得 (見込) 証明書については、本学から個別に発行しないため、各自で成績証明書や単位修得 (見込) 証明書を発行することで対応する。

1 教育職員免許状の取得

教育職員免許状（教員免許状）を取得する場合は、教職・司書・学芸員教育センターまたは教学事務室に申し出て、指示を受ける。

2 本大学院で取得できる教育職員免許状の種類および教科

研究科・専攻等	免許状の種類	教科
文化創造研究科 文化創造専攻 博士前期課程	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	国語
教育学研究科 発達教育専攻 修士課程	小学校教諭専修免許状	
グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科 言語文化コース 博士前期課程	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	英語
ビジネス研究科 ビジネス専攻 博士前期課程	高等学校教諭専修免許状	商業

※博士後期課程で教員免許状取得を目指す学生は、所属する研究科以外の科目履修の手続きをすること。

3 教育職員免許状取得のための基礎資格と修得単位

免許状の種類	基礎資格	大学院において修得することを必要とする科目の最低修得単位数			
		大学が独自に設定する科目			
		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目
高等学校教諭専修免許状	修士の学位を有すること			24 [*]	
中学校教諭専修免許状				24 [*]	
小学校教諭専修免許状				24 [*]	

※次頁に掲げる別表に指定されている授業科目より24単位以上修得する。

専修免許状を取得する場合は、併せて同一学校種・教科の一種免許状を取得していなければならない。

別 表

文化創造研究科 文化創造専攻

中・高専免（国 語）	
国文学特殊講義Ⅰ a	国文学特殊演習Ⅰ a
国文学特殊講義Ⅰ b	国文学特殊演習Ⅰ b
国文学特殊講義Ⅱ a	国文学特殊演習Ⅱ a
国文学特殊講義Ⅱ b	国文学特殊演習Ⅱ b
国文学特殊講義Ⅲ a	国文学特殊演習Ⅲ a
国文学特殊講義Ⅲ b	国文学特殊演習Ⅲ b
国文学特殊講義Ⅳ a	国文学特殊演習Ⅳ a
国文学特殊講義Ⅳ b	国文学特殊演習Ⅳ b
国文学特殊講義Ⅴ a	国文学特殊演習Ⅴ a
国文学特殊講義Ⅴ b	国文学特殊演習Ⅴ b
国文学特殊講義Ⅵ a	国文学特殊演習Ⅵ a
国文学特殊講義Ⅵ b	国文学特殊演習Ⅵ b
国文学特殊講義Ⅶ a	国文学特殊演習Ⅶ a
国文学特殊講義Ⅶ b	国文学特殊演習Ⅶ b
国語学特殊講義 a	国語学特殊演習 a
国語学特殊講義 b	国語学特殊演習 b

教育学研究科 発達教育専攻

小 専 免	
教育学特講 a	特別支援教育特講 a
教育学特講 b	特別支援教育特講 b
教育心理学特講 a	国語教育特講 a
教育心理学特講 b	国語教育特講 b
生涯学習特講 a	算数科教育特講 a
生涯学習特講 b	算数科教育特講 b
発達心理学特講 a	科学教育特講 a
発達心理学特講 b	科学教育特講 b
幼児教育特講 a	社会科教育特講 a
幼児教育特講 b	社会科教育特講 b
運動発達学特講 a	スポーツ教育特講 a
運動発達学特講 b	スポーツ教育特講 b
創造性教育特講 a	教育メディア論
創造性教育特講 b	学校カウンセリング
	生涯学習指導者論

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科 グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻
言語文化コース

中・高専免（英 語）	
英語統語論特講	英語統語論演習
英語意味論特講	英語意味論演習
英語音声学特講	英語音声学演習
英語形態論特講	英語形態論演習
英語教育特講	英語教育演習
アメリカ文学特講	アメリカ文学演習
イギリス文学特講	イギリス文学演習
表象文化特講	表象文化演習
アイルランド文学特講	アイルランド文学演習
	文芸翻訳
	英語教授法

ビジネス研究科 ビジネス専攻

高専免（商 業）	
マーケティング戦略特講Ⅰ	財務会計特講Ⅰ
マーケティング戦略特講Ⅱ	財務会計特講Ⅱ
サービスマーケティング特講Ⅰ	財務諸表分析特講Ⅰ
サービスマーケティング特講Ⅱ	財務諸表分析特講Ⅱ
経営戦略特講Ⅰ	国際会計特講Ⅰ
経営戦略特講Ⅱ	国際会計特講Ⅱ
ものづくり経営特講Ⅰ	原価計算特講Ⅰ
ものづくり経営特講Ⅱ	原価計算特講Ⅱ
国際ビジネス特講Ⅰ	監査論特講Ⅰ
国際ビジネス特講Ⅱ	監査論特講Ⅱ

文化創造研究科 文化創造専攻

1 ディプロマ・ポリシー(人材養成像)

(1) 博士前期課程

文化創造研究科博士前期課程では、高度な知識・技術を有する専門的職業人を養成することを主眼にするとともに、現代社会が要請する科学技術と精神文化との融合のあり方について、文化創造という観点から様々な課題の解決に向けた提案を行い得る人材を育てることを教育目的とし、以下の能力を修得した学生に対して修士の学位を授与する。

- ① 一定以上の論理的思考力を有し、それをもって現代社会におけるさまざまな課題を発見し、解決するための提案をおこなうことができる。
- ② 各専門分野に関する一定以上の学識ならびに幅広い教養を修得している。
- ③ 自らの研究テーマに必要な研究方法を確実に身につけ、その研究テーマについての先行研究を踏まえた上で、文化創造という社会的使命に即した新たな知見を提示することができる。

以上の能力を修得するために、1年または2年以上在学して必要な研究指導を受けた上で、30単位以上を修得し、修士の学位論文（以下、「修士論文」という。）の審査および学位試験に合格することをもって修了要件とする。

修士論文は学術または教育的価値によって評価する。

なお、専修または専攻分野によっては、作品制作をもって修士論文に代えることができる。その場合は、あらかじめ専修としての認定を要することとする。

(2) 博士後期課程

文化創造研究科博士後期課程では、前期課程での学修・研究成果を踏まえて、専門分野における研究を一層深化発展させることにより、時代の要請に応える特に高度な技術・識見を有する専門職業人を養成するとともに、自立して活動ができる研究後継者を育成することを目的とし、以下の能力を修得した学生に対して博士の学位を授与する。

- ① 高度な論理的思考力を有し、それをもって現代社会におけるさまざまな課題を発見し、解決するための提案をおこなうことができる。
- ② 各専門分野に関する高度な学識ならびに幅広い教養を修得している。
- ③ 自らの研究テーマに必要な研究方法を確実に身につけ、その研究テーマについての先行研究を踏まえた上で、文化創造という社会的使命に即した新たな知見を提示することができる。
- ④ 当該の研究分野に独創的な知見を新たに加えることにより、当該分野に貢献する能力を備えている。

以上の能力を修得するために、原則として3年以上在学して必要な研究指導を受けた上で、博士の学位論文（以下、「博士論文」という。）の審査および学位試験に合格することをもって修了要件とする。ただし、2017年度以降の入学または進学者は、さらに研究指導担当教員の授業科目の履修により12単位以上を修得しなければならない。

博士論文は、原則として一つの課題について考究したものであって、体系性を有しかつ独創的なものでなければならず、その学術的価値によって評価する。

2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの)

(1) 博士前期課程

文化創造研究科博士前期課程では、国文学、図書館情報学、情報デザイン・システム、創作表現、メディアプロデュース、建築・インテリアデザインの各専門分野において、高度な知識・技術を有する専門的職業人を養成することを主眼にするとともに、現代社会が要請する科学技術と精神文化との融合のあり方について、文化創造という観点から様々な課題の解決に向けた提案を行い得る人材を育てることを教育目標とする。この目標を達成するため、1・2年次に履修する「特殊講義科目」および「特殊演習科目」、2年次に修士論文作成のため履修する「特殊研究科目」を専修ごとに系統的に開講することとし、ディプロマ・ポリシーに沿って以下のような方針でカリキュラムを編成する。

① 特殊講義科目

講義を中心とした授業により各分野に関する一定以上の学識並びに幅広い教養を修得する。すべて1・2年次の選択科目とし、隔年で開講する。

② 特殊演習科目

演習を中心とした授業により各分野に関連する課題の発見と解決策の提案に必要な実践的能力および応用力を身につける。すべて1・2年次の選択科目とし、隔年で開講する。

③ 特殊研究科目

修士論文の作成について、研究指導担当教員から直接指導を受け、自らの研究テーマに必要な研究方法を確実に身につけ、先行研究を踏まえた上で新たな知見を提示することを目指す。開講は2年次とし、選択必修とする。

これらの科目は、専修ごとに系統的に編成するが、学際性を推進するために専修横断的な履修を可能とする。学生は所属する専修の開設科目を中心に履修しつつも、自由に他専修の開設科目を履修することができる。

以上の授業科目の学修効果をさらに高めるために、前期課程では、全専修合同で開催する修士論文中間発表会および院生研究発表会への参加と口頭発表を課し、学修・研究の専門性を深め学際性の幅を広げることを目指す。

また、指導教員は担当学生の学期ごとの学業成績を把握し、修了要件を満たすように学生の状況に合わせて適切な指導と助言を行う。

(2) 博士後期課程

文化創造研究科博士後期課程では、前期課程での学修・研究成果を踏まえて、国文学、図書館情報学、情報デザイン・システム、創作表現、メディアプロデュース、建築・インテリアデザインの各専門分野における研究を一層深化発展させることにより、時代の要請に応える特に高度な技術・識見を有する専門職業人を養成するとともに、自立して活動ができる研究後継者を育成することを目的とする。この目的を達成するために、博士論文作成を実質とする「特殊研究科目」を専修ごとに系統的に開講することとし、以下のような方針でカリキュラムを編成する。

特殊研究科目

研究指導担当教員の授業科目を3年以上履修して、博士論文作成のための指導を受けることとする。その場合、必要に応じて他の教員の授業科目も選択履修を可能とするが、原則として研究指導担当教員の授業によって12単位以上を修得することとする。

また、必要に応じて研究指導補助教員を置くことにより、その指導を加えて隣接または異分野からの批判・評価に堪える、広い視野に立ったより独創的で高度な自立的研究が展開できる環境を整える。

以上の授業科目の学修効果をさらに高めるために、後期課程では、全専修合同で開催する院生研究発表会で毎年1回以上口頭発表することを課し、専門性と学際性の双方に秀でた研究活動を推進する。また、指導教員は担当学生の状況に合わせて、博士論文計画書作成から博士論文提出までの各段階で適切な指導と助言を行う。

3 アドミッション・ポリシー

教育・研究目的

科学技術の発展とともに人類の文明は長足の進歩を遂げたが、一方では精神文化の荒廃をも招く皮肉な事態を迎えている。そのような現代社会を生きる我々は、古人の精神的到達と蓄積された知恵とに学び、一方では文明の本質を見極めかつその成果としての利器を使いこなしながら、生活の規範ともいべき新しい「文化」を創造していかなければならない。その方法を実践的に探求することが、本研究科の教育・研究目的である。

そのために、本研究科は国文学、図書館情報学、情報デザイン・システム、創作表現、メディアプロデュースおよび建築・インテリアデザインという、「表象」という点で共通項を持つ異分野をあえて一つの専攻にまとめた。そして、この6専修のうちの一つを学びのホームグラウンドとして定め、そこを起点として他の専修にも幅を広げることのできる学際的な教育・研究活動を行う。

その結果として、博士前期課程においては、専修の分野に関する高度の専門的知識および能力ならびに当該専修の分野における基礎的素養を身につける。また、博士後期課程においては、広い視野に立つ精深な学識を身につけるとともに、専修の分野における研究能力またはこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培う。

学生に期待すること

博士前期課程においては、各専修の専門的な研究の深化にとどまらず、他専修の学修を通じた学際的な視野をも身につけることにより、多角的あるいは複眼的な思考法および表現法を獲得することを期待する。

博士後期課程においては、博士前期課程における学修・研究成果を踏まえて、社会、文化および人間相互の関わりをより広い視野に立って探究し、時代の要請に応え得る特に高度な専門的能力・識見を身につけることを期待する。

学生募集に際して重視すること

博士前期課程においては、自らの研究課題が現代社会における文化創造にどのように寄与できるのか、という問題意識について自覚的であるかどうか、そしてそれを不断に持ち続けられるかどうかを重視する。

博士後期課程においては、博士前期課程における学修・研究を踏まえて、独自性と普遍性を併せ持つさらに高度な研究成果を上げ得るかどうか、そしてそれが文化創造に具体的に寄与し得る提案としての可能性を有しているかどうかを重視する。

入学前学修として推奨すること

博士前期課程においては、学びのホームグラウンドの確立、言い換えるなら現在在籍している学部・学科の専門分野（どんな分野であれ）の学修を可能な限り深めておくことを推奨する。

博士後期課程においては、博士前期課程の成果に対する徹底的な検証と、今後の研究に関する精密な計画の立案を推奨する。

1 修業・在学年限

修業年限は2年を標準とする。

在学年限は4年とする（ただし、休学期間は在学年数に算入しない）。

2 修了要件

博士前期課程に2年以上在学し、必要な研究指導を受けた上で、次の各号に掲げる要件をすべて満たした者に、修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りることとする。

① 修得単位

授業科目を履修して30単位以上を修得すること。

② 学位論文

修士論文の審査に合格すること。

③ 学位試験

修士論文を中心とした学位試験に合格すること。

ただし、①の修得単位については、所属専修に開設されている授業科目中より、次の要件を満たした上で24単位以上を修得しなければならない。

(i) 国文学専修においては、国文学特殊講義および国語学特殊講義科目中から8単位以上、日本文化論特殊講義科目中から4単位以上、国文学特殊演習および国語学特殊演習科目中から8単位以上、国文学特殊研究および国語学特殊研究科目中から4単位以上を修得すること。

(ii) 図書館情報学専修においては、図書館情報学特殊講義科目中から8単位以上、図書館情報学特殊演習科目中から8単位以上、図書館情報学特殊研究科目中から4単位以上を修得すること。

(iii) 情報デザイン・システム専修においては、情報デザイン・システム特殊講義科目中から8単位以上、情報デザイン・システム特殊演習科目中から8単位以上、情報デザイン・システム特殊研究科目中から4単位以上を修得すること。

(iv) 創作表現専修においては、創作表現特殊講義科目中から8単位以上、創作表現特殊演習科目中から8単位以上、創作表現特殊研究科目中から4単位以上を修得すること。

(v) メディアプロデュース専修においては、メディアプロデュース特殊講義科目中から6単位以上、メディアプロデュース特殊演習科目中から6単位以上、メディアプロデュース特殊研究科目中から4単位以上を修得すること。

(vi) 建築・インテリアデザイン専修においては、建築・インテリアデザイン特殊講義科目中から6単位以上、建築・インテリアデザイン特殊演習科目中から6単位以上、建築・インテリアデザイン特殊研究科目中から4単位以上を修得すること。

3 修士論文

(1) 研究指導教員届の提出

学生は入学年次の4月末日までに、研究指導教員届を提出しなければならない。

(2) 履修計画書および研究計画書の提出

学生は、入学後定められた教員の研究指導を受けて、履修計画書ならびに研究課題を含む研究計画書を作成し、入学年次の6月末日までに提出しなければならない。

(3) 学内学会における研究発表

学生は、在学中に開催される公開の学内学会研究発表会において、口頭による研究発表を1回以上行わなければならない。

(4) 修士論文中間発表会における発表

学生は、2年次の秋季に開催される公開の修士論文中間発表会において、口頭による研究発表を必ず行わなければならない。

(5) 修士論文の提出時期

修士論文は、課程修了予定学期末日から逆算して2ヶ月以上前の指定される日時に、指定の様式により提出しなければならない。

(6) 修士論文の審査

修士論文の審査は、研究指導教員を含む3人以上の審査委員により、日時を指定して行う。審査委員は本研究科の教員2人以上をもって充てるが、必要に応じて本学の学部または他の研究科もしくは他の大学の教員またはこれに準じる者をもって充てることがある。

(7) 修士論文の提出要件

修士論文または修士制作は、原則として一つの課題または主題について考究または制作したものであって、在籍中の学修および研究の成果が直接に反映されたものでなければならない。

専修ごとの提出要件は、原則として次に掲げるとおりとする。

国文学専修：独自の課題設定、実証性および論理性を有する論述ならびに説得力に富む結論が実現され、かつ表題、本文、補注、参考文献目録を含めて、400字詰め原稿用紙100枚相当以上の学術論文であること。

図書館情報学専修：図書館情報学分野において独自の課題設定、実証性および論理性を有する論述ならびに説得力に富む結論が実現され、かつ表題、本文、図表、参考文献を含めてA4判用紙40字×36行／枚で30枚以上の学術論文であること。

情報デザイン・システム専修：情報デザイン・システム分野において独自の課題設定、実証性および論理性を有する論述ならびに説得力に富む結論が実現され、かつ表題、本文、図表、参考文献を含めてA4判用紙40字×36行／枚で30枚以上の学術論文であること。

創作表現専修：修士論文の場合は、国文学専修に同じ。修士制作の場合は次の各ジャンルから選択するが、いずれも現代社会の課題と要請に応えた内容を持ち、文学作品として鑑賞に堪える文章で書かれた作品であること。量的基準は（ ）内に示すとおりとする。

- ・小説（400字詰め原稿用紙100枚相当以上）
- ・児童文学（同上）
- ・戯曲（30,000字以上）
- ・シナリオ（200字詰め原稿用紙200枚相当程度）

メディアプロデュース専修：修士論文の場合は、独自の課題設定、実証性および論理性を有する論述ならびに説得力に富む結論が実現され、かつ表題、本文、補注、参考文献目録を含めてA4判用紙40字×36行／枚で30枚以上の学術論文であること。

修士制作の場合は、独自の制作主題を設定し、これを表現する適切な手法を用いて作品を完成させること。

以下に作品例を示す。

- ・映像制作（30分程度の作品）
- ・デザイン、写真など（実物作品、デジタル媒体による作品など数点）もしくはこれらと量的に同等と認められる作品。

いずれの場合も、原則的に制作仕様書を含む作品集（ポートフォリオ）としてまとめて添付する。

論文と制作を複合する形式の場合は、課題や主題の設定に応じて上記に準ずる量的基準を満たすこと。

建築・インテリアデザイン専修：都市・環境・建築・インテリアの分野において、現代社会の課題に対してコミットするテーマ設定とし、綿密なリサーチに基づいた分析・考察を行い、修士論文または修士制作としてふさわしいものとする。

各ジャンルの量的基準は、次に掲げる（ ）内に示すとおりとする。

- ・論文（文章、図表およびデータ等を含めて、A4判用紙で50枚以上）
- ・設計（コンセプト、図面およびパース等をA1判用紙8枚にまとめ、模型を添える）
- ・制作（家具・照明等のプロダクトの制作物とし、コンセプト、図面およびパース等をA1判用紙4枚にまとめて添える）
- ・建築、インテリア等の実作（コンセプト、図面、制作過程、竣工写真等をA1判用紙8枚にまとめ、模型を添える）

（8）修士論文の審査基準

修士論文は、次の項目ごとにその適否を審査し、それらを総合して合否を判断する。修士制作については、この基準を準用する。

- ①研究課題が、現代社会の問題解決にとって適切か
あるいは新たな文化創造のための契機となり得るか
- ②結論が、現代社会の問題解決のための有効な提案となっているか
あるいは新たな文化創造のための有益な提言となっているか
- ③研究の過程において、次の要件が満たされているか
 - （i）論理性
 - （ii）実証性
 - （iii）資料処理の適切性
 - （iv）創造性
- ④先行研究の踏襲と超克が実現できているか
- ⑤課題に対する研究方法は妥当か
- ⑥在籍中の学修・研究成果が反映されているか
- ⑦専門分野の研究の進展に寄与できるか

4 学位試験

(1) 学位試験の時期および方法

学位試験は、修士論文の審査終了後、筆記または口頭で行い、学位審査委員がこれに当たる。

(2) 学位審査委員

学位審査委員は、修士論文審査委員をもって充てる。

(3) 学位試験の内容

学位試験は、修士論文の内容を中心として、学識および研究能力または高度の専門性を要する職業等に適応する能力について審査する。

(4) 学位試験の評価基準

学位試験は、修士論文（修士制作）の審査を踏まえた上で次の項目ごとにその適否を審査し、それらを総合して合否を判断する。

- ①専門分野に関する学識ならびに幅広い教養が看取されるか
- ②高度な知識・技術を要する専門的職業人として社会に貢献できるか
- ③研究の継続により不断の自己変革をなし得るか

5 修了認定

研究科委員会は、学生の単位修得状況、修士論文の審査および学位試験の結果に関する報告をもとに、課程修了認定の可否を審議する。

6 学位の名称

専修ごとに授与する学位の名称は、次のとおりとする。

- | | |
|---------------------|------------|
| (i) 国文学専修 | 修士（文学） |
| (ii) 図書館情報学専修 | 修士（図書館情報学） |
| (iii) 情報デザイン・システム専修 | 修士（学術） |
| (iv) 創作表現専修 | 修士（学術） |
| (v) メディアプロデュース専修 | 修士（学術） |
| (vi) 建築・インテリアデザイン専修 | 修士（学術） |

1 文化創造専攻科目

前期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
国文学専修	321013	国文学特殊講義Ⅰa		2	1・2	前期	左のうち8単位以上選択必修	国文学特殊講義と国文学特殊演習は隔年開講する。(国文学特殊講義Ⅰa、Ⅰbは2026年度に開講する。)
	321014	国文学特殊講義Ⅰb		2	1・2	後期		
	321001	国文学特殊講義Ⅱa		2	1・2	前期		国文学特殊講義と国文学特殊演習は隔年開講する。(国文学特殊講義Ⅱa、Ⅱbは2026年度に開講する。)
	321002	国文学特殊講義Ⅱb		2	1・2	後期		
	321003	国文学特殊講義Ⅲa		2	1・2	前期		国文学特殊講義と国文学特殊演習は隔年開講する。(国文学特殊講義Ⅲa、Ⅲbは2025年度に開講する。)
	321004	国文学特殊講義Ⅲb		2	1・2	後期		
	321005	国文学特殊講義Ⅳa		2	1・2	前期		
	321006	国文学特殊講義Ⅳb		2	1・2	後期		
	321007	国文学特殊講義Ⅴa		2	1・2	前期		
	321008	国文学特殊講義Ⅴb		2	1・2	後期		
	321015	国文学特殊講義Ⅵa		2	1・2	前期		国文学特殊講義と国文学特殊演習は隔年開講する。(国文学特殊講義Ⅵa、Ⅵbは2026年度に開講する。)
	321016	国文学特殊講義Ⅵb		2	1・2	後期		
	321017	国文学特殊講義Ⅶa		2	1・2	前期		国文学特殊講義と国文学特殊演習は隔年開講する。(国文学特殊講義Ⅶa、Ⅶbは2025年度に開講する。)
	321018	国文学特殊講義Ⅶb		2	1・2	後期		
	321011	国語学特殊講義a		2	1・2	前期	左のうち24単位以上選択必修	国語学特殊講義と国語学特殊演習は隔年開講する。(国語学特殊講義a、bは2025年度に開講する。)
	321012	国語学特殊講義b		2	1・2	後期		
	321101	日本文化論特殊講義Ⅰ		2	1・2	前期		
	321102	日本文化論特殊講義Ⅱ		2	1・2	後期		
	321103	日本文化論特殊講義Ⅲ		2	1・2	前期		
	321104	日本文化論特殊講義Ⅳ		2	1・2	前期		
国文学専修	321105	日本文化論特殊講義Ⅴ		2	1・2	後期	左のうち4単位以上選択必修	
	321106	日本文化論特殊講義Ⅵ		2	1・2	後期		
	321213	国文学特殊演習Ⅰa		2	1・2	前期	左のうち8単位以上選択必修	国文学特殊演習と国文学特殊講義は隔年開講する。(国文学特殊演習Ⅰa、Ⅰbは2025年度に開講する。)
	321214	国文学特殊演習Ⅰb		2	1・2	後期		
	321201	国文学特殊演習Ⅱa		2	1・2	前期		国文学特殊演習と国文学特殊講義は隔年開講する。(国文学特殊演習Ⅱa、Ⅱbは2025年度に開講する。)
	321202	国文学特殊演習Ⅱb		2	1・2	後期		
	321203	国文学特殊演習Ⅲa		2	1・2	前期		国文学特殊演習と国文学特殊講義は隔年開講する。(国文学特殊演習Ⅲa、Ⅲbは2026年度に開講する。)
	321204	国文学特殊演習Ⅲb		2	1・2	後期		
	321205	国文学特殊演習Ⅳa		2	1・2	前期		
	321206	国文学特殊演習Ⅳb		2	1・2	後期		
	321207	国文学特殊演習Ⅴa		2	1・2	前期		
	321208	国文学特殊演習Ⅴb		2	1・2	後期		
	321215	国文学特殊演習Ⅵa		2	1・2	前期		国文学特殊演習と国文学特殊講義は隔年開講する。(国文学特殊演習Ⅵa、Ⅵbは2025年度に開講する。)
	321216	国文学特殊演習Ⅵb		2	1・2	後期		

前期課程

科目群		科目番号	科 目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件		備 考	
国文学専修	特殊演習科目	321217	国文学特殊演習Ⅶa		2	1・2	前期			国文学特殊演習と国文学特殊講義は隔年開講する。(国文学特殊演習Ⅶa、Ⅶbは2026年度に開講する。)	
		321218	国文学特殊演習Ⅶb		2	1・2	後期				
		321211	国語学特殊演習a		2	1・2	前期				
		321212	国語学特殊演習b		2	1・2	後期				
	特殊研究科目	321311	国文学特殊研究MⅠa		2	2	前期	左のうち4単位以上選択必修			
		321312	国文学特殊研究MⅠb		2	2	後期				
		321301	国文学特殊研究MⅡa		2	2	前期				
		321302	国文学特殊研究MⅡb		2	2	後期				
		321303	国文学特殊研究MⅢa		2	2	前期				
		321304	国文学特殊研究MⅢb		2	2	後期				
		321315	国文学特殊研究MⅣa		2	2	前期				
		321316	国文学特殊研究MⅣb		2	2	後期				
		321317	国文学特殊研究MⅤa		2	2	前期				
		321318	国文学特殊研究MⅤb		2	2	後期				
		321313	国文学特殊研究MⅥa		2	2	前期				
		321314	国文学特殊研究MⅥb		2	2	後期				
		321309	国語学特殊研究Ma		2	2	前期				
		321310	国語学特殊研究Mb		2	2	後期				
図書館情報学専修	特殊講義科目	323021	図書館情報学特殊講義Ⅰa		2	1・2	前期	左のうち8単位以上選択必修	左のうち24単位以上選択必修	図書館情報学特殊講義と図書館情報学特殊演習は隔年開講する。(図書館情報学特殊講義Ⅲa、Ⅲbは2026年度に開講する。)	
		323022	図書館情報学特殊講義Ⅰb		2	1・2	後期				
		323023	図書館情報学特殊講義Ⅱa		2	1・2	前期				
		323024	図書館情報学特殊講義Ⅱb		2	1・2	後期				
		323025	図書館情報学特殊講義Ⅲa		2	1・2	前期				
		323026	図書館情報学特殊講義Ⅲb		2	1・2	後期				
		323027	図書館情報学特殊講義Ⅳa		2	1・2	前期				
		323028	図書館情報学特殊講義Ⅳb		2	1・2	後期				
		323029	図書館情報学特殊講義Ⅴa		2	1・2	前期				
		323030	図書館情報学特殊講義Ⅴb		2	1・2	後期				
	特殊演習科目	323121	図書館情報学特殊演習Ⅰa		2	1・2	前期	左のうち8単位以上選択必修			図書館情報学特殊演習と図書館情報学特殊講義は隔年開講する。(図書館情報学特殊演習Ⅲa、Ⅲbは2025年度に開講する。)
		323122	図書館情報学特殊演習Ⅰb		2	1・2	後期				
		323123	図書館情報学特殊演習Ⅱa		2	1・2	前期				
		323124	図書館情報学特殊演習Ⅱb		2	1・2	後期				
		323125	図書館情報学特殊演習Ⅲa		2	1・2	前期				
		323126	図書館情報学特殊演習Ⅲb		2	1・2	後期				
		323127	図書館情報学特殊演習Ⅳa		2	1・2	前期				
		323128	図書館情報学特殊演習Ⅳb		2	1・2	後期				
		323129	図書館情報学特殊演習Ⅴa		2	1・2	前期				
		323130	図書館情報学特殊演習Ⅴb		2	1・2	後期				
	特殊研究科目	323217	図書館情報学特殊研究MⅠa		2	2	前期	左のうち4単位以上選択必修			
		323218	図書館情報学特殊研究MⅠb		2	2	後期				
		323219	図書館情報学特殊研究MⅡa		2	2	前期				
		323220	図書館情報学特殊研究MⅡb		2	2	後期				
		323221	図書館情報学特殊研究MⅢa		2	2	前期				
		323222	図書館情報学特殊研究MⅢb		2	2	後期				

前期課程

科目群	科目番号	科 目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件		備 考
図書情報学専修	323223	図書情報学特殊研究MIVa		2	2	前期			
	323224	図書情報学特殊研究MIVb		2	2	後期			
	323225	図書情報学特殊研究MVa		2	2	前期			
	323226	図書情報学特殊研究MVb		2	2	後期			
情報デザイン・システム専修	特殊講義科目	323051 情報デザイン・システム特殊講義Ⅰa		2	1・2	前期	左の うち 8単位 以上 選択 必修		情報デザイン・システム特殊講義と情報デザイン・システム特殊演習は隔年開講する。(情報デザイン・システム特殊講義Ⅰa～Ⅲbは2026年度に開講する。)
		323052 情報デザイン・システム特殊講義Ⅰb		2	1・2	後期			
		323053 情報デザイン・システム特殊講義Ⅱa		2	1・2	前期			
		323054 情報デザイン・システム特殊講義Ⅱb		2	1・2	後期			
		323055 情報デザイン・システム特殊講義Ⅲa		2	1・2	前期			
		323056 情報デザイン・システム特殊講義Ⅲb		2	1・2	後期			
		323057 情報デザイン・システム特殊講義Ⅳa		2	1・2	前期			
		323058 情報デザイン・システム特殊講義Ⅳb		2	1・2	後期			
		323059 情報デザイン・システム特殊講義Ⅴa		2	1・2	前期			
		323060 情報デザイン・システム特殊講義Ⅴb		2	1・2	後期			
		323061 情報デザイン・システム特殊講義Ⅵa		2	1・2	前期			
		323062 情報デザイン・システム特殊講義Ⅵb		2	1・2	後期			
	特殊演習科目	323151 情報デザイン・システム特殊演習Ⅰa		2	1・2	前期	左の うち 8単位 以上 選択 必修	左の うち 24単位 以上 選択 必修	情報デザイン・システム特殊演習と情報デザイン・システム特殊講義は隔年開講する。(情報デザイン・システム特殊演習Ⅰa～Ⅲbは2025年度に開講する。)
		323152 情報デザイン・システム特殊演習Ⅰb		2	1・2	後期			
		323153 情報デザイン・システム特殊演習Ⅱa		2	1・2	前期			
		323154 情報デザイン・システム特殊演習Ⅱb		2	1・2	後期			
		323155 情報デザイン・システム特殊演習Ⅲa		2	1・2	前期			
		323156 情報デザイン・システム特殊演習Ⅲb		2	1・2	後期			
		323157 情報デザイン・システム特殊演習Ⅳa		2	1・2	前期			
		323158 情報デザイン・システム特殊演習Ⅳb		2	1・2	後期			
		323159 情報デザイン・システム特殊演習Ⅴa		2	1・2	前期			
		323160 情報デザイン・システム特殊演習Ⅴb		2	1・2	後期			
		323161 情報デザイン・システム特殊演習Ⅵa		2	1・2	前期			
		323162 情報デザイン・システム特殊演習Ⅵb		2	1・2	後期			
	特殊研究科目	323251 情報デザイン・システム特殊研究MⅠa		2	2	前期	左の うち 4単位 以上 選択 必修		
		323252 情報デザイン・システム特殊研究MⅠb		2	2	後期			
		323253 情報デザイン・システム特殊研究MⅡa		2	2	前期			
		323254 情報デザイン・システム特殊研究MⅡb		2	2	後期			
		323255 情報デザイン・システム特殊研究MⅢa		2	2	前期			
		323256 情報デザイン・システム特殊研究MⅢb		2	2	後期			
		323257 情報デザイン・システム特殊研究MⅣa		2	2	前期			
		323258 情報デザイン・システム特殊研究MⅣb		2	2	後期			
		323259 情報デザイン・システム特殊研究MⅤa		2	2	前期			
		323260 情報デザイン・システム特殊研究MⅤb		2	2	後期			
創作表現専修	特殊講義科目	322011 創作表現特殊講義Ⅰa		2	1・2	前期	左の うち 8単位 以上 選択 必修	左の うち 24単位 以上 選択 必修	創作表現特殊講義と創作表現特殊演習は隔年開講する。(創作表現特殊講義Ⅱa、Ⅱbは2026年度に開講する。)
		322012 創作表現特殊講義Ⅰb		2	1・2	後期			
		322013 創作表現特殊講義Ⅱa		2	1・2	前期			
		322014 創作表現特殊講義Ⅱb		2	1・2	後期			
		322015 創作表現特殊講義Ⅲa		2	1・2	前期			
		322016 創作表現特殊講義Ⅲb		2	1・2	後期			

前期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件		備考
創作表現専修	特殊講義科目	322017 創作表現特殊講義Ⅳa		2	1・2	前期			創作表現特殊講義と創作表現特殊演習は隔年開講する。(創作表現特殊講義Ⅳa～Ⅵbは2026年度に開講する。)
		322018 創作表現特殊講義Ⅳb		2	1・2	後期			
		322019 創作表現特殊講義Ⅴa		2	1・2	前期			
		322020 創作表現特殊講義Ⅴb		2	1・2	後期			
		322021 創作表現特殊講義Ⅵa		2	1・2	前期			
		322022 創作表現特殊講義Ⅵb		2	1・2	後期			
	特殊演習科目	322111 創作表現特殊演習Ⅰa		2	1・2	前期	左の うち 8単位 以上 選択 必修		創作表現特殊演習と創作表現特殊講義は隔年開講する。(創作表現特殊演習Ⅱa、Ⅱbは2025年度に開講する。)
		322112 創作表現特殊演習Ⅰb		2	1・2	後期			
		322113 創作表現特殊演習Ⅱa		2	1・2	前期			創作表現特殊演習と創作表現特殊講義は隔年開講する。(創作表現特殊演習Ⅲa、Ⅲbは2026年度に開講する。)
		322114 創作表現特殊演習Ⅱb		2	1・2	後期			
		322115 創作表現特殊演習Ⅲa		2	1・2	前期			創作表現特殊演習と創作表現特殊講義は隔年開講する。(創作表現特殊演習Ⅳa～Ⅵbは2025年度に開講する。)
		322116 創作表現特殊演習Ⅲb		2	1・2	後期			
		322117 創作表現特殊演習Ⅳa		2	1・2	前期			
		322118 創作表現特殊演習Ⅳb		2	1・2	後期			
		322119 創作表現特殊演習Ⅴa		2	1・2	前期			
		322120 創作表現特殊演習Ⅴb		2	1・2	後期			
		322121 創作表現特殊演習Ⅵa		2	1・2	前期			
		322122 創作表現特殊演習Ⅵb		2	1・2	後期			
	特殊研究科目	322211 創作表現特殊研究ⅢⅠa		2	2	前期	左の うち 4単位 以上 選択 必修		
		322212 創作表現特殊研究ⅢⅠb		2	2	後期			
		322213 創作表現特殊研究ⅢⅡa		2	2	前期			
		322214 創作表現特殊研究ⅢⅡb		2	2	後期			
		322215 創作表現特殊研究ⅢⅢa		2	2	前期			
		322216 創作表現特殊研究ⅢⅢb		2	2	後期			
		322217 創作表現特殊研究ⅢⅣa		2	2	前期			
		322218 創作表現特殊研究ⅢⅣb		2	2	後期			
		322219 創作表現特殊研究ⅢⅤa		2	2	前期			
		322220 創作表現特殊研究ⅢⅤb		2	2	後期			
		322221 創作表現特殊研究ⅢⅥa		2	2	前期			
		322222 創作表現特殊研究ⅢⅥb		2	2	後期			
メディアプロデュース専修	特殊講義科目	324015 メディアプロデュース特殊講義Ⅰa		2	1・2	前期	左の うち 6単位 以上 選択 必修	左の うち 24単位 以上 選択 必修	メディアプロデュース特殊講義とメディアプロデュース特殊演習は隔年開講する。(メディアプロデュース特殊講義は2026年度に開講する。)
		324016 メディアプロデュース特殊講義Ⅰb		2	1・2	後期			
		324017 メディアプロデュース特殊講義Ⅱa		2	1・2	前期			
		324018 メディアプロデュース特殊講義Ⅱb		2	1・2	後期			
		324019 メディアプロデュース特殊講義Ⅲa		2	1・2	前期			
		324020 メディアプロデュース特殊講義Ⅲb		2	1・2	後期			
		324021 メディアプロデュース特殊講義Ⅳa		2	1・2	前期			
		324022 メディアプロデュース特殊講義Ⅳb		2	1・2	後期			
		324023 メディアプロデュース特殊講義Ⅴa		2	1・2	前期			
		324024 メディアプロデュース特殊講義Ⅴb		2	1・2	後期			
		324025 メディアプロデュース特殊講義Ⅵa		2	1・2	前期			
		324026 メディアプロデュース特殊講義Ⅵb		2	1・2	後期			

前期課程

科目群	科目番号	科 目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備 考
メディアプロデュース専修	324115	メディアプロデュース特殊演習Ⅰa		2	1・2	前期	左のうち6単位以上選択必修	メディアプロデュース特殊演習とメディアプロデュース特殊講義は隔年開講する。 (メディアプロデュース特殊演習は2025年度に開講する。)
	324116	メディアプロデュース特殊演習Ⅰb		2	1・2	後期		
	324117	メディアプロデュース特殊演習Ⅱa		2	1・2	前期		
	324118	メディアプロデュース特殊演習Ⅱb		2	1・2	後期		
	324119	メディアプロデュース特殊演習Ⅲa		2	1・2	前期		
	324120	メディアプロデュース特殊演習Ⅲb		2	1・2	後期		
	324121	メディアプロデュース特殊演習Ⅳa		2	1・2	前期		
	324122	メディアプロデュース特殊演習Ⅳb		2	1・2	後期		
	324123	メディアプロデュース特殊演習Ⅴa		2	1・2	前期		
	324124	メディアプロデュース特殊演習Ⅴb		2	1・2	後期		
	324125	メディアプロデュース特殊演習Ⅵa		2	1・2	前期		
	324126	メディアプロデュース特殊演習Ⅵb		2	1・2	後期		
特殊研究科目	324215	メディアプロデュース特殊研究MⅠa		2	2	前期	左のうち4単位以上選択必修	
	324216	メディアプロデュース特殊研究MⅠb		2	2	後期		
	324217	メディアプロデュース特殊研究MⅡa		2	2	前期		
	324218	メディアプロデュース特殊研究MⅡb		2	2	後期		
	324219	メディアプロデュース特殊研究MⅢa		2	2	前期		
	324220	メディアプロデュース特殊研究MⅢb		2	2	後期		
	324221	メディアプロデュース特殊研究MⅣa		2	2	前期		
	324222	メディアプロデュース特殊研究MⅣb		2	2	後期		
建築・インテリアデザイン専修	325013	建築・インテリアデザイン特殊講義Ⅰa		2	1・2	前期	左のうち6単位以上選択必修	建築・インテリアデザイン特殊講義と建築・インテリアデザイン特殊演習は隔年開講する。(建築・インテリアデザイン特殊講義は2026年度に開講する。)
	325014	建築・インテリアデザイン特殊講義Ⅰb		2	1・2	後期		
	325015	建築・インテリアデザイン特殊講義Ⅱa		2	1・2	前期		
	325016	建築・インテリアデザイン特殊講義Ⅱb		2	1・2	後期		
	325017	建築・インテリアデザイン特殊講義Ⅲa		2	1・2	前期		
	325018	建築・インテリアデザイン特殊講義Ⅲb		2	1・2	後期		
	325019	建築・インテリアデザイン特殊講義Ⅳa		2	1・2	前期		
	325020	建築・インテリアデザイン特殊講義Ⅳb		2	1・2	後期		
	325021	建築・インテリアデザイン特殊講義Ⅴa		2	1・2	前期		
	325022	建築・インテリアデザイン特殊講義Ⅴb		2	1・2	後期		
	325023	建築・インテリアデザイン特殊講義Ⅵa		2	1・2	前期		
	325024	建築・インテリアデザイン特殊講義Ⅵb		2	1・2	後期		
特殊演習科目	325113	建築・インテリアデザイン特殊演習Ⅰa		2	1・2	前期	左のうち6単位以上選択必修	建築・インテリアデザイン特殊演習と建築・インテリアデザイン特殊講義は隔年開講する。(建築・インテリアデザイン特殊演習は2025年度に開講する。)
	325114	建築・インテリアデザイン特殊演習Ⅰb		2	1・2	後期		
	325115	建築・インテリアデザイン特殊演習Ⅱa		2	1・2	前期		
	325116	建築・インテリアデザイン特殊演習Ⅱb		2	1・2	後期		
	325117	建築・インテリアデザイン特殊演習Ⅲa		2	1・2	前期		
	325118	建築・インテリアデザイン特殊演習Ⅲb		2	1・2	後期		
	325119	建築・インテリアデザイン特殊演習Ⅳa		2	1・2	前期		
	325120	建築・インテリアデザイン特殊演習Ⅳb		2	1・2	後期		
	325121	建築・インテリアデザイン特殊演習Ⅴa		2	1・2	前期		
	325122	建築・インテリアデザイン特殊演習Ⅴb		2	1・2	後期		
	325123	建築・インテリアデザイン特殊演習Ⅵa		2	1・2	前期		
	325124	建築・インテリアデザイン特殊演習Ⅵb		2	1・2	後期		

前期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
建築・インテリアデザイン専修	325213	建築・インテリアデザイン特殊研究MⅠa		2	2	前期	左のうち4単位以上選択必修	
	325214	建築・インテリアデザイン特殊研究MⅠb		2	2	後期		
	325215	建築・インテリアデザイン特殊研究MⅡa		2	2	前期		
	325216	建築・インテリアデザイン特殊研究MⅡb		2	2	後期		
	325217	建築・インテリアデザイン特殊研究MⅢa		2	2	前期		
	325218	建築・インテリアデザイン特殊研究MⅢb		2	2	後期		
	325219	建築・インテリアデザイン特殊研究MⅣa		2	2	前期		
	325220	建築・インテリアデザイン特殊研究MⅣb		2	2	後期		
	325221	建築・インテリアデザイン特殊研究MⅤa		2	2	前期		
	325222	建築・インテリアデザイン特殊研究MⅤb		2	2	後期		
	325302	建築・インテリアデザイン意匠設計特殊実習		4	1・2	通年		学外実習 建築・インテリアデザイン専修所属者のみ履修可 成績は「合」「否」により評価

修了要件

文化創造研究科文化創造専攻博士前期課程を修了するためには、1年または2年以上在学して上記単位中30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査および学位試験に合格しなければならない。ただし、専修によっては作品制作をもって、修士論文に代えることができる。また、各専修においては、さらに上記カリキュラム表の修了要件欄に掲げる要件を満たさなければならないが、要件を満たした上でなお他専修の開設科目を履修することができる。

以上の要件に加えて、所属専修に開設されている授業科目の履修により修得すべき単位数を24単位以上とする。

なお、特殊研究科目は修士論文の作成指導を目的とする。

1 修業・在学年限

修業年限は3年を標準とする。

在学年限は6年とする（ただし、休学期間は在学年数に算入しない）。

なお、博士後期課程に在学期間内に限り、課程による博士の学位審査を受けることができる。

2 修了要件

博士後期課程に3年以上在学し、研究指導担当教員の特殊研究科目を12単位以上修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査および学位試験に合格した者に、博士の学位を授与する。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、博士課程に3年（博士前期課程または修士課程を修了した者は、その在学期間を含む）以上在学すれば足りることとする。

3 研究指導

（1）研究指導

博士後期課程においては、博士前期課程における研究の到達を一層発展・深化させ、その成果として博士論文を作成する。そのために、定められた教員による研究指導を受けなければならない。

（2）研究指導教員の決定

学生は、入学または進学年次の4月末日までに研究指導教員届を提出し、各専修はそれに基づいて研究指導担当教員を定め、研究科委員会に報告する。その際、主たる指導教員のほかに、従たる指導教員（複数可）を定めることができる。その場合、従たる指導教員は他専修または他研究科の教員をもって充てることができる。

（3）履修計画書および研究計画書の提出

学生は、研究指導教員の指導を受けて、履修計画書ならびに研究課題を含む研究計画書を作成し、入学または進学年次の6月末日までに提出しなければならない。

（4）研究中間報告書の提出

学生は、研究指導教員の指導を受けて、在学中の毎年度末に研究中間報告書を提出しなければならない。

（5）学内学会における研究発表

学生は、在学中に開催される公開の学内学会研究発表会において、口頭による研究発表を毎年度1回以上行わなければならない。

4 博士論文

(1) 博士論文の提出期日

博士の学位授与を申請する者は、博士後期課程3年次の10月もしくは4年次以降の4月または10月のそれぞれ1日から10日までの間に、申請に係る書類および博士論文を研究科長に提出しなければならない。

(2) 制作作品の提出

専修または専攻分野によっては、制作作品を副論文として提出することができる。

(3) 博士論文発表会の開催

博士論文を提出した者は、その審査と並行する期間内に論文の概要またはその一部の内容について、公開の場で口頭による発表をしなければならない。

(4) 博士論文の審査

博士論文の審査は、研究指導教員を含む3人以上の審査委員により、日時を指定して行う。審査委員は本研究科所属の教員2人以上をもって充てるが、必要に応じて本学の学部または他の研究科もしくは他の大学の教員またはこれに準ずる者をもって充てることができる。

(5) 博士論文の提出要件

博士論文は、原則として一つの課題について考究したものであって、体系的を有しかつ独創的であり、学術的な価値を有するものでなければならない。

その量的基準の目安は、提出された博士論文中に、次の①②に掲げる方法により換算した点数が5点以上となる既発表論文を含むこととする。ただし、特に顕著な研究業績を上げた場合は、この限りではない。

- ① 審査制度のある学術誌（国際誌、全国誌等）に単著者または筆頭著者として掲載された論文1編を2点、共著者の場合は1点と換算する。
- ② 学内紀要または学内学会誌等に単著者または筆頭著者として掲載された論文1編を1点、共著者の場合は0.5点と換算する。

(6) 博士論文の審査基準

博士論文は、次の項目ごとにその適否を審査し、それらを総合して合否を判断する。

- ①研究課題が、現代社会の問題解決にとって適切か
あるいは新たな文化創造のための契機となり得るか
- ②結論が、現代社会の問題解決のための有効な提案となっているか
あるいは新たな文化創造のための極めて有益な提言となっているか
- ③研究の過程において、次の要件が十分に満たされているか
 - (i) 論理性
 - (ii) 実証性
 - (iii) 資料処理の適切性
 - (iv) 創造性
- ④先行研究の踏襲と超克が十分に実現できているか
- ⑤課題に対する研究方法は十分に妥当か
- ⑥在籍中の学修・研究成果が十分に反映されているか
- ⑦専門分野の研究の進展に大きく寄与できるか

(7) 論文による学位授与申請

論文による学位授与申請については、(1) から (6) までを準用する。

(8) 博士論文の審査期間

博士論文は、課程による場合は修了予定学期末日の1か月前までに、論文による場合は受理された後1年以内に審査を終了する。

5 学位試験

(1) 学位試験の時期および方法

学位試験は、博士論文の審査終了後、筆記または口頭で行い、学位審査委員がこれに当たる。

(2) 学位審査委員

学位審査委員は、博士論文審査委員をもって充てる。

(3) 学位試験の内容

学位試験は、博士論文の内容およびこれに関連する専門分野の学識ならびに研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の能力またはきわめて専門的な職業に従事するに必要な高度の能力、さらにそれらの基礎となる豊かな学識について審査する。

(4) 学位試験の評価基準

学位試験は、博士論文の審査を踏まえた上で次の項目ごとにその適否を審査し、それらを総合して可否を判断する。

①専門分野に関する該博な学識ならびに幅広い教養が看取されるか

②高度な知識・技術を要する専門的職業人として社会に大きく貢献できるか

③自立した研究者として研究を継続する能力を維持できるか

(5) 学位授与の時期

学位の授与は、毎年度9月または3月に行う。

(6) 学位の取り消し

学位を授与された後に、不正な方法により学位を取得した事実が判明したとき、またはその名誉を汚辱する行為があったときは、研究科委員会および大学院委員会の議を経て、学位を取り消し、学位記を返還させる。

(7) 論文による学位授与申請

論文博士の学位審査のための学力審査については、学力審査委員会を設けて行う。学力審査は、筆記試験または、口述試験によって行う。

6 修了認定

研究科委員会は、博士論文の審査および学位試験の結果に関する報告をもとに、課程修了認定の可否を審議する。論文による学位授与申請についても、同様とする。

7 博士論文の公表

博士の学位を授与されたものは、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該学位の授与に関わる論文の全文を公表しなければいけない。ただし、当該学位を授与される前に既に公表したときは、この限りではない。

また、博士論文を中核とする著作物を出版社から刊行した（刊行予定である）場合、博士論文そのものの公開をすべきでない事由がある場合等は、かならず相談して対応方法を確認する。

本学では、博士論文と博士論文の内容の要旨及び博士論文審査の結果の要旨をリポジトリにより公表する。博士の学位を授与されたものは、授与から1年以内に博士論文を、授与から3ヶ月以内に博士論文の内容の要旨を公開する必要があるため、それぞれ1ヶ月前までにPDFファイルを学部等事務室に提出すること。なお、博士論文審査の結果の要旨は研究科から提出する。

8 学位の名称

専修ごとに授与する学位の名称は、次のとおりとする。

- | | |
|---------------------|------------|
| (i) 国文学専修 | 博士（文学） |
| (ii) 図書館情報学専修 | 博士（図書館情報学） |
| (iii) 情報デザイン・システム専修 | 博士（学術） |
| (iv) 創作表現専修 | 博士（学術） |
| (v) メディアプロデュース専修 | 博士（学術） |
| (vi) 建築・インテリアデザイン専修 | 博士（学術） |



文化創造研究科 文化創造専攻 博士後期課程 カリキュラム表

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 文化創造専攻科目

後期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
国文学専修	321501	国文学特殊研究D I (1)a		2	1	前期	各年次4単位以上、 合計12単位以上選択必修	
	321502	国文学特殊研究D I (1)b		2	1	後期		
	321503	国文学特殊研究D I (2)a		2	2	前期		
	321504	国文学特殊研究D I (2)b		2	2	後期		
	321505	国文学特殊研究D I (3)a		2	3	前期		
	321506	国文学特殊研究D I (3)b		2	3	後期		
	321511	国文学特殊研究D II (1)a		2	1	前期		
	321512	国文学特殊研究D II (1)b		2	1	後期		
	321513	国文学特殊研究D II (2)a		2	2	前期		
	321514	国文学特殊研究D II (2)b		2	2	後期		
	321515	国文学特殊研究D II (3)a		2	3	前期		
	321516	国文学特殊研究D II (3)b		2	3	後期		
	321521	国文学特殊研究D III (1)a		2	1	前期		
	321522	国文学特殊研究D III (1)b		2	1	後期		
	321523	国文学特殊研究D III (2)a		2	2	前期		
	321524	国文学特殊研究D III (2)b		2	2	後期		
	321525	国文学特殊研究D III (3)a		2	3	前期		
	321526	国文学特殊研究D III (3)b		2	3	後期		
	321541	国文学特殊研究D IV (1)a		2	1	前期		
	321542	国文学特殊研究D IV (1)b		2	1	後期		
	321543	国文学特殊研究D IV (2)a		2	2	前期		
	321544	国文学特殊研究D IV (2)b		2	2	後期		
	321545	国文学特殊研究D IV (3)a		2	3	前期		
	321546	国文学特殊研究D IV (3)b		2	3	後期		
	321551	国文学特殊研究D V (1)a		2	1	前期		
	321552	国文学特殊研究D V (1)b		2	1	後期		
	321553	国文学特殊研究D V (2)a		2	2	前期		
	321554	国文学特殊研究D V (2)b		2	2	後期		
	321555	国文学特殊研究D V (3)a		2	3	前期		
	321556	国文学特殊研究D V (3)b		2	3	後期		
	321561	国文学特殊研究D VI (1)a		2	1	前期		
	321562	国文学特殊研究D VI (1)b		2	1	後期		
	321563	国文学特殊研究D VI (2)a		2	2	前期		
	321564	国文学特殊研究D VI (2)b		2	2	後期		
	321565	国文学特殊研究D VI (3)a		2	3	前期		
	321566	国文学特殊研究D VI (3)b		2	3	後期		

後期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
国文学専修	321531	国語学特殊研究D(1)a		2	1	前期		
	321532	国語学特殊研究D(1)b		2	1	後期		
	321533	国語学特殊研究D(2)a		2	2	前期		
	321534	国語学特殊研究D(2)b		2	2	後期		
	321535	国語学特殊研究D(3)a		2	3	前期		
	321536	国語学特殊研究D(3)b		2	3	後期		
図書館情報学専修	326501	図書館情報学特殊研究D I (1)a		2	1	前期	各年次4単位以上、 合計12単位以上選択必修	
	326502	図書館情報学特殊研究D I (1)b		2	1	後期		
	326503	図書館情報学特殊研究D I (2)a		2	2	前期		
	326504	図書館情報学特殊研究D I (2)b		2	2	後期		
	326505	図書館情報学特殊研究D I (3)a		2	3	前期		
	326506	図書館情報学特殊研究D I (3)b		2	3	後期		
	326511	図書館情報学特殊研究D II (1)a		2	1	前期		
	326512	図書館情報学特殊研究D II (1)b		2	1	後期		
	326513	図書館情報学特殊研究D II (2)a		2	2	前期		
	326514	図書館情報学特殊研究D II (2)b		2	2	後期		
	326515	図書館情報学特殊研究D II (3)a		2	3	前期		
	326516	図書館情報学特殊研究D II (3)b		2	3	後期		
	326521	図書館情報学特殊研究D III (1)a		2	1	前期		
	326522	図書館情報学特殊研究D III (1)b		2	1	後期		
	326523	図書館情報学特殊研究D III (2)a		2	2	前期		
	326524	図書館情報学特殊研究D III (2)b		2	2	後期		
	326525	図書館情報学特殊研究D III (3)a		2	3	前期		
	326526	図書館情報学特殊研究D III (3)b		2	3	後期		
	326531	図書館情報学特殊研究D IV (1)a		2	1	前期		
	326532	図書館情報学特殊研究D IV (1)b		2	1	後期		
	326533	図書館情報学特殊研究D IV (2)a		2	2	前期		
	326534	図書館情報学特殊研究D IV (2)b		2	2	後期		
	326535	図書館情報学特殊研究D IV (3)a		2	3	前期		
	326536	図書館情報学特殊研究D IV (3)b		2	3	後期		
	326541	図書館情報学特殊研究D V (1)a		2	1	前期		
	326542	図書館情報学特殊研究D V (1)b		2	1	後期		
	326543	図書館情報学特殊研究D V (2)a		2	2	前期		
	326544	図書館情報学特殊研究D V (2)b		2	2	後期		
	326545	図書館情報学特殊研究D V (3)a		2	3	前期		
	326546	図書館情報学特殊研究D V (3)b		2	3	後期		
情報デザイン・システム専修	327501	情報デザイン・システム特殊研究D I (1)a		2	1	前期	各年次4単位以上、 合計12単位以上選択必修	
	327502	情報デザイン・システム特殊研究D I (1)b		2	1	後期		
	327503	情報デザイン・システム特殊研究D I (2)a		2	2	前期		
	327504	情報デザイン・システム特殊研究D I (2)b		2	2	後期		
	327505	情報デザイン・システム特殊研究D I (3)a		2	3	前期		
	327506	情報デザイン・システム特殊研究D I (3)b		2	3	後期		
	327511	情報デザイン・システム特殊研究D II (1)a		2	1	前期		
	327512	情報デザイン・システム特殊研究D II (1)b		2	1	後期		
	327513	情報デザイン・システム特殊研究D II (2)a		2	2	前期		
	327514	情報デザイン・システム特殊研究D II (2)b		2	2	後期		
	327515	情報デザイン・システム特殊研究D II (3)a		2	3	前期		
	327516	情報デザイン・システム特殊研究D II (3)b		2	3	後期		

後期課程

科目群	科目番号	科 目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備 考
情報デザイン・システム専修	327521	情報デザイン・システム特殊研究DⅢ (1)a		2	1	前期		
	327522	情報デザイン・システム特殊研究DⅢ (1)b		2	1	後期		
	327523	情報デザイン・システム特殊研究DⅢ (2)a		2	2	前期		
	327524	情報デザイン・システム特殊研究DⅢ (2)b		2	2	後期		
	327525	情報デザイン・システム特殊研究DⅢ (3)a		2	3	前期		
	327526	情報デザイン・システム特殊研究DⅢ (3)b		2	3	後期		
	327531	情報デザイン・システム特殊研究DⅣ (1)a		2	1	前期		
	327532	情報デザイン・システム特殊研究DⅣ (1)b		2	1	後期		
	327533	情報デザイン・システム特殊研究DⅣ (2)a		2	2	前期		
	327534	情報デザイン・システム特殊研究DⅣ (2)b		2	2	後期		
	327535	情報デザイン・システム特殊研究DⅣ (3)a		2	3	前期		
	327536	情報デザイン・システム特殊研究DⅣ (3)b		2	3	後期		
	327541	情報デザイン・システム特殊研究DⅤ (1)a		2	1	前期		
	327542	情報デザイン・システム特殊研究DⅤ (1)b		2	1	後期		
	327543	情報デザイン・システム特殊研究DⅤ (2)a		2	2	前期		
	327544	情報デザイン・システム特殊研究DⅤ (2)b		2	2	後期		
	327545	情報デザイン・システム特殊研究DⅤ (3)a		2	3	前期		
	327546	情報デザイン・システム特殊研究DⅤ (3)b		2	3	後期		
創作表現専修	322551	創作表現特殊研究DⅠ (1)a		2	1	前期	各年次4単位以上、 合計12単位以上選択必修	
	322552	創作表現特殊研究DⅠ (1)b		2	1	後期		
	322553	創作表現特殊研究DⅠ (2)a		2	2	前期		
	322554	創作表現特殊研究DⅠ (2)b		2	2	後期		
	322555	創作表現特殊研究DⅠ (3)a		2	3	前期		
	322556	創作表現特殊研究DⅠ (3)b		2	3	後期		
	322561	創作表現特殊研究DⅡ (1)a		2	1	前期		
	322562	創作表現特殊研究DⅡ (1)b		2	1	後期		
	322563	創作表現特殊研究DⅡ (2)a		2	2	前期		
	322564	創作表現特殊研究DⅡ (2)b		2	2	後期		
	322565	創作表現特殊研究DⅡ (3)a		2	3	前期		
	322566	創作表現特殊研究DⅡ (3)b		2	3	後期		
	322571	創作表現特殊研究DⅢ (1)a		2	1	前期		
	322572	創作表現特殊研究DⅢ (1)b		2	1	後期		
	322573	創作表現特殊研究DⅢ (2)a		2	2	前期		
	322574	創作表現特殊研究DⅢ (2)b		2	2	後期		
	322575	創作表現特殊研究DⅢ (3)a		2	3	前期		
	322576	創作表現特殊研究DⅢ (3)b		2	3	後期		
	322581	創作表現特殊研究DⅣ (1)a		2	1	前期		
	322582	創作表現特殊研究DⅣ (1)b		2	1	後期		
	322583	創作表現特殊研究DⅣ (2)a		2	2	前期		
	322584	創作表現特殊研究DⅣ (2)b		2	2	後期		
	322585	創作表現特殊研究DⅣ (3)a		2	3	前期		
	322586	創作表現特殊研究DⅣ (3)b		2	3	後期		
	322591	創作表現特殊研究DⅤ (1)a		2	1	前期		
	322592	創作表現特殊研究DⅤ (1)b		2	1	後期		
	322593	創作表現特殊研究DⅤ (2)a		2	2	前期		
	322594	創作表現特殊研究DⅤ (2)b		2	2	後期		
	322595	創作表現特殊研究DⅤ (3)a		2	3	前期		
	322596	創作表現特殊研究DⅤ (3)b		2	3	後期		

後期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
メディアプロデュース専修	324531	メディアプロデュース特殊研究D I (1)a		2	1	前期	各年次4単位以上、 合計12単位以上選択必修	
	324532	メディアプロデュース特殊研究D I (1)b		2	1	後期		
	324533	メディアプロデュース特殊研究D I (2)a		2	2	前期		
	324534	メディアプロデュース特殊研究D I (2)b		2	2	後期		
	324535	メディアプロデュース特殊研究D I (3)a		2	3	前期		
	324536	メディアプロデュース特殊研究D I (3)b		2	3	後期		
	324541	メディアプロデュース特殊研究D II (1)a		2	1	前期		
	324542	メディアプロデュース特殊研究D II (1)b		2	1	後期		
	324543	メディアプロデュース特殊研究D II (2)a		2	2	前期		
	324544	メディアプロデュース特殊研究D II (2)b		2	2	後期		
	324545	メディアプロデュース特殊研究D II (3)a		2	3	前期		
	324546	メディアプロデュース特殊研究D II (3)b		2	3	後期		
	324551	メディアプロデュース特殊研究D III (1)a		2	1	前期		
	324552	メディアプロデュース特殊研究D III (1)b		2	1	後期		
	324553	メディアプロデュース特殊研究D III (2)a		2	2	前期		
	324554	メディアプロデュース特殊研究D III (2)b		2	2	後期		
	324555	メディアプロデュース特殊研究D III (3)a		2	3	前期		
	324556	メディアプロデュース特殊研究D III (3)b		2	3	後期		
	324561	メディアプロデュース特殊研究D IV (1)a		2	1	前期		
	324562	メディアプロデュース特殊研究D IV (1)b		2	1	後期		
	324563	メディアプロデュース特殊研究D IV (2)a		2	2	前期		
	324564	メディアプロデュース特殊研究D IV (2)b		2	2	後期		
	324565	メディアプロデュース特殊研究D IV (3)a		2	3	前期		
	324566	メディアプロデュース特殊研究D IV (3)b		2	3	後期		
	324571	メディアプロデュース特殊研究D V (1)a		2	1	前期		
	324572	メディアプロデュース特殊研究D V (1)b		2	1	後期		
	324573	メディアプロデュース特殊研究D V (2)a		2	2	前期		
	324574	メディアプロデュース特殊研究D V (2)b		2	2	後期		
	324575	メディアプロデュース特殊研究D V (3)a		2	3	前期		
	324576	メディアプロデュース特殊研究D V (3)b		2	3	後期		
建築・インテリアデザイン専修	325531	建築・インテリアデザイン特殊研究D I (1)a		2	1	前期	各年次4単位以上、 合計12単位以上選択必修	
	325532	建築・インテリアデザイン特殊研究D I (1)b		2	1	後期		
	325533	建築・インテリアデザイン特殊研究D I (2)a		2	2	前期		
	325534	建築・インテリアデザイン特殊研究D I (2)b		2	2	後期		
	325535	建築・インテリアデザイン特殊研究D I (3)a		2	3	前期		
	325536	建築・インテリアデザイン特殊研究D I (3)b		2	3	後期		
	325541	建築・インテリアデザイン特殊研究D II (1)a		2	1	前期		
	325542	建築・インテリアデザイン特殊研究D II (1)b		2	1	後期		
	325543	建築・インテリアデザイン特殊研究D II (2)a		2	2	前期		
	325544	建築・インテリアデザイン特殊研究D II (2)b		2	2	後期		
	325545	建築・インテリアデザイン特殊研究D II (3)a		2	3	前期		
	325546	建築・インテリアデザイン特殊研究D II (3)b		2	3	後期		
	325551	建築・インテリアデザイン特殊研究D III (1)a		2	1	前期		
	325552	建築・インテリアデザイン特殊研究D III (1)b		2	1	後期		
	325553	建築・インテリアデザイン特殊研究D III (2)a		2	2	前期		
	325554	建築・インテリアデザイン特殊研究D III (2)b		2	2	後期		

後期課程

科目群	科目番号	科 目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備 考
建築・インテリアデザイン専修	325555	建築・インテリアデザイン特殊研究DⅢ (3)a		2	3	前期		
	325556	建築・インテリアデザイン特殊研究DⅢ (3)b		2	3	後期		
	325561	建築・インテリアデザイン特殊研究DIV (1)a		2	1	前期		
	325562	建築・インテリアデザイン特殊研究DIV (1)b		2	1	後期		
	325563	建築・インテリアデザイン特殊研究DIV (2)a		2	2	前期		
	325564	建築・インテリアデザイン特殊研究DIV (2)b		2	2	後期		
	325565	建築・インテリアデザイン特殊研究DIV (3)a		2	3	前期		
	325566	建築・インテリアデザイン特殊研究DIV (3)b		2	3	後期		
	325571	建築・インテリアデザイン特殊研究DV (1)a		2	1	前期		
	325572	建築・インテリアデザイン特殊研究DV (1)b		2	1	後期		
	325573	建築・インテリアデザイン特殊研究DV (2)a		2	2	前期		
	325574	建築・インテリアデザイン特殊研究DV (2)b		2	2	後期		
	325575	建築・インテリアデザイン特殊研究DV (3)a		2	3	前期		
	325576	建築・インテリアデザイン特殊研究DV (3)b		2	3	後期		

修了要件

文化創造研究科文化創造専攻博士後期課程を修了するためには、3年以上在学して上記科目中、研究指導担当教員の「特殊研究D」科目を12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査および試験に合格しなければならない。

教育学研究科

1 ディプロマ・ポリシー(人材養成像)

教育学研究科は、新しい時代の教育に対応できる教員をはじめとする教育界の指導的人材の育成を教育目的とし、以下の能力を修得した学生に対して修士の学位を授与する。

- ① 人間の発達や教育に関する高度な専門的知識の習得。
- ② 問題を論理的に分析し考察する研究能力の修得。
- ③ 子ども一人ひとりの特性に応じたきめ細かな指導を行うことのできる実践能力の修得。

本研究科では、教育学専修と子ども発達専修の二つの専修を設け、前者は教育活動の最も中心となる学校教育という面から、後者は人間の成長発達とその促進という面から、それぞれに応じた深い学習・研究を行う。さらにこの二つの面を有機的に関連づけることで、人間の発達や教育について幅広くより深く理解する。

どちらの専修においても、上記の能力を修得するために、入学後に研究指導教員を定め、その指導のもとに研究計画・履修計画を作成し、2年もしくは1年以上在学して必要な研究指導を受けた上で、30単位以上を修得し、修士の学位論文の審査および学位試験に合格することをもって修了要件とする。

修士論文は学術または教育的価値によって評価する。

このような本研究科での学修は、教育に携わる者として、文化や性別、年齢、障がいの有無など、人間が本来有する個性や多様性を認めつつ、互いの共通項に目を向けて、違いを活かし合い、共に生きることの意義を次世代を担う子どもたちに教え伝える力を身に付けることになるであろう。本研究科が目指しているのは、こうした「違いを共に生きる」ことができる社会に向けて、子どもを温かなまなざしで見つめつつ思慮深く適切に対応できる小学校教員をはじめとする教育界の指導的人材の育成である。

2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの)

教育学研究科では、「新しい時代の教育に対応できる教員をはじめとする教育界の指導的人材の育成」という目的に従い、人間の発達や教育に関する幅広く高度な専門的知識の修得と、それに基づいて問題を論理的に分析し考察する研究能力を身につけ、子どもの特性に応じた卓越した実践能力を培うことを目標とし、それを達成するために、「教育をその主たる活動の場である学校教育という面と、人間の発達の可能性とその促進という面の2つの面から、それぞれに応じた深い学修・研究を行うとともに、この両面を有機的に関連づけることで柔軟で幅広い学修を可能にする教育課程を編成する」(学則「愛知淑徳大学大学院教育学研究科規程」第3条)ことを教育課程編成の基本方針とする。

学生は、学校という場での教育を考える教育学専修と、教育を人間の発達の可能性とその促進という面から捉える子ども発達専修のどちらかに属することで、それぞれに応じた深い学修・研究を行うことになる。各専修における問題を理論と実践の両面から掘り下げ、最終的には学生各自のテーマに基づいた学術的価値の高い修士論文の作成に結びつけられるように、「教育研究科目」「教育科学科目」「教科教育科目」「子ども発達科目」「実践展開科目」から構成される体系的なカリキュラムを編成する。

このうち、「教科教育科目」「子ども発達科目」は本研究科が目指す教育界の指導的人材に必要な「人間の発達や教育に関する幅広く高度な専門的知識の修得」にかかわるものである。各専修に対応して、教育学専修は「教科教育科目」から8単位4科目、子ども発達専修は「子ども発達科目」から8単位4科目を選択必修とする。ただし、各専修に偏ることなく、それぞれを有機的に関連づけることができるように、教育学専修は「子ども発達科目」、子ども発達専修は「教科教育科目」から、それぞれ4単位2科目を選択必修とする。

こうした専門的知識の修得に基づいて「問題を論理的に分析し考察する研究能力を身につける」ことを目的としたものが「教育研究科目」「教育科学科目」である。「教育研究科目」は修士論文作成にむけて、教育に関する研究方法の学修と研究指導教員から直接に指導を受ける演習とで構成されており、8単位必修とする。「教育科学科目」は教

育研究を行ううえでの基礎的科目で、どちらの専修も4単位2科目を選択必修とする。

「実践展開科目」は教育の応用的・実践的な面に関する科目であり、広い視野に立った学識を有し、こどもの特性に応じた卓越した実践能力を培うことができるようにする。

各科目群の必修および選択必修の単位を含めて30単位以上を修得し、学修の成果を修士論文として提出することが義務づけられる。

3 アドミッション・ポリシー

教育・研究目的

子どもたちや学校を取り巻く環境が大きく変化するなかで、教員に対してより高度な専門性が求められている。本研究科では、広い視野に立った精深な学識を有するとともに、卓越した実践能力を併せ持つ、小学校教員をはじめとする教育界の指導的人材を育成することを目指している。その目的を実現するために、教育の主たる活動の場である学校における教科教育を中心に教育を考える教育学専修と、人間の発達の可能性とその促進という面から教育を捉える子ども発達専修の2つの専修を設け、それぞれに応じた深い学修・研究を行うとともに、各専修のどちらかに偏ることなく、それぞれを有機的に関連づけることでより幅広く対応できるように「教育研究科目」「教育科学科目」「教科教育科目」「子ども発達科目」「実践展開科目」から構成される体系的なカリキュラムを編成している。

また、本研究科では、教育目的に沿って、学生のニーズに応じて学生が学部で取得した教員免許状とは異なる校種の教員免許状取得を認めている。とくに文学部教育学科と連携して、在学中に小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状の取得が可能である。

研究においては、入学時から修了まで、学生各自の研究テーマに沿って指導教員によるきめ細かな指導を行う。

学生に期待すること

人間の教育や発達に関する問題を論理的に捉え、分析・考察することを通して、新しい時代の教育に対応できる高度な専門的知識と確かな実践力を兼ね備えた教員や教育界での指導者となることを期待している。

学生募集に際して重視すること

これからの望ましい教育に対する強い関心と、それを実現しようとする熱い志を有するとともに、独りよがりにならずに客観的な視点から冷静に問題を捉えることができるかどうかを重視する。

入学前学修として推奨すること

人間の教育や発達についての原理、指導法に関する基礎的な学力と知識をできるだけ身につけておくことを望む。

1 修業・在学年限

修士課程の標準年限は2年を標準とし、在学年限は4年とする。

2 修了要件

本研究科発達教育専攻の修了要件は下記のとおりである。

修士課程に2年以上在学し、必要な研究指導を受けたうえで、以下の各号に掲げる要件をすべて満たした者に、修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、とくに優れた業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りることとする。

(1) 修得単位

授業科目を履修して30単位以上を修得すること。

(2) 学位論文

修士論文を作成し、審査に合格すること。

(3) 学位試験

修士論文を中心とした学位試験に合格すること。

どちらの専修においても、教育研究科目(「教育研究法特講」a・b(各2単位、必修)、「教育研究演習」(通年4単位、必修)、教育科学科目から4単位以上(選択必修)を修得することに加えて、教育学専修においては、教科教育科目から8単位以上(選択必修)、子ども発達科目から4単位以上(選択必修)を、また、子ども発達専修においては、教科教育科目から4単位以上(選択必修)、子ども発達科目から8単位以上(選択必修)を修得すること。

3 研究計画・学習計画

(1) 研究指導教員

学生は入学後ただちに研究指導教員を決め、4月末日までに研究指導教員届を提出しなければならない。複数の教員の研究指導を希望する場合は、そのうちの一人を主たる研究指導教員とし、その他を従たる研究指導教員とする。

(2) 研究計画書・履修計画書

指導教員の指導のもと、研究計画書及び履修計画書を作成し、それに基づいて2年間の学習計画を立てる。研究計画書及び履修計画書は、5月第2週の金曜日までに提出するものとする。

4 修士論文

修士論文の作成にあたっては、論文構想発表会（1年前期）と3回の中間発表会（1年後期、2年前期・後期）を設定し、学生は各発表会において口頭による発表を行わなくてはならない。指導教員による演習を中心とした日常の指導と、これらの発表会での検討指導を経て、論文完成に向けた各段階での適切な指導を研究科全体で行うこととする。

修士論文の審査基準は以下の通りである。

① 研究テーマの適切性

現代の教育にかかわる問題の把握・分析が適切になされ、研究目的が明確であること。

② 研究方法の妥当性

研究目的を達成するための方法が妥当であり、説得力を有していること。

③ 論文構成能力

一貫した論理展開のもとに、明確かつ平明な文章で記述されていること。また、図表や引用などを含めて、学術論文としての体裁が整っていること。

④ 研究の独創性

研究目的に対応した明確で独創性を有する結論が提示されていること。

⑤ 倫理的配慮

研究の遂行にあたり、研究科倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準を遵守し、適切な倫理的配慮がなされていること。

5 学位試験

修士論文の審査は、1名の主査と2名以上の副査からなる審査委員会によって行われる。審査委員会には、必要に応じて研究科構成員ではない外部からの審査委員を加えることができる。審査は、その研究内容について、専門領域における十分な研究能力、または高度な専門的実践能力が示されているか否かを検討し、口述試験を行って合否を判定する。



教育学研究科 修士課程 カリキュラム表

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1

発達教育専攻科目

科目群	科目番号	科 目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備 考
教育学研究科目	311001	教育研究法特講a	2		1	前期		
	311002	教育研究法特講b	2		1	後期		
	311003	教育研究演習	4		2	通年		
教育科学科目	312001	教育学特講a		2	1・2	前期	4単位以上選択必修	隔年開講 隔年開講
	312002	教育学特講b		2	1・2	後期		
	312003	教育心理学特講a		2	1・2	前期		
	312004	教育心理学特講b		2	1・2	後期		
	312007	生涯学習特講a		2	1・2	前期		
	312008	生涯学習特講b		2	1・2	後期		
	312009	キャリア教育特講a		2	1・2	前期		
	312010	キャリア教育特講b		2	1・2	後期		
教科教育科目	313001	国語教育特講a		2	1・2	前期	子ども発達専修所属学生は、教科教育科目から8単位以上、子ども発達科目から4単位以上、子ども発達専修所属学生は、教科教育科目から4単位以上、子ども発達科目から8単位以上選択必修	
	313002	国語教育特講b		2	1・2	後期		
	313003	算数科教育特講a		2	1・2	前期		
	313004	算数科教育特講b		2	1・2	後期		
	313005	科学教育特講a		2	1・2	前期		
	313006	科学教育特講b		2	1・2	後期		
	313007	社会科教育特講a		2	1・2	前期		
	313008	社会科教育特講b		2	1・2	後期		
	313009	スポーツ教育特講a		2	1・2	前期		
	313010	スポーツ教育特講b		2	1・2	後期		
	313013	生活科教育特講a		2	1・2	前期		
	313014	生活科教育特講b		2	1・2	後期		
子ども発達科目	315001	発達心理学特講a		2	1・2	前期		
	315002	発達心理学特講b		2	1・2	後期		
	315003	幼児教育特講a		2	1・2	前期		
	315004	幼児教育特講b		2	1・2	後期		
	315005	運動発達学特講a		2	1・2	前期		
	315006	運動発達学特講b		2	1・2	後期		
	315007	創造性教育特講a		2	1・2	後期		
	315008	創造性教育特講b		2	1・2	前期		
	314001	特別支援教育特講a		2	1・2	前期		
	314002	特別支援教育特講b		2	1・2	後期		

科目群	科目番号	科 目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備 考
実践展開科目	314006	教育メディア論		2	1・2	前期		
	314008	学校カウンセリング		2	1・2	後期		隔年開講
	314010	国際理解教育		2	1・2	後期		
	314011	生涯学習指導者論		2	1・2	後期		

修了要件

教育学研究科発達教育専攻（修士課程）を修了するためには、1年または2年以上在学して上記科目中30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査および試験に合格しなければならない。

心理医療科学研究科

1 ディプロマ・ポリシー(人材養成像)

(1) 博士前期課程

本研究科は、心理学、臨床心理学、社会福祉学、言語聴覚学、視覚科学、スポーツ・健康医科学の6専修から構成され、それぞれの専門分野から人の心と身体健康維持と増進に係る支援者およびこれらの専門分野に係る指導者・研究者の養成を行う。そしてより高度な専門性を身に付け、人間のいのちと人生と生活の質の向上に寄与しうる人材の育成を目指している。

そのために前期課程では、大学の教育課程で培った心理学、社会福祉学、生理学、言語聴覚学、視覚科学、スポーツ科学、リハビリテーション学、栄養学等、それぞれの専門分野の学部教育の学修を基盤として、以下のよな視点から、より高度な専門性を身に付けた人材を育成することを教育目標とする。

- ①自己の専門性のみに偏らない幅広い学識を持つことで、現代社会の抱える課題を多角的に把握し、研究課題として具体化することができる人材
- ②人間存在と行動についての科学的知見に基づき、新たな社会的ニーズを発見し、支援策を開発することのできる人材
- ③人の心身の健康な発育・発達についての学識を持ち、生涯にわたるライフステージに応じた健康維持・増進のための知見を創出できる人材
- ④人の行動の個性と普遍性についての知見を深め、多様な障害を生きる人たちへの理解と支援のための知識と技能を身に付けた人材
- ⑤身に付けた専門的知識を活用して、他分野の支援者等と理解を共有し関係を調整するコミュニケーション力とコーディネーション力を兼ね備えた人材
- ⑥健康増進や障害予防の観点から、心や身体健康教育が実践できる人材
- ⑦臨床実践と研究活動の両面にわたり、倫理的配慮のできる人材

換言すれば、実践的な発想のできる研究者もしくは研究的な視点を持った実践者の養成と言える。こうした教育目標を達成するため、次のような知識と技能の修得を目指すものとする。

- ①人と人、人と環境との相互性や関係性を視野に入れた人間理解の視点の修得
- ②科学的根拠に基づいた実証性のある現状分析と課題発見の手法の修得
- ③人の人生を豊かにする理解と支援に係る諸理論の習熟と新たな知見を拓くための研究的視点の修得
- ④相手を正しく理解し、分かりやすく伝えるコミュニケーション力の修得
- ⑤近接他職種の理論と技能についての知見の修得
- ⑥臨床実践と研究活動に係る倫理的配慮についての理解の修得

これらの目標達成をもって学位授与の方針とする。

また、必要な単位を取得し、修士学位論文の審査および学位試験に合格することをもって修了要件とする。

(2) 博士後期課程

博士前期課程での学修・研究成果を踏まえて、専門分野における研究を一層深化発展させることにより、時代の要請に応える見識と技能を有する専門職業人であり、自立して活動できる研究者であるとともに、研究を指導し、次の専門職業人を養成することのできる人材を育成する。すなわち、各専門分野において学問の発展・向上に寄与できる指導者の養成を目指している。

さらに、前期課程の教育目標のより高度な達成を目指すべく、以下の人材養成を目標とする。

- ①自己ならびに他者の研究内容の社会的意義や独創性を的確に判断できる人材
 - ②自己の専門分野において後進の研究活動を指導し、新たな実践力としての可能性を見つけることのできる人材
 - ③異なる専門分野の研究内容を理解し、自己の研究との接点を模索しようと努力する人材
- そのために必要となる知識と技能は、前期課程で修得すべき内容を洗練し、以下の事項を加えるものとする。

そして、これらの目標達成を学位授与の方針とする。

- ①自己の研究課題と専門分野に関する先進的で指導的な知見と技能の開発ないし修得
 - ②自己の研究内容を発信し、他者との議論を基に相互に発展・向上を目指すコーディネーション力の修得
 - ③自己の専門分野について深い造詣をもって社会啓発活動に関わることのできるコミュニケーション力の修得
- そして、必要な単位を取得し、博士学位論文の審査および学位試験に合格することをもって修了要件とする。

2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの)

(1) 博士前期課程

心理学、臨床心理学、社会福祉学、言語聴覚学、視覚科学、スポーツ・健康医科学の6つの専修に関わる専門分野を心理医療科学的、総合科学的な観点から俯瞰し、歴史的、体系的な観点も踏まえた上で取り組む課題を自ら設定できることを目指す。そして、それを総合的な科学的思考に基づいて解決し、かつ、社会において研究者、および実践者として活躍する人材を育成するための教育課程を提供する。

そのために、学生の個別ニーズと目的意識に基づき、理論、研究、実践の各側面から、専門的な知識、技能を深めることができるよう、体系的かつ学際的な教育課程を計画し、上記の目標を達成するべく、以下の3つの科目区分を設けて編成する。

① 専門基礎科目

各専門分野の研究活動を実施するための、研究法に関わる科目、研究科全体に共通する基礎的な科目を中心に構成し、基礎的研究能力と学修力との修得を目指す科目群となる。

なお、各学問分野・科目の特性を考慮して、最も学修効果が期待されるよう講義科目と演習科目の別を設定する。これらは、選択する単位数の下限を定めた上で1・2年次開講の6専修共通の選択必修科目とする。

② 専門中心科目

各専修における、より高度で専門的な知識、技能を学修するための専門科目である。専修ごとの選択必修科目とすることによって、各専門分野におけるより高度な研究能力と学修技能を獲得し、修士論文の作成へと直結する学修を実現するための科目群となる。これらは1・2年次開講の各専修ごとの選択必修科目となる。

③ 研究科目

修士論文作成のための研究指導科目であり、各専修に対応した専門分野に関する研究指導科目によって構成する。これらの科目を履修し、研究指導を受ける。臨床心理学専修では2年次のみの開講であるが、他の専修では1・2年次開講であり、専修ごとの必修科目とする。

(2) 博士後期課程

前期課程での学修・研究成果を発展的に展開させ、より高度な専門性を身につけるとともに研究能力を実践的に応用でき、自立して活動できる研究者を育成し、さらに後進を育成する教育者としての素養と指導力を養成する教育課程を目指す。そのため、博士論文の作成を主たる内容とする「特殊研究科目」を専修ごとに系統的に開講する方針を採用し、以下のようなカリキュラムを編成する。

特殊研究科目

在籍中に研究指導担当教員が担当する特殊研究科目を各学年前後期通じて間断なく履修できるように配置し、博士論文作成のための指導を受け、同科目を12単位以上習得することとする。

また、必要に応じて研究補助教員を置くことで、研究補助教員や他の教員の特殊研究科目も選択履修可能として履修の幅を広げ、隣接または異なる学問分野にわたる広い視野に立った、より独創的で高度な自律的研究が展開できる環境を整える。

さらに、授業科目の学修効果を高めるため、後期課程では毎年度、研究科委員会によって開催される博士論文中間報告会において研究報告を行うことを義務づけ、所属する専修のみならず複数の学問分野の教員による討議をもって専門性と学際性を高めるよう研究活動を推進する。学生に毎年度「研究成果報告書」の提出を課することによって学生自ら研究を自律的に進めさせるとともに、指導教員は学生の研究の進捗状況を確認しつつ研究計画の立案から博士論文提出までの各段階で適切な助言・指導を行う。

3 アドミッション・ポリシー

教育・研究目的

私たちの生き方の基本原理は、経済性と効率のよさを追求する“ビジネスの原理”から、人間性を大切にこそ豊かな生活者であろうとする“いのちの原理”へと、大きな方向転換のときを迎えている。本研究科は、心と体の両面からいのちと人生と生活の質（QOL=Quality of Life）を捉え直し、それを高める方策を見直し、新たに得られた知見を社会に還元し地域貢献に生かすことのできる、高度な専門性と学際性を持った研究者、実践者の育成を目的としている。

学生に期待すること

前期課程においては、大学卒業の水準に見合った科学的で論理的な思考力を有すること、および専門分野について、自立した研究者としての研究技能と知識を修得する意欲があり、独自の研究課題と問題意識が明確で、その課題に対して主体的に取り組む姿勢を有していることを、基本条件として考えている。

後期課程においては、それに加えて、当該学問分野の学術的発展および教育に貢献しようという高い志を有していることが期待される。すなわち、専門分野における研究者としてだけでなく、将来にわたり研究者の指導と養成に携わる意欲と資質を持った入学者を、選抜することを想定している。

学生募集に際して重視すること

すべての入試形態において、修学意欲が高くそれぞれの専門分野への志望動機が明確で、専門分野に関する基礎知識を有していることと、前期課程においては2年間の、後期課程においては3年間の研究計画が具体化されていることの2点を中心に、専門分野への適性を考慮して可否の判定を行う。

入学前学修として推奨すること

自分の専修に偏らずに、近接する学問分野についても関心を寄せ、柔軟な思考力と発想力を培うような学習スキルの獲得が推奨される。それが、実践を通して学び、研究成果を実践の場に還元するための力になっていく。

1 修業・在学年限

前期課程の標準修業年限は2年とし、在学年限は4年とする。

2 修了要件

(1) 心理学専修

専門基礎科目を6単位以上選択必修、専門中心科目を8単位選択必修、研究科目を8単位必修とする。これらに自由履修単位（心理医療科学研究科博士前期課程の全ての科目）を加えて合計30単位以上修得し、修士論文の作成と審査に合格すること。

(2) 臨床心理学専修

専門基礎科目を6単位以上選択必修、専門中心科目を12単位選択必修、研究科目を4単位必修とする。これらに自由履修単位（心理医療科学研究科博士前期課程の全ての科目）を加えて合計30単位以上修得し、修士論文の作成と審査に合格すること。

(3) 社会福祉学専修

専門基礎科目を6単位以上選択必修、専門中心科目を8単位選択必修、研究科目を8単位必修とする。これらに自由履修単位（心理医療科学研究科博士前期課程の全ての科目）を加えて合計30単位以上修得し、修士論文の作成と審査に合格すること。

(4) 言語聴覚学専修

専門基礎科目を6単位以上選択必修、専門中心科目を8単位選択必修、研究科目を8単位必修とする。これらに自由履修単位（心理医療科学研究科博士前期課程の全ての科目）を加えて合計30単位以上修得し、修士論文の作成と審査に合格すること。

(5) 視覚科学専修

専門基礎科目を6単位以上選択必修、専門中心科目を8単位選択必修、研究科目を8単位必修とする。これらに自由履修単位（心理医療科学研究科博士前期課程の全ての科目）を加えて合計30単位以上修得し、修士論文の作成と審査に合格すること。

(6) スポーツ・健康医科学専修

専門基礎科目を6単位以上選択必修、専門中心科目を8単位選択必修、研究科目を8単位必修とする。これらに自由履修単位（心理医療科学研究科博士前期課程の全ての科目）を加えて合計30単位以上修得し、修士論文の作成と審査に合格すること。

3 成績評価基準

本研究科における各科目の成績評価については、次の基準に基づいて行う。A評定を優れた水準であると位置づけ、特段に優れたものをA+、さらに努力を要するものを、その程度と質に応じてBないしCとし、合格の域に達していないものをFと判定する。

(1) 臨床心理学専修実習系科目を除く全科目

- ・ A+：【理解度】科目ごとに想定された内容を超えて理解が進んでおり、独創的な着想の可能性が見られる。
【課題追及姿勢】授業内容を基にして問題意識を展開させており、新しい課題として取り組み始めている。
- ・ A：【理解度】科目ごとに想定した内容について理解しており、その内容について発展的に学修を進めている。
【課題追及姿勢】授業内容を基にした問題意識を持ち、自発的な学修を進める意欲が見られる。
- ・ B：【理解度】科目ごとに想定された内容をおおむね正しく理解している。
【課題追及姿勢】与えられた課題をこなすことが出来ている。
- ・ C：【理解度】科目ごとに想定された内容がある程度理解することが出来ているが、なお理解の深まりを課題として残す。
【課題追及姿勢】与えられた課題をこなすことは出来ているが、自分なりの問題意識を持つことになお課題を残す。
- ・ F：【理解度】【課題追及姿勢】のいずれか、もしくはその両方に課題が多い。

(2) 臨床心理学専修実習系科目

- ・ A+：次の4項目のうち3項目以上において、記載内容の水準に達している。
 - 【対象理解】支援対象の目線で取り組み課題を理解したうえで、課題の全体構造を視野に入れて支援の方針を捉えている。
 - 【対象との取り組み姿勢】対象への理解と支援を考えるにあたり、従来の知見を積極的に参照しており、自分なりの工夫を提案できている。
 - 【実践環境への配慮】支援チームや施設内の人間関係、他職種や他施設スタッフとの連携、あるいは支援の場の物理的な環境整備などへの配慮が行き届いている。
 - 【自己理解】支援者としての自己課題が客観視できており、その課題の意味理解が進んでいる。
- ・ A：次の4項目のうち3項目以上において、記載内容の水準に達している。
 - 【対象理解】支援対象の目線で取り組み課題を理解しており、その理解が支援計画に反映されている。
 - 【対象との取り組み姿勢】対象への理解と支援を考えるにあたり、事前に学修した内容を超えて従来の知見を積極的に参照している。
 - 【実践環境への配慮】支援チームや施設内の人間関係、他職種や他施設スタッフとの連携、あるいは支援の場の物理的な環境整備などへの配慮の必要性が理解されている。
 - 【自己理解】支援者としての自己課題が部分的に自覚出来てきている。
- ・ B：次の4項目のうち3項目以上において、記載内容の水準に達している。
 - 【対象理解】学修した従来の知見に基づいて支援対象の取り組み課題が理解できている。
 - 【対象との取り組み姿勢】対象への理解と支援を考えるにあたり、事前に学修した従来の知見を参照している。
 - 【実践環境への配慮】支援チームや施設内の人間関係、あるいは支援の場の物理的な環境整備などへの配慮の必要性が意識されている。
 - 【自己理解】支援者としての自己課題に向き合う必要性を意識して、自覚し始めている。

・C：次の4項目のうち少なくとも1項目において、記載内容の水準に達している。

【対象理解】学修した従来の知見に基づいて、支援対象の取り組み課題を組み立てる視点が出来ている。

【対象との取り組み姿勢】対象への理解と支援を考えるにあたり、事前に学修した従来の知見を参照することの必要性を理解している。

【実践環境への配慮】支援チームや施設内の人間関係への配慮の必要性が意識されている。

【自己理解】支援者としての自己課題に向き合う必要性を意識出来てきている。

・F：【対象理解】【対象との取り組み姿勢】【実践環境への配慮】【自己理解】のすべてにおいて課題が多いか、4項目のいずれかにおいて著しい不足がある。

4 修士論文

いずれの専修においても、修士論文提出の前に、研究科主催の「修士論文中間報告会」において修士論文のための研究の中間報告を行わなければならない。専門基礎科目、専門中心科目の履修状況と中間報告会の発表内容から、修士論文提出に必要な学識と技能をもつか否か、また研究課題と方法とが妥当か否かを判断し、適切な場合には、必要な助言・指導を与えて、論文作成作業に入るよう指導する。「修士論文中間報告会」は2年次の各専修が定める時期に開催される。

「修士論文中間報告会」における研究発表は必修とし、本研究発表を欠席あるいは辞退した場合は、当該年度の修士論文審査を申請出来ないこととする。また研究を実施する場合は、事前に倫理委員会へ倫理審査申請を行い、承認を得なくてはならない。

論文作成過程の個別指導は所属する専修の研究科目（ゼミナール）の担当教員（原則として指導教員）が行う。修士論文は研究指導担当教員（原則として指導教員）（主査）と2名の審査委員（副査）によって、その研究内容について、専門領域における十分な研究能力、または高度の専門的職業能力が示されているか否かを検討し、修士論文審査および口述試験を行って合否を決定する。

修士論文の成績については、以下の8項目を基本として合否を判定する。

- ①研究内容の当該研究領域ならびに社会的な意義
- ②問題意識と目的設定の整合性と適切性
- ③目的に応じて選択された研究方法の妥当性
- ④結果から導かれた考察の適切性・妥当性
- ⑤研究内容の新規性や独自性
- ⑥論文全体を通しての論理的整合性
- ⑦表現や表記の的確性
- ⑧倫理的配慮の適切性

なお、上記の項目を総合的に勘案し、学位試験の結果と合わせて修士学位審査結果として指導教員より文書表記にて研究科委員会に報告される。合否の判定は、その報告に基づいて行われる。その報告内容は、指導教員を通して学生本人に通知される。

なお、言語聴覚学専修および視覚科学専修においては、各専修が実施する「修士論文公开发表会」において研究成果を発表しなければならない。

5 学位試験

- (1) 学位試験は、修士論文審査終了後、筆記または口頭で行う。
- (2) 学位試験は、修士論文の内容を中心として、学識および研究能力または高度の専門性を要する職業等に適応し得る能力について審査する。

6 修了認定

研究科委員会は、学生の単位修得状況、修士論文の審査および学位試験の結果に関する報告をもとに、課程修了認定の可否を審議する。

7 学位の名称

以上の全てを満たした者に、「愛知淑徳大学学位規程」に基づいて、修士（心理学、社会福祉学、言語聴覚学、視覚科学、健康科学）の学位を授与する。

※学位を授与された者が、不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき、または、その名誉を汚辱する行為があったときは、研究科委員会および大学院委員会の議を経て、学位を取消し返還させる。

8 提出すべき書類と提出期限

学生は研究科および各専修が別に定める書類に加え、下記の書類を期限までに提出しなければならない。

	書 類	提出年度	2025年度入学生の提出時期*
(1)	研究指導教員届	入学年度	5月初旬
(2)	履修計画書	毎年度	5月初旬
(3)	研究計画書	入学年度	7月上旬
(4)	修士論文	修了予定年度	1月下旬

(1)～(3)の書式ファイルはCampusSquareから各自でダウンロードすること。

* 提出期限の詳細な日程はガイダンス時に説明を行う。



心理医療科学研究科 博士前期課程 カリキュラム表

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 心理医療科学専攻科目

前期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
講義科目 専門基礎科目	331102	社会福祉特論		2	1・2	後期	科目群の専門基礎科目から6単位以上選択必修	
	331114	障害福祉特論		2	1・2	後期		
	332110	子ども福祉特論		2	1・2	前期		2時限授業
	332112	精神保健福祉特論		2	1・2	前期		
	331105	発達心理学特論		2	1・2	後期		
	332116	生涯発達心理学特論		2	1・2	前期		
	331109	教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開B)		2	1・2	前期		
	331113	臨床心理学研究法特論		2	1・2	前期		
	331202	心理アセスメント演習		4	1・2	前期		
	331203	心理学実験演習		4	1・2	前期		
	331205	心理医療科学統計演習 1		2	1・2	前期		
	331206	心理医療科学統計演習 2		2	1・2	後期		
演習科目 心理学専修 専門中心科目	331207	心理医療科学英語演習 1		2	1・2	前期	「心理学専修」は科目群の専門中心科目 「心理学専修」から8単位以上選択必修	
	331208	心理医療科学英語演習 2		2	1・2	後期		
	332120	神経心理学特論		2	1・2	後期		
	332102	認知神経心理学特論		2	1・2	前期		
	332103	比較心理学特論		2	1・2	前期		
	332104	対人社会心理学特論		2	1・2	前期		
	332105	認知発達心理学特論		2	1・2	前期		
	332106	コミュニケーション心理学特論		2	1・2	前期		
	332117	応用認知心理学特論		2	1・2	後期		
	332118	比較発達行動学特論		2	1・2	後期		
	332123	精神生理学特論		2	1・2	前期		
	332124	乳幼児発達科学特論		2	1・2	後期		
	332125	社会的ネットワーク特論		2	1・2	前期		

前期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
臨床心理学専修 専門中心科目	332301	臨床心理学特論 1 (青年期・成人期の心理臨床)		2	1・2	前期	臨床心理学専修は科目群の専門中心科目 「臨床心理学専修」から12単位以上選択必修	臨床心理学専修の学生のみ
	332302	臨床心理学特論 2 (児童期の心理臨床)		2	1・2	前期		
	332303	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A)		2	1・2	後期		
	332304	地域支援心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B)		2	1・2	後期		
	332305	臨床心理面接特論 1 (心理支援に関する理論と実践)		2	1・2	前期		
	332306	臨床心理面接特論 2 (力動論と行動論)		2	1・2	後期		
	332307	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開A)		2	1・2	後期		
	332308	投映法特論		2	1・2	後期		
	332309	グループアプローチ特論		2	1・2	前期		
	332320	障害児発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)		2	1・2	後期		
	332321	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開A)		2	1・2	後期		
	332322	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開B)		2	1・2	前期		
	332323	非行・犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)		2	1・2	前期		
	332324	産業精神保健特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		2	1・2	前期		
	332325	心の健康教育特論 (心の健康教育に関する理論と実践)		2	1・2	前期		
	332310	臨床心理査定演習 1 (心理的アセスメントに関する理論と実践)		2	1・2	前期		
	332311	臨床心理査定演習 2 (臨床現場と心理アセスメント)		2	1・2	後期		
	332312	臨床心理基礎実習 1		1	1	前期		「臨床心理基礎実習 1」の単位修得者のみ
	332314	臨床心理基礎実習2a		1	1	前期		
	332315	臨床心理基礎実習2b		1	1	後期		
	332326	心理実践実習1a		2	1	後期		
	332327	臨床心理実習1a (心理実践実習1b)		2	2	前期		
	332328	臨床心理実習1b (心理実践実習1c)		2	2	後期		
	332329	臨床心理実習2a (心理実践実習 3)		1	2	前期		
	332319	臨床心理実習2b		1	2	後期		
	332330	心理実践実習2a		2	1	後期		
	332331	心理実践実習2b		2	2	前期		
	332332	心理実践実習2c		2	2	後期		

前期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
専門中心科目	331104	社会福祉方法特論		2	1・2	前期	「社会福祉学専修」は科目群の専門中心科目 「社会福祉学専修」から8単位以上選択必修	
	331201	社会福祉調査法演習		2	1・2	前期		
	332108	地域福祉特論		2	1・2	前期		
	332109	高齢者福祉特論		2	1・2	後期		
	332121	ソーシャルワーク史特論		2	1・2	後期		
	332119	社会福祉法特論		2	1・2	前期		
	332115	医療福祉特論		2	1・2	後期		
	332122	スーパービジョン（演習）		2	2	前期		社会福祉学専修の学生のみ
	332201	言語心理学特論		2	1・2	前期	「言語聴覚学専修」は科目群の専門中心科目 「言語聴覚学専修」から8単位以上選択必修	
	332202	言語聴覚病理学特論 1		2	1・2	後期		
	332203	言語聴覚病理学特論 2		2	1・2	前期		
	332204	言語聴覚療法特論		2	1・2	後期		
	332205	言語発達障害学演習		2	1・2	後期		
	332206	発声発語障害学演習		2	1・2	前期		
	332207	高次脳機能障害学演習		2	1・2	前期		
	332208	聴覚障害学演習		2	1・2	後期		
	332209	摂食嚥下障害学演習		2	1・2	後期		
	332231	聴覚生理学特論		2	1・2	後期		
	332210	視覚心理学特論		2	1・2	前期	「視覚科学専修」は科目群の専門中心科目 「視覚科学専修」から8単位以上選択必修	
	332211	生理光学特論		2	1・2	後期		
	332212	視覚病理学特論		2	1・2	後期		
	332213	視覚障害学特論		2	1・2	前期		
	332214	視覚心理学演習		2	1・2	後期		
	332215	視能検査学演習		2	1・2	後期		
	332216	視能矯正学演習		2	1・2	前期		
	332217	視覚障害学演習 1		2	1・2	後期		
	332218	視覚障害学演習 2		2	1・2	前期		
	332219	健康医科学特論		2	1・2	前期	「スポーツ・健康医科学専修」は科目群の専門中心科目 「スポーツ・健康医科学専修」から8単位以上選択必修	2 時限授業 隔週開講
	332222	健康発達看護学特論		2	1・2	後期		
	332228	環境健康科学特論		2	1・2	後期		
	332229	地域栄養活動演習		2	1・2	前期		
	332224	精神保健演習		2	1・2	後期		
	332227	生理機能検査学特論		2	1・2	後期		
	332230	スポーツ認知心理学特論		2	1・2	前期		
	332232	健康心理学特論		2	1・2	後期		
	332233	スポーツ文化論特論		2	1・2	前期		
	332236	医療管理情報学特論		2	1・2	前期		
	332238	循環・代謝障害理学療法学特論		2	1・2	後期		
	332237	健康運動科学特論		2	1・2	後期		

前期課程

科目群		科目番号	科 目	必修 単位	選択 単位	履修 年次	開講学期	修了要件	備 考
研究科目	心理学専修	333101	心理学研究 1	2		1	前期	心理学専修は 8単位必修	
		333102	心理学研究 2	2		1	後期		
		333103	心理学研究 3	2		2	前期		
		333104	心理学研究 4	2		2	後期		
	臨床心理学専修	333301	臨床心理学研究 1	2		2	前期	臨床心理学専修は 4単位必修	
		333302	臨床心理学研究 2	2		2	後期		
	社会福祉学専修	333105	社会福祉研究 1	2		1	前期	社会福祉学専修は 8単位必修	
		333106	社会福祉研究 2	2		1	後期		
		333107	社会福祉研究 3	2		2	前期		
		333108	社会福祉研究 4	2		2	後期		
	言語聴覚学専修	333201	言語聴覚学研究 1	2		1	前期	言語聴覚学専修は 8単位必修	
		333202	言語聴覚学研究 2	2		1	後期		
		333203	言語聴覚学研究 3	2		2	前期		
		333204	言語聴覚学研究 4	2		2	後期		
	視覚科学専修	333205	視覚科学研究 1	2		1	前期・後期	視覚科学専修は 8単位必修	
		333206	視覚科学研究 2	2		1	前期・後期		
		333207	視覚科学研究 3	2		2	前期・後期		
		333208	視覚科学研究 4	2		2	前期・後期		
	スポーツ・健康医科学専修	333213	スポーツ・健康医科学研究 1	2		1	前期	スポーツ・健康医科学専修は 8単位必修	
		333214	スポーツ・健康医科学研究 2	2		1	後期		
		333215	スポーツ・健康医科学研究 3	2		2	前期		
		333216	スポーツ・健康医科学研究 4	2		2	後期		

修了要件

心理医療科学研究科博士前期課程を修了するためには、1年又は2年以上在学して上記カリキュラム表の修了要件欄に掲げる要件を各専修毎で満たした上、自由履修単位（心理医療科学研究科前期課程のすべての科目）を加えて合計30単位以上修得し、修士論文の作成と審査に合格しなければならない。ただし、各専修ともに在学期間に関しては、研究科委員会によって特に優秀な学生または優れた研究の実績を持つと認められた者は、特例として1年以上在学すれば修了を認定することができる。

なお、臨床心理学専修については、臨床心理士および公認心理師の受験資格取得のためのカリキュラムにより構成されているため、それらの科目すべてを履修する必要がある、1年での修了は認定されない。

2 「臨床心理士」受験資格

(財)日本臨床心理士資格認定協会 「臨床心理士」受験資格に関する大学院研究科専攻課程(修士)の指定運用内規(抜粋)

第4条

(4)

大学院の課程は、以下の臨床心理学またはその近接領域の授業科目を開設すること。必修科目の「特論」「演習」は、専任の臨床心理士有資格者をもってあてる。また、「臨床心理実習」は、実習施設において、実際に受理面接、心理査定、心理面接などを行い、ケースカンファレンス、スーパービジョンなどを含むものとする。実習に関する科目は、複数の指導者が担当し、すべて臨床心理士の資格を有すること。かつ、必修科目および選択必修科目E群は、当該専攻(コース・領域)者に特化して開講されるものとする。

① 必修科目・単位

資格認定協会が指定する科目	本学での対応科目
臨床心理学特論 (4)	臨床心理学特論1 (青年期・成人期の心理臨床)
	臨床心理学特論2 (児童期の心理臨床)
臨床心理面接特論 (4)	臨床心理面接特論1 (心理支援に関する理論と実践)
	臨床心理面接特論2 (力動論と行動論)
臨床心理査定演習 (4)	臨床心理査定演習1 (心理的アセスメントに関する理論と実践)
	臨床心理査定演習2 (臨床現場と心理アセスメント)
臨床心理基礎実習 (2)	臨床心理基礎実習 1
	臨床心理基礎実習2a
	臨床心理基礎実習2b
臨床心理実習 (2)	臨床心理実習1a (心理実践実習1b)
	臨床心理実習1b (心理実践実習1c)
	臨床心理実習2a (心理実践実習3)
	臨床心理実習2b

- ② 選択必修科目群：前項①に定める必修科目以外の臨床心理学またはその近接領域に関連する授業科目（実習を含む）は、当分の間、以下の科目に関連する科目とする。

	資格認定協会が指定する科目	本学での対応科目
A群	心理学研究法特論	(該当科目なし)
	心理統計法特論	心理医療科学統計演習1 心理医療科学統計演習2
	臨床心理学研究法特論	臨床心理学研究法特論
B群	人格心理学特論	(該当科目なし)
	発達心理学特論	認知発達心理学特論
		生涯発達心理学特論
		比較発達行動学特論
	学習心理学特論	(該当科目なし)
	認知心理学特論	認知神経心理学特論
		応用認知心理学特論
C群	比較心理学特論	比較心理学特論
	教育心理学特論	教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開B)
	社会心理学特論	コミュニケーション心理学特論
		対人社会心理学特論
	人間関係学特論	(該当科目なし)
	社会病理学特論	(該当科目なし)
	家族心理学特論	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A)
D群	犯罪心理学特論	非行・犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)
	臨床心理関連行政論	(該当科目なし)
	精神医学特論	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開A)
		産業精神保健特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)
	心身医学特論	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開B)
	神経生理学特論	(該当科目なし)
	老年心理学特論	(該当科目なし)
E群	障害者（児）心理学特論	障害児発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)
	精神薬理学特論	(該当科目なし)
	投映法特論	投映法特論
	心理療法特論	(該当科目なし)
	学校臨床心理学特論	(該当科目なし)
	グループアプローチ特論	グループアプローチ特論
	臨床心理地域援助特論	(該当科目なし)

第6条 指定された第1種大学院は、以下の1)、2)、3)の各号を充たす大学院生に対し、資格認定のための受験資格に関する証明書を発行することができる。

- 1) 必修科目から5科目16単位、選択必修科目群(A、B、C、D、E)からそれぞれ2単位以上、計26単位を修得していること。
- 2) 修士論文のテーマと内容が臨床心理学に関連するものであること。
- 3) 当該指定修士課程を修了した者。

本大学院心理医療科学研究科臨床心理学専修は、(財)日本臨床心理士資格認定協会が指定する第1種大学院である。上記の第6条に示される「受験資格に関する証明書」は、個人で使用する証明書ではなく、受験を申請するためのものである。就職活動等の個人的・一般的な証明書には対応しない。

3 「公認心理師」受験資格

「公認心理師」は、国の定める公認心理師法に則って与えられる国家資格である。大学で心理学に関する所定の科目を履修したうえで、①大学院に進学して指定された科目を履修するか、②指定された業務に就いて所定の実務経験を積むか、いずれかの方法によって受験資格が得られる。なお、大学院に在籍している間に学部開設科目を履修することで資格科目に充てることが認められていない。

（大学において履修が求められる科目については、本学心理学部の履修要覧を参照されたい）

本学では、心理医療科学研究科臨床心理学専修に在籍している場合に、公認心理師受験資格取得に必要な科目の履修が可能となる。以下に示す「1. 心理実践科目」12科目と、「2. 心理実践実習科目」7科目をすべて履修することにより、公認心理師資格試験の受験資格が認められる。

1. 心理実践科目

該当する分野	心理医療科学研究科開講科目	開講期	単位数
保健医療分野	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開A)	1・2年 後期	2
	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開B)	1・2年 前期	2
福祉分野	障害児発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	1・2年 後期	2
教育分野	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開A)	1・2年 後期	2
	教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開B)	1・2年 前期	2
司法分野	非行・犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	1・2年 前期	2
産業・労働分野	産業精神保健特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	1・2年 前期	2
心理アセスメント	臨床心理査定演習 1 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	1・2年 前期	2
心理支援	臨床心理面接特論 1 (心理支援に関する理論と実践)	1・2年 前期	2
家族関係・集団・ 地域社会	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に 関する理論と実践A)	1・2年 後期	2
	地域支援心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に 関する理論と実践B)	1・2年 後期	2
心の健康教育	心の健康教育特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	1・2年 前期	2

※ 上記12科目のすべてを、公認心理師受験資格のための必修とする。

2. 心理実践実習科目

心理医療科学研究科開講科目	開講期	単位数	時間数	備考
心理実践実習1a	1年後期	2	60時間	(注1)
心理実践実習2a	1年後期	2	90時間	(注2)
臨床心理実習1a (心理実践実習1b)	2年前期	2	60時間	(注1)
臨床心理実習1b (心理実践実習1c)	2年後期	2	60時間	(注1)
臨床心理実習2a (心理実践実習3)	2年前期	1	30時間	(注3)
心理実践実習2b	2年前期	2	90時間	(注2)
心理実践実習2c	2年後期	2	90時間	(注2)

(注1)〈履修上の注意〉1) を参照

(注2)〈履修上の注意〉2) を参照

(注3)〈履修上の注意〉3) を参照

〈履修上の注意〉

- 1) 心理実践実習のうち1はa・b・cともに学外施設における実習とする。3科目の履修を通して、以下の3類の施設の全てを履修することを、単位認定のための必須条件とする。

なお、このうちA類の実習は、2年次に実施する。

A類：保健医療分野の施設（医療機関に限る）

B類：教育・司法分野の施設

C類：福祉・産業分野の施設

学外施設における実習の実習時間数には、以下の活動が含まれる。

- ①施設の通常支援業務に関わる設備の見学
 - ②施設における心理専門職の業務およびチームアプローチ、多職種連携についての講義
 - ③各施設における要支援者への支援活動に参加し支援活動を実践すること（事例とする要支援者に対する支援を含む）
 - ④事例とする要支援者に関する包括的査定および支援計画の作成
 - ⑤実習指導者ないし実習担当教員による、事例に関する指導
 - ⑥実習担当教員による実習全体に関する事前および事後の指導
- 担当ケースに関する実習としては、上記の③、④、⑤を主たる活動とする。

学外施設における実習は、1a、1b、1cそれぞれ1科目2単位につき、施設内での実質の実習時間として40時間以上を確保する。この40時間につき、事前指導および記録の整理に10時間、学内と施設での事後指導に10時間を要するものとして60時間の換算とする。このうち担当ケースに関する実習時間数は30時間以上確保する。心理実践実習1a、1b、1c 3科目あわせて、計180時間以上とし、そのうち担当ケースに関する実習時間を計90時間以上とする。

なお、実習指導は、原則として個別指導ないしは5名以内の小集団での指導によるものとする。

心理実践実習1a・1b・1cの学外実習では、実習費を徴収する。また、前期課程1年の4月当初に、学外施設の実習に必要な抗体の有無を調べる抗体検査を行う予定である。その後必要な抗体をワクチン接種することになるため、その費用も必要となることを念頭に置いておくこと。

- 2) 心理実践実習のうち2は、a・b・cともに学内実習施設である心理臨床相談室における心理相談等の実践に係る実習とする。

この実習においては、実習時間数を以下のように算定する。

実習生が個別に担当するケースへの支援（心理面接・心理検査面接等）1時間につき、事前準備・指導と記録に2時間、事後指導に1時間を要するものとして、合計4時間の換算とする。その他小集団で行われる、心理臨床相談室での事例に関する指導時間も算定に含めるものとし、1科目2単位につき、それぞれ90時間を目安とし単位が認定される。心理実践実習2a、2b、2cそれぞれを学内施設における事例担当として、計270時間とする。

なお、実習指導は、原則として個別指導ないしは5名以内の小集団での指導によるものとする。

- 3) 心理実践実習の3は、心理臨床相談室における実践に係るケース・カンファレンスへの参加に対して単位認定するものである。ケース・カンファレンスは、複数教員による少人数グループでの指導であるが、臨床心理士・公認心理師資格を持った、心理臨床相談室の相談員等も随時参加して助言指導が行われる。また、通常の授業期間外等にも行われ、それらも成績評価においては勘案される。
- 4) 上記のすべての実践実習科目（心理実践実習1a・1b・1c計180時間以上、うち事例担当90時間以上、心理実践実習2a・2b・2c計270時間以上、心理実践実習3を30時間、合計480時間以上）に指定する時間数は、単位認定するための下限を示した目安であり、これを上限とするものではない。

3. 大学の科目履修証明について

2018年度以降の大学院入学者には、大学において履修が求められる科目の履修が必要になる。2018年度以降に大学に入学する者については、指定された25科目すべての履修が必要となるが、2017年度までに大学に入学しているか卒業している場合には、科目の読み替えが認められている。なお、大学における履修が指定されている科目を、大学院に入学後に履修して不足分を補うことは認められていない。

読替科目は、大学によって違っているため、各自の出身大学に問い合わせたうえ、公認心理師受験資格に係る科目履修証明書の発行を受けておかれたい。資格試験の受験申請のとき必要になる。

1 修業・在学年限

後期課程の標準修業年限は3年とし、後期課程に進学または入学後6年まで在学することができる。

2 修了要件

後期課程に3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上で、次の各号を満たした者に、「愛知淑徳大学学位規程」に基づいて博士（心理学、社会福祉学、言語聴覚学、視覚科学、健康科学）の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた場合、博士課程に3年（前期課程または修士課程を修了した者は、その2年の在学期間を含む）以上在学すれば、修了を認定することができる。

なお、在籍期間が複数年にわたる場合は、毎年度に研究科委員会によって開催される「博士論文中間報告会」において研究報告を行うとともに、毎年度末に「研究成果報告書」を提出しなければならない。

3 修得すべき単位

博士論文作成を中心目的とした特殊研究を12単位以上取得し、博士論文の作成と審査に合格すること。

4 博士論文

（1）研究計画書および研究成果報告書の提出

指導教員の指導のもとに研究計画書を作成し、毎年度、指定された日時までに研究科委員会に提出しなければならない。また、毎年度末に研究成果報告書を作成し、指定された日時までに提出しなければならない。併せて、研究科委員会が開催する「博士論文中間報告会」において、口頭による研究報告を行わなければならない。なお、研究を実施する場合は、事前に倫理委員会へ倫理審査申請を行い、承認を得なくてはならない。

（2）研究指導

学生の希望および研究計画書に基づき、研究科委員会において研究指導教員を決定する。研究科委員会は、必要に応じて研究指導補助教員を指名することができる。

研究指導教員は、当該指導生に対し、博士後期課程1年次には、修士論文等をまとめ学術雑誌へ投稿し、その後にも、博士論文に添付する、第1著者としての学術論文1篇あるいは2篇（1篇の場合は、大学・研究所等の紀要を除く審査制度のある学術誌掲載論文、2篇の場合は、審査制度のある大学・研究所等の紀要を含む学術誌掲載論文）を投稿するよう指導する。

博士課程後期3年次では、各学生の研究の進展状況に応じ、提出期限の6か月前までに、博士論文提出に必要な学識と技能を持つか否か、また、研究課題と方法とが妥当か否かを判断し、適切な場合には、「研究成果報告書」に基づいて、必要な助言・指導を与えて、論文作成作業に入るよう指導する。

(3) 提出書類

学位授与を申請する者は「愛知淑徳大学大学院心理医療科学研究科博士学位審査規則」に基づき、下記の書類を所定の部数提出しなければならない。

- | | | |
|-----------|--------|----------|
| ① 学位授与申請書 | ② 学位論文 | ③ 副論文 |
| ④ 参考論文 | ⑤ 論文目録 | ⑥ 主論文の要旨 |
| ⑦ 履歴書 | | |

このうち、②学位論文は、第1著者として発表された審査制度のある学術誌（審査制度のある大学・研究所等の紀要を除く）掲載論文をもって代えても良い。③副論文については、「博士学位審査規則施行細則」第3条3項を充たすものとする。すなわち、副論文は主論文の主要部分を含むものとし、第1著者として発表された、大学・研究所等の紀要を除く審査制度のある学術誌掲載論文1篇以上、もしくは審査制度のある大学・研究所等の紀要を含む学術誌掲載論文2篇以上とする。ただし、論文博士の場合は、申請時の前5年以内に発表されたものに限る。

(4) 博士論文の提出およびその審査

博士論文は、指定の期間内に提出しなければならない。また、博士論文が受理されたときには、研究科委員会の選定した審査委員（主査1名と副査2名以上）によって論文審査を行う。博士論文は、課程による場合（課程博士）は修了予定学期末日の1ヵ月前までに、論文による場合（論文博士）は受理された後1年以内に審査を終了する。なお課程博士の場合は、博士後期課程進学又は入学から在学6年以内に博士論文の審査が終了するよう、博士論文を提出しなければならない。

なお、主査は本研究科研究指導教員でなければならない。また副査の内1名は、他専修（コース）、本学他研究科、他大学等の教員・教官としなければならない。

博士学位論文の評価基準は、修士論文において求められた論文の完成度に加えて、さらに以下の点が評価基準となる。

- ① 当該領域もしくは近接する他領域の研究に影響を与え、発展させる基盤となる研究であること
- ② 当該領域の研究を指導する立場に相応しい見識に基づいた研究論文であること

5 学位試験

- (1) 学位試験は、論文審査終了後、筆記または口頭で行う。
- (2) 学位試験は、論文の内容およびこれに関連ある専門分野の学識並びに研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の能力または高度で専門的な職業に従事するに必要な高度の能力について審査する。
- (3) 学位を授与された後に、不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき、または、その名誉を汚辱する行為があったときは、研究科委員会および大学院委員会の議を経て、学位を取消し、返還させる。
- (4) 学位を授与されたら、1年以内に、学位論文を印刷公表しなければならない（学位授与前に印刷公表したものを除く）。ただし、学位論文を第1著者として発表された審査制度のある学術誌（大学・研究所等の紀要を除く）掲載論文をもって代えた場合は、改めての印刷公表は必要としない。

6 修了認定

研究科委員会は、博士論文の審査および学位試験の結果に関する報告をもとに、課程修了認定の可否を審議する。論文による学位授与申請についても、同様とする。

7 学位の名称

以上の全てを満たした者に、「愛知淑徳大学学位規程」に基づいて、博士（心理学、社会福祉学、言語聴覚学、視覚科学、健康科学）の学位を授与する。

8 提出すべき書類と提出期限

学生は研究科および各専修が別に定める書類に加え、下記の書類を期限までに提出しなければならない。

	書 類	提出年度	2025年度入学者の提出時期*
(1)	研究指導教員届	入学年度	5月初旬
(2)	履修計画書	毎年度	5月初旬
(3)	研究計画書	毎年度	5月初旬
(4)	博士論文	修了予定年度	(注)

(注)学位審査を当該年度内に終了させるためには6月1日から6月10日の間（大学営業日に限る）に、次年度前期までに終了させるためには12月1日から12月10日の間（大学営業日に限る）に提出すること。

(1)～(3)の書式ファイルはCampusSquareから各自でダウンロードすること。

*提出期限の詳細な日程はガイダンス時に説明を行う。



心理医療科学研究科 博士後期課程 カリキュラム表

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

心理医療科学専攻科目

後期課程

科目群	科目番号	科 目	必修 単位	選択 単位	履修 年次	開講学期	修了要件	備 考
心理学専修	336101	心理学特殊研究Ⅰa	2		1	前期	各年次4単位以上、 合計12単位選択必修	
	336102	心理学特殊研究Ⅰb	2		1	後期		
	336103	心理学特殊研究Ⅱa	2		2	前期		
	336104	心理学特殊研究Ⅱb	2		2	後期		
	336105	心理学特殊研究Ⅲa	2		3	前期		
	336106	心理学特殊研究Ⅲb	2		3	後期		
臨床心理学専修	336601	臨床心理学特殊研究Ⅰa	2		1	前期	各年次4単位以上、 合計12単位選択必修	
	336602	臨床心理学特殊研究Ⅰb	2		1	後期		
	336603	臨床心理学特殊研究Ⅱa	2		2	前期		
	336604	臨床心理学特殊研究Ⅱb	2		2	後期		
	336605	臨床心理学特殊研究Ⅲa	2		3	前期		
	336606	臨床心理学特殊研究Ⅲb	2		3	後期		
社会福祉学専修	336201	社会福祉学特殊研究Ⅰa	2		1	前期	各年次4単位以上、 合計12単位選択必修	
	336202	社会福祉学特殊研究Ⅰb	2		1	後期		
	336203	社会福祉学特殊研究Ⅱa	2		2	前期		
	336204	社会福祉学特殊研究Ⅱb	2		2	後期		
	336205	社会福祉学特殊研究Ⅲa	2		3	前期		
	336206	社会福祉学特殊研究Ⅲb	2		3	後期		
言語聴覚学専修	336301	言語聴覚学特殊研究（言語心理学）1		2	1	前期	各年次4単位以上、 合計12単位選択必修	
	336302	言語聴覚学特殊研究（言語聴覚学）1		2	1	前期		
	336303	言語聴覚学特殊研究（言語発達障害学）1		2	1	前期		
	336331	言語聴覚学特殊研究（聴覚神経科学）1		2	1	前期		
	336306	言語聴覚学特殊研究（言語心理学）2		2	1	後期		
	336307	言語聴覚学特殊研究（言語聴覚学）2		2	1	後期		
	336308	言語聴覚学特殊研究（言語発達障害学）2		2	1	後期		
	336332	言語聴覚学特殊研究（聴覚神経科学）2		2	1	後期		
	336311	言語聴覚学特殊研究（言語心理学）3		2	2	前期		
	336312	言語聴覚学特殊研究（言語聴覚学）3		2	2	前期		
	336313	言語聴覚学特殊研究（言語発達障害学）3		2	2	前期		
	336333	言語聴覚学特殊研究（聴覚神経科学）3		2	2	前期		
	336316	言語聴覚学特殊研究（言語心理学）4		2	2	後期		
	336317	言語聴覚学特殊研究（言語聴覚学）4		2	2	後期		
	336318	言語聴覚学特殊研究（言語発達障害学）4		2	2	後期		
	336334	言語聴覚学特殊研究（聴覚神経科学）4		2	2	後期		
	336321	言語聴覚学特殊研究（言語心理学）5		2	3	前期		
	336322	言語聴覚学特殊研究（言語聴覚学）5		2	3	前期		
	336323	言語聴覚学特殊研究（言語発達障害学）5		2	3	前期		

後期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
言語聴覚学専修	336335	言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 5		2	3	前期	各年次4単位以上、 合計12単位選択必修	
	336326	言語聴覚学特殊研究 (言語心理学) 6		2	3	後期		
	336327	言語聴覚学特殊研究 (言語聴覚学) 6		2	3	後期		
	336328	言語聴覚学特殊研究 (言語発達障害学) 6		2	3	後期		
	336336	言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 6		2	3	後期		
視覚科学専修	336443	視覚科学特殊研究 (視能矯正学a) 1		2	1	前期・後期	各年次4単位以上、 合計12単位選択必修	
	336444	視覚科学特殊研究 (視能矯正学b) 1		2	1	前期・後期		
	336403	視覚科学特殊研究 (視覚障害学) 1		2	1	前期・後期		
	336405	視覚科学特殊研究 (視覚心理学a) 1		2	1	前期・後期		
	336406	視覚科学特殊研究 (視覚心理学b) 1		2	1	前期・後期		
	336407	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 1		2	1	前期・後期		
	336445	視覚科学特殊研究 (視能矯正学a) 2		2	1	前期・後期		
	336446	視覚科学特殊研究 (視能矯正学b) 2		2	1	前期・後期		
	336410	視覚科学特殊研究 (視覚障害学) 2		2	1	前期・後期		
	336412	視覚科学特殊研究 (視覚心理学a) 2		2	1	前期・後期		
	336413	視覚科学特殊研究 (視覚心理学b) 2		2	1	前期・後期		
	336414	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 2		2	1	前期・後期		
	336447	視覚科学特殊研究 (視能矯正学a) 3		2	2	前期・後期		
	336448	視覚科学特殊研究 (視能矯正学b) 3		2	2	前期・後期		
	336417	視覚科学特殊研究 (視覚障害学) 3		2	2	前期・後期		
	336419	視覚科学特殊研究 (視覚心理学a) 3		2	2	前期・後期		
	336420	視覚科学特殊研究 (視覚心理学b) 3		2	2	前期・後期		
	336421	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 3		2	2	前期・後期		
	336449	視覚科学特殊研究 (視能矯正学a) 4		2	2	前期・後期		
	336450	視覚科学特殊研究 (視能矯正学b) 4		2	2	前期・後期		
	336424	視覚科学特殊研究 (視覚障害学) 4		2	2	前期・後期		
	336426	視覚科学特殊研究 (視覚心理学a) 4		2	2	前期・後期		
	336427	視覚科学特殊研究 (視覚心理学b) 4		2	2	前期・後期		
	336428	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 4		2	2	前期・後期		
	336451	視覚科学特殊研究 (視能矯正学a) 5		2	3	前期・後期		
	336452	視覚科学特殊研究 (視能矯正学b) 5		2	3	前期・後期		
	336431	視覚科学特殊研究 (視覚障害学) 5		2	3	前期・後期		
	336433	視覚科学特殊研究 (視覚心理学a) 5		2	3	前期・後期		
	336434	視覚科学特殊研究 (視覚心理学b) 5		2	3	前期・後期		
	336435	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 5		2	3	前期・後期		
	336453	視覚科学特殊研究 (視能矯正学a) 6		2	3	前期・後期		
	336454	視覚科学特殊研究 (視能矯正学b) 6		2	3	前期・後期		
	336438	視覚科学特殊研究 (視覚障害学) 6		2	3	前期・後期		
	336440	視覚科学特殊研究 (視覚心理学a) 6		2	3	前期・後期		
	336441	視覚科学特殊研究 (視覚心理学b) 6		2	3	前期・後期		
	336442	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 6		2	3	前期・後期		
スポーツ・健康医科学専修	336543	スポーツ・健康医科学特殊研究 (医療管理情報学) 1		2	1	前期	各年次4単位以上、 合計12単位選択必修	
	336544	スポーツ・健康医科学特殊研究 (スポーツ心理学) 1		2	1	前期		
	336567	スポーツ・健康医科学特殊研究 (循環・代謝障害理学療法) 1		2	1	前期		
	336545	スポーツ・健康医科学特殊研究 (生理機能検査学) 1		2	1	前期		

後期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
スポーツ・健康医科学専修	336546	スポーツ・健康医科学特殊研究(スポーツ史) 1		2	1	前期	各年次4単位以上、合計12単位選択必修	
	336547	スポーツ・健康医科学特殊研究(医療管理情報学) 2		2	1	後期		
	336548	スポーツ・健康医科学特殊研究(スポーツ心理学) 2		2	1	後期		
	336568	スポーツ・健康医科学特殊研究(循環・代謝障害理学療法学) 2		2	1	後期		
	336549	スポーツ・健康医科学特殊研究(生理機能検査学) 2		2	1	後期		
	336550	スポーツ・健康医科学特殊研究(スポーツ史) 2		2	1	後期		
	336551	スポーツ・健康医科学特殊研究(医療管理情報学) 3		2	2	前期		
	336552	スポーツ・健康医科学特殊研究(スポーツ心理学) 3		2	2	前期		
	336569	スポーツ・健康医科学特殊研究(循環・代謝障害理学療法学) 3		2	2	前期		
	336553	スポーツ・健康医科学特殊研究(生理機能検査学) 3		2	2	前期		
	336554	スポーツ・健康医科学特殊研究(スポーツ史) 3		2	2	前期		
	336555	スポーツ・健康医科学特殊研究(医療管理情報学) 4		2	2	後期		
	336556	スポーツ・健康医科学特殊研究(スポーツ心理学) 4		2	2	後期		
	336570	スポーツ・健康医科学特殊研究(循環・代謝障害理学療法学) 4		2	2	後期		
	336557	スポーツ・健康医科学特殊研究(生理機能検査学) 4		2	2	後期		
	336558	スポーツ・健康医科学特殊研究(スポーツ史) 4		2	2	後期		
	336559	スポーツ・健康医科学特殊研究(医療管理情報学) 5		2	3	前期		
	336560	スポーツ・健康医科学特殊研究(スポーツ心理学) 5		2	3	前期		
	336571	スポーツ・健康医科学特殊研究(循環・代謝障害理学療法学) 5		2	3	前期		
	336561	スポーツ・健康医科学特殊研究(生理機能検査学) 5		2	3	前期		
	336562	スポーツ・健康医科学特殊研究(スポーツ史) 5		2	3	前期		
	336563	スポーツ・健康医科学特殊研究(医療管理情報学) 6		2	3	後期		
	336564	スポーツ・健康医科学特殊研究(スポーツ心理学) 6		2	3	後期		
	336572	スポーツ・健康医科学特殊研究(循環・代謝障害理学療法学) 6		2	3	後期		
	336565	スポーツ・健康医科学特殊研究(生理機能検査学) 6		2	3	後期		
	336566	スポーツ・健康医科学特殊研究(スポーツ史) 6		2	3	後期		

修了要件

心理医療科学研究科博士後期課程を修了するためには、原則として3年以上在学して上記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査および試験に合格しなければならない。

健康栄養科学研究科

1 ディプロマ・ポリシー(人材養成像)

健康栄養科学研究科の設置の趣旨目的（養成すべき人材像）は、「高い倫理観を有し、栄養学を構成する人間、食物、環境、さらには栄養学に関する臨床医学領域などの高度かつ先進的な知識や技術に基づいて、地域が抱える諸問題を多職種連携の中でリーダーシップを発揮しながら解決していく高度専門職業人の養成」である。

そして、教育研究上の修得目標つまり学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）は以下の通りとする。

健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻 ディプロマ・ポリシー(DP)

- ① (DP1) 高度専門職業人として高い倫理観に裏打ちされたリーダーシップにより、社会に貢献しようとする態度を修得する。
- ② (DP2) 栄養学を構成する人間、食物、環境、さらには栄養学に関連する臨床医学領域の高度な専門知識を修得する。
- ③ (DP3) 上記の知識を基盤として、栄養学に関わる問題点を自ら抽出して、科学的根拠に基づいて分析し、それを解決する能力を修得する。
- ④ (DP4) 自らの専門知識や技能を後世に指導教授する能力を修得する。

なお、以上の方針で養成された人材は、大学院修士課程修了後は次の①～③の社会需要に応じていくことを想定している。

- ① 地域で栄養ケア・マネジメントを担う管理栄養士のリーダー
- ② 地域包括ケアなどの政策を立案実施する行政機関の専門職員
- ③ 管理栄養士養成機関において後進を育成する教員

2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系的性を記したもの)

本研究科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）は4つのDPに示す能力を修得する課程として、以下の通りに編成する。

健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻 カリキュラム・ポリシー(CP)

- ① (CP1) 地域において他職種と積極的に連携する姿勢と対人技術（コミュニケーション能力や指導力）を修得する教育課程
- ② (CP2) 医療・介護・福祉等、人々の健康に密接する領域における高度な知識・技術を学び問題解決能力を修得する教育課程
- ③ (CP3) 栄養や食に関する高度な知識・技術を学び問題解決能力を修得する教育課程

この課程を「専門基礎科目」、「専門中心科目」及び「研究科目」の3つの基本的枠組みを以って、体系的に構成する。そして、学生の知的好奇心や将来設計・進路に応じたコースワークが可能な課程とする。

「専門基礎科目」は、医療・介護・福祉に関わる多職種の専門職者と信頼関係を構築し、連携及び協働することができる能力（科目名：「チーム医療概論」(CP1)）、医療・介護・福祉領域の実践活動における栄養ケア・マネジメントの実態を理解し、制度上の課題を主体的に捉え解決策を見出す能力（科目名：「栄養ケア・マネジメント概論」(CP1)）、

在宅ケアとリハビリテーションの概要を学び、栄養ケアに求められる医療的・社会的ニーズを理解する能力（科目名：「在宅ケア・リハビリテーション概論」（CP2））、高齢化社会における健康増進の視点から疾病予防のあり方と実践方法を理解する能力（科目名：「予防医学概論」（CP2））、栄養疫学な考え方を軸とし、地域に住む様々な人々の状況をミクロ及びマクロの両面より捉えアプローチできる能力（科目名：「地域栄養学概論」（CP3））、栄養学とそれに密接する学問領域における量的及び質的研究を遂行する能力及び医療倫理の考え方（科目名：「臨床研究法と医療倫理」（CP3））を修得できる科目群とし、学生の知的好奇心や将来設計・進路に応じて複数の科目から選択できるように配慮する。

「専門中心科目」は、学士課程（基礎となる学部である本学健康医療科学部健康栄養学科の教育課程）における基礎栄養科学領域と「人体の構造と機能を含む基礎医学」や「疾病の成り立ちや治療を含む臨床医学」などの健康栄養科学領域として発展させた「生活習慣病特論」と「生活習慣病演習Ⅰ～Ⅳ」や「口腔健康科学特論」と「口腔健康科学演習Ⅰ～Ⅳ」、そして管理栄養士養成課程の専門分野である「臨床栄養学」などを基盤として発展させた「臨床栄養学特論」と「臨床栄養学演習Ⅰ～Ⅳ」、「応用栄養学特論」と「応用栄養学演習Ⅰ～Ⅳ」及び「健康食事学特論」と「健康食事学演習Ⅰ～Ⅳ」、さらに、「栄養教育論」を基盤として発展させた「栄養教育論特論」と「栄養教育論演習Ⅰ～Ⅳ」、次いで「公衆栄養学」を基盤として発展させた「公衆衛生学特論」と「公衆衛生学演習Ⅰ～Ⅳ」や「地域栄養学特論」と「地域栄養学演習Ⅰ～Ⅳ」からなる科目群である。本科目群も、「専門基礎科目」と同様、複数の科目から学生の知的好奇心や将来設計・進路に応じて選択できるように配慮している。

そして、「研究科目」群では、指導教員の指導のもと、栄養学とそれに密接に関わる学問領域の問題点を自ら抽出して、それを科学的なアプローチにより解明あるいは解決し、修士論文を完成させる。また、論文作成のための指導と並行して、高度専門職業人に要求される実践的な問題解決能力、論理的思考力などを総合的に涵養していく。

3 アドミッション・ポリシー

教育・研究目的

少子高齢化が急速に進む我が国において、現在の医療・介護と栄養を取り巻く社会的要請としては、「高齢者が地域で自立した生活を営むために、栄養を含む医療や介護領域の多職種間の連携を強化してこれを支援する、そのことによって要介護状態に陥ることを防ぎ健康寿命を延伸する」ことにあると言える。本研究科は、このような背景の下で、「栄養を含む医療や介護領域において、高度かつ先進的な知識や技術に基づいて、地域が抱える諸問題を多職種連携の中でリーダーシップを発揮しながら解決していく高度専門職業人」を養成することを目的とする。

学生に期待すること

本研究科の教育・研究目的を達成するために、入学生には以下の能力を期待する。

- （１）栄養学を構成する人間、食物、環境、さらには栄養学に関連する生理学から臨床医学領域において学士課程修了相当の基礎的な知識・技能
 - （２）栄養学に関する問題を自ら発見し、問題解決に向け、科学的根拠に基づいて実証的に分析し、論理的に思考する能力
 - （３）高いコミュニケーション能力を用いて他職種と協働でき、積極的かつ主体的にチームを牽引する能力
- 上述する能力に加えて、大学院における学修や研究に真摯に取り組む姿勢や意欲を有する者を求める。

学生募集に際して重視すること

全ての入試形態において、栄養学とそれに関連する学問領域の基礎的知識を有していることが大前提である。それに加えて、２年間の学修・研究計画が具体化されていることを重視する。その上で、希望する専門分野への適性や当該学問分野の学術的発展や後進の育成に貢献しようという意欲と高い志を評価して合否判定を行う。

入学前学修として推奨すること

栄養を含めた医療や介護領域にとどまらず、広い視野で人間社会を俯瞰するような視点を有することを心がけてほしい。人類学や社会学、行動科学や心理学などにも興味を示してその領域の学修を深めておいてほしい。

1 修業・在学年限

修業年限は2年とし、社会人入学生についても同様とする。ただし、特に優れた業績を上げた学生については、1年以上在学すれば足りるものとする。

また、医療機関や企業等で勤務している者で本学における学修を希望する者に応えるため、勤務を続けながらの学修が可能となるよう大学院設置基準第15条に基づいた長期履修制度を活用する。長期履修を認めることのできる期間は4年以内とし、1年を単位として認めるものとする。

2 修了要件

修了要件は、本研究科に1年又は2年以上在学し、専門基礎科目を8単位以上（必修4単位を含む）、専門中心科目を14単位以上、研究科目を8単位（必修）の合計30単位以上を修得した上で、修士論文の作成と審査に合格した者に、修士の学位を授与する。

なお、専門中心科目は、指導教員が担当する特論2単位を含めた特論6単位以上と指導教員が担当する演習8単位を履修することを条件とする。

3 成績評価基準

本研究科における各科目の成績評価については、次の基準に基づいて行う。A評定を優れた水準であると位置づけ、特段に優れたものをA+、さらに努力を要するものを、その程度と質に応じてBないしCとし、合格の域に達していないものをFと判定する。

4 研究計画・学修計画

（1）研究指導教員

学生の専攻分野の研究を指導するため、学生ひとりに1名の主指導教員及び1名以上の副指導教員を置く。学生は、入学年度の4月末日までに研究指導教員届を提出する。

（2）履修計画書・研究計画書

学生は、指導教員の指導のもと、履修計画書及び研究計画書を作成し、入学年度の5月第2週の金曜日までに提出する。

主指導教員は研究指導上のプロセスを学生に明示し、学生一人一人に対しその段階に合ったきめ細やかな研究指導体制を整える。研究指導を行うにあたり、副指導教員は研究題目の内容に沿った指導を個別に実施し、修了へ向けた研究・論文などの進め方について必要な助言を行う。

5 修士論文

研究科目では、健康栄養科学領域に関するテーマについて研究を進めながら、高度専門職業人に要求される実践的な問題解決能力、論理的思考力などを総合的に養うことを目的に研究指導する。研究指導において、修士論文のテーマに関連する最新トピックスについて討議を行うことによってテーマに対する理解を深めると同時に、周辺分野に関する知見を広めテーマの新規性と有用性を正しく認識することを目指す。

6 学位試験

学位論文審査にあたっては、愛知淑徳大学学位規程に則り、審査の厳格性と透明性を十分に確保しながら行う。具体的には、研究科委員会において学位審査委員会を設置し、その審査を行うこととする。学位審査委員会は、学位論文の内容に関連する当該研究科の教員3人以上（当該学位申請者を担当する指導教員を含む）の審査委員により構成するものとする。なお、論文審査において研究分野の特殊性などを鑑み、研究科委員以外の審査員が必要とされる場合は、愛知淑徳大学学位規程第12条2項に基づき本研究科委員会承認の上、必要に応じて研究科委員以外の学識者を副査に加えることができる。

また、修士論文の審査に加えて公開で実施する修士論文発表会において口頭試問を行い、審査の透明性を確保する。主査・副査の合議に基づいて作成した審査報告書を研究科委員会にて審査し合否について議決する。

論文審査にあたっては、その研究が、①学術的意義を有しているか、②新規性及び創造性を有しているか、③栄養学及びその関連学術領域において応用価値を有しているかどうか、という観点から厳正に行う。なお、以下に記す審査基準はガイダンスなどで事前に周知する。

健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻 修士論文に係る審査基準

- ① 研究目的の学術的意義並びに社会的意義
- ② 学術的背景と目的設定の整合性と適切性
- ③ 目的に応じて選択された研究方法の妥当性と信頼性
- ④ 結果から導かれた考察の適切性・妥当性
- ⑤ 研究内容の新規性や独自性
- ⑥ 論文全体を通しての論理的整合性
- ⑦ 表現や表記の的確性
- ⑧ 倫理的配慮の適切性

7 修了認定

学位試験の項で示した項目を総合的に勘案し、口頭試験の結果と合わせて修士学位審査結果として指導教員より文書表記にて研究科委員会に報告され、合否判定はその報告に基づいて行われる（報告内容は指導教員を介して当該学位申請者に通知される）。

8 学位の名称

本研究科の学位名称については「修士（健康栄養科学）」とし、その英語名称を「Master of Science in Health and Nutritional Sciences」とする。



健康栄養科学研究科 修士課程 カリキュラム表

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

健康栄養科学専攻科目

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
専門基礎科目	340001	チーム医療概論	2		1・2	後期	8単位以上（必修4単位を含む） どちらか2単位を選択必修 どちらか2単位を選択必修	
	340002	栄養ケア・マネジメント概論	2		1・2	後期		
	340003	在宅ケア・リハビリテーション概論		2	1・2	前期		
	340004	予防医学概論		2	1・2	前期		
	340005	地域栄養学概論		2	1・2	前期		
	340006	臨床研究法と医療倫理		2	1・2	後期		
専門中心科目	340007	生活習慣病特論		2	1・2	前期	14単位以上	隔年開講
	340008	生活習慣病演習Ⅰ		2	1	前期		
	340009	生活習慣病演習Ⅱ		2	1	後期		
	340010	生活習慣病演習Ⅲ		2	2	前期		
	340011	生活習慣病演習Ⅳ		2	2	後期		
	340012	地域栄養学特論		2	1・2	後期		隔年開講
	340013	地域栄養学演習Ⅰ		2	1	前期		
	340014	地域栄養学演習Ⅱ		2	1	後期		
	340015	地域栄養学演習Ⅲ		2	2	前期		
	340016	地域栄養学演習Ⅳ		2	2	後期		
	340017	栄養教育論特論		2	1・2	前期		隔年開講
	340018	栄養教育論演習Ⅰ		2	1	前期		
	340019	栄養教育論演習Ⅱ		2	1	後期		
	340020	栄養教育論演習Ⅲ		2	2	前期		
	340021	栄養教育論演習Ⅳ		2	2	後期		
	340022	応用栄養学特論		2	1・2	後期		隔年開講
	340023	応用栄養学演習Ⅰ		2	1	前期		
	340024	応用栄養学演習Ⅱ		2	1	後期		
	340025	応用栄養学演習Ⅲ		2	2	前期		
	340026	応用栄養学演習Ⅳ		2	2	後期		
	340027	公衆衛生学特論		2	1・2	後期		隔年開講
	340028	公衆衛生学演習Ⅰ		2	1	前期		
	340029	公衆衛生学演習Ⅱ		2	1	後期		
	340030	公衆衛生学演習Ⅲ		2	2	前期		
	340031	公衆衛生学演習Ⅳ		2	2	後期		

科目群	科目番号	科 目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備 考
専門中心科目	340032	臨床栄養学特論		2	1・2	前期		隔年開講
	340033	臨床栄養学演習Ⅰ		2	1	前期		
	340034	臨床栄養学演習Ⅱ		2	1	後期		
	340035	臨床栄養学演習Ⅲ		2	2	前期		
	340036	臨床栄養学演習Ⅳ		2	2	後期		
	340037	健康食事学特論		2	1・2	前期		隔年開講
	340038	健康食事学演習Ⅰ		2	1	前期		
	340039	健康食事学演習Ⅱ		2	1	後期		
	340040	健康食事学演習Ⅲ		2	2	前期		
	340041	健康食事学演習Ⅳ		2	2	後期		
	340042	口腔健康科学特論		2	1・2	後期		隔年開講
	340043	口腔健康科学演習Ⅰ		2	1	前期		
	340044	口腔健康科学演習Ⅱ		2	1	後期		
	340045	口腔健康科学演習Ⅲ		2	2	前期		
	340046	口腔健康科学演習Ⅳ		2	2	後期		
研究科目	340047	栄養科学特別研究Ⅰ	2		1	前期	8単位 (必修)	
	340048	栄養科学特別研究Ⅱ	2		1	後期		
	340049	栄養科学特別研究Ⅲ	2		2	前期		
	340050	栄養科学特別研究Ⅳ	2		2	後期		

修了要件

健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻を修了するためには、1年又は2年以上在学して、専門基礎科目を8単位以上（必修4単位を含む）、専門中心科目を14単位以上、研究科目を8単位（必修）の合計30単位以上を修得した上で、修士論文の作成と審査に合格すること。

なお、専門基礎科目のうち、「在宅ケア・リハビリテーション概論」、「予防医学概論」から2単位を選択必修とし、「地域栄養学概論」、「臨床研究法と医療倫理」から2単位を選択必修とする。

また、専門中心科目は、修士論文を指導する教員（以下「指導教員」という。）の専門領域と類似する専門領域の特論2単位を含めた特論6単位以上と指導教員の専門領域と類似する専門領域の演習8単位を履修することを条件とし、指導教員の専門領域と類似する専門領域の特論2単位を除く特論4単位以上は、次頁に定める履修上の制約を設ける。

専門中心科目における履修上の制約について

卒業要件である専門中心科目を14単位以上修得する（修士論文を指導する教員（以下「指導教員」という。）の専門領域と類似する専門領域の特論2単位を含めた特論6単位以上と指導教員の専門領域と類似する専門領域の演習8単位を履修することを条件とする）。うち、指導教員の専門領域と類似する専門領域の特論2単位を除く特論4単位以上を履修する際は、以下の制約を設ける。

指導教員の専門領域と類似する専門領域の特論	履修上の制約を設ける特論（履修する際の制約）	
「生活習慣病特論」を履修する場合	⇒ 「地域栄養学特論」 「栄養教育論特論」 「公衆衛生学特論」 から2単位以上を履修	⇒ 「応用栄養学特論」 「臨床栄養学特論」 「健康食事学特論」 から2単位以上を履修
「地域栄養学特論」 又は 「栄養教育論特論」 を履修する場合	⇒ 「生活習慣病特論」 「公衆衛生学特論」 「口腔健康科学特論」 から2単位以上を履修	⇒ 「応用栄養学特論」 「臨床栄養学特論」 「健康食事学特論」 から2単位以上を履修
「応用栄養学特論」 又は 「臨床栄養学特論」 又は 「健康食事学特論」 を履修する場合	⇒ 「公衆衛生学特論」 を履修	⇒ 「生活習慣病特論」 「地域栄養学特論」 「栄養教育論特論」 から2単位以上を履修
	⇒ 「地域栄養学特論」 「栄養教育学特論」 から2単位以上を履修	⇒ 「生活習慣病特論」 「公衆衛生学特論」 「口腔健康科学特論」 から2単位以上を履修
「公衆衛生学特論」を履修する場合	⇒ 「応用栄養学特論」 「臨床栄養学特論」 「健康食事学特論」 から2単位以上を履修	⇒ 「生活習慣病特論」 「地域栄養学特論」 「栄養教育論特論」 から2単位以上を履修
「口腔健康科学特論」を履修する場合	⇒ 「地域栄養学特論」 「栄養教育学特論」 から2単位以上を履修	⇒ 「応用栄養学特論」 「臨床栄養学特論」 「健康食事学特論」 から2単位以上を履修
	⇒ 「公衆衛生学特論」 及び 「生活習慣病特論」 を履修	

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科

1 ディプロマ・ポリシー(人材養成像)

(1) 博士前期課程

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科博士前期課程は、日本語・日本語教育専修、総合英語専修、東アジア言語文化専修からなる言語文化コースと、国際交流・観光専修、グローバルスタディーズ専修からなる交流文化コースによって構成されている。本研究科は、グローバル市民意識の涵養と異文化理解という教育理念のもと、本学の教育理念でもある「違いを共に生きる」を実践し、社会的に還元しうる人材を養成することを目的とし、以下の能力を修得した学生に対して修士の学位を授与する。

- ① 一定以上の論理的思考力もとに、現代グローバル社会におけるさまざまな課題を発見し、解決するための提案をすることができる。
- ② 各専門分野に関する広い視野と深い見識を有し、研究成果を国内外に発信するための言語運用能力を修得している。
- ③ 自らの研究テーマに必要な高度な情報分析能力と問題解決力を確実に身につけ、その研究テーマに関する先行研究を踏まえた上で、グローバル市民意識と高度な異文化理解に基づく新たな知見を提示することができる。

以上の能力を修得するために、1年または2年以上在学して必要な研究指導を受けた上で、所属するコースの定める所定の単位を含む30単位以上を修得し、修士学位論文の審査および学位試験に合格するか、研修科目を履修し、34単位以上を修得した上で、実践研究レポートを作成し学位試験に合格することを修了要件とする。修士学位論文は学術的・教育的価値によって評価する。

(2) 博士後期課程

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科博士後期課程では、博士前期課程の学修・研究を踏まえて専門分野における研究をいっそう発展させることにより、グローバル社会の発展に理論・実践両面から貢献可能な人材を育成することを教育目的とし、以下の能力を修得した学生に対して博士の学位を授与する。

- ① 高度な論理的思考力を有し、現代グローバル社会におけるさまざまな課題を発見し、解決するための提案をすることができる。
- ② 各専門分野に関する広い視野と深い見識を有し、研究成果を国内外に発信するための高度な言語運用能力を修得している。
- ③ 自らの研究テーマに必要な高度な情報分析能力と問題解決力を確実に身につけ、その研究テーマに関しての先行研究を踏まえた上で、グローバル市民意識と高度な異文化理解に基づく新たな知見を提示することができる。
- ④ 当該の研究分野に独創的な知見を新たに加えることにより、当該分野に貢献する能力を備えている。

以上の能力を修得するために、原則3年以上在学して必要な研究指導を受けた上で、博士の学位論文の審査および学位試験に合格することを修了要件とする。博士論文は、体系性を有しかつ独創的なものでなければならず、その学術的価値によって評価する。

2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの)

2020年度以降入学者

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに基づき、「グローバル市民社会意識・異文化理解・地域および国際社会の変容に対応する人材を育成」という教育理念を専門的に深化させるべく、多くの研究分野にわたって学修をする機会を与えられるよう教育課程を編成している。

(1) 博士前期課程

学生各自の研究テーマに応じた「言語文化コース」または「交流文化コース」の主要な研究分野における専修ごとに、専門性を極めるための体系的な教育課程を編成するとともに、学際性を推進するための専修横断的な履修を可能とする。学生は所属する専修の開設科目を中心に履修しつつも、自由に他専修の開設科目を履修することができる。研究科の修了要件は修士学位論文の作成を選択した場合は30単位、「研修科目」を履修し実践研究レポートの作成を選択した場合は34単位である。

教育目標を達成するために研究科としての開設科目は以下の通りである。

- ① コース、専修に関わる理論や研究テーマについて学修する専門科目群および演習科目群に関しては、1・2年次に選択できるよう科目を開講する。
- ② 海外研修を行う専門分野における実践的な活動を行う研修科目群に関しては、1・2年次に選択できるよう科目を開講する。
- ③ 修士学位論文作成のための課題実践科目では各専修に対応した専門分野に関する研究指導科目によって構成する。これらの科目を履修し、研究指導担当教員から研究指導を受ける。課題実践科目は1・2年次開講であり、全ての専修において選択必修科目とする。

(2) 博士後期課程

博士前期課程での学修・研究成果を踏まえて、専門分野における研究を一層深化発展させることにより、時代の要請に応える特に高度な技術・見識を有する専門職業人を養成するとともに、また自立して活動できる研究後継者を養成することを目標とする。その目標を実現するために、三年間継続して研究指導担当教員の授業科目「特殊研究(1)」(1年目)、「特殊研究(2)」(2年目)および「特殊研究(3)」(3年目)の12単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査および学位試験に合格した者に学位を与えることとする。

博士学位論文は、原則として一つの課題について考究したものであって、体系性を有しかつ独創的なものでなければならず、その学術的価値によって評価する。

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科では、研究指導教員に加えて、研究指導補助教員を配置し、関連する分野の教員からの幅広い視野のもとで研究を行えるよう環境を整える。これにより、研究分野の高度の専門性の追求とともに複眼的見地から独創的研究を行えるよう指導と助言を行う。研究科の全分野の院生及び教員が参加する発表会で年1回以上の口頭発表を課すことで、授業科目の成果を客観的に評価・確認し、グローバル社会の発展に貢献できる高度な技術・見識を含めた研究内容となるように指導と助言を継続的に行う。

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科概要

〔言語文化コース〕

【日本語・日本語教育専修】

日本語・日本語教育専修では、日本語の言語面、運用面での特徴を語彙論、統語論、語用論などの理論的視点から追究する研究を通して日本語についてより専門的な知識を獲得すること、そして日本語を外国語及び第2言語として学習する人々に対する教育に関する理論的・実践的研究を実施し、効果的な言語習得法を探索することを目標とする。

【総合英語専修】

総合英語専修では、英語の語彙面、構造面、音声面などにおける言語的特徴、そして英語に関する言語習得や言語教育に関する理論的な研究に加えて、文学や映画などの文化的産物を通して英語の背景にある社会や文化に焦点をあてた研究を実施する能力を養成する。それらの分野での研究活動を通して、英語、英語の運用、英語文化についてより深い知見を持った研究者や実践者を育成することを目標とする。

【東アジア言語文化専修】

東アジア言語文化専修では、主に中国語および韓国・朝鮮語に関して、言語の構造、語彙、言語運用面での特徴や言語教育に関する研究に加えて、その他の言語との比較研究、さらに文学や文化に焦点をあてた研究を行うことにより、それぞれの言語やその背景にある社会、歴史、文化に関しての高度な知識と理解を修得することを目指す。

【交流文化コース】**【国際交流・観光専修】**

国際交流・観光専修では、グローバル化に伴う人の移動と接触、地域間での連帯や協力、そして国家間関係の歴史や現状を国際関係や国際交流という視点から知見を深める一方、近年特に注目をされている観光や街づくりをも研究対象とし、問題の発見・解決・提案というプロセスを中心にした理論的、実践的研究を行う力を培うことを目標とする。それらの研究を通して、社会の発展に寄与できる実践力を持つ人材の育成を目指す。

【グローバルスタディーズ専修】

グローバルスタディーズ専修では、グローバル化が進む国際社会における日本の姿に注目した研究、日本と海外の社会システム、言語や心理に関する比較研究を通し、異文化に精通した人材を育成する。また実践面では、異文化交流、教育、ビジネスの場面で国際語である英語を駆使しながら活躍できる人材の育成を目標とする。授業はすべて英語で行う。

3 アドミッション・ポリシー

教育・研究目的

急速な変容を遂げている現代国際社会は、国家間及び民族間の協調共存の維持と同時に、個人の活動を含め、信頼関係に立った実践的な貢献の必要性を各国の市民に問うている。本研究科が目指しているのは、異文化理解、市民交流の意識を持って社会に実践的に働きかける人材を育成することである。さらに「違いを共に生きる」を理念とし、社会人の再教育の場及び自己実現の場を提供している。

本研究科は学生の研究テーマに基づき、言語文化コースと交流文化コースの2つに分かれている。言語文化コースは、日本語・日本語教育専修、総合英語専修、東アジア言語文化専修、そして交流文化コースは国際交流・観光専修及びグローバルスタディーズ専修に細分され、それぞれの学生の研究が深められるような授業が提供されている。

学生に期待すること

博士前期課程では学部教育で培った専門領域に関する基礎知識を基に、自らの設定した特定課題を広い視野から批判的な目を持って追究し、意見を様々な言語で表現する能力を持つ者、また高めていきたい者を求めている。強い意志と意欲で研究し、その結果を人々の生活や社会の発展に貢献しようとする態度を持っていることが重要視される。博士後期課程では前期課程での学修等を基盤に、独自の視点と研究方法により研究テーマに対してあらたな発見をもたらす学問の発展や社会問題の解決に寄与することを目標としていることを期待する。

学生募集に際して重視すること

博士前期課程では、人々の行動を社会、文化、ビジネス、そして言語やコミュニケーションなどの理論的視点からその現状を把握、分析することはもとより、さまざまな文化圏の人々がより豊かな生活を享受するために自分の研究を役立てたいと考えている学生の出願を歓迎する。また、博士後期課程へ出願をする者は、独自の研究テーマを一層専門的に研究し、将来は専門の研究領域に関する高度な知識と技術を必要とする業務に従事しようとする意欲を持つことが望まれる。

入学前学修として推奨すること

本研究科博士前期課程にて実りある研究活動を行うために、英語をはじめとする外国語コミュニケーションスキル、人間の本質を理解しようとする好奇心、世界のさまざまな出来事・問題を分析する力、その結果を適切な言葉で表現、伝達する技術を所属学部・学科での学修を通して培うことを推奨する。一方、博士後期課程では、より意義深く精緻な研究を実施するため、関連分野の理論や研究法に関する知識を十分に身につけることにより、あらかじめ研究の基盤を構築しておくことを推奨する。

1 修業・在学年限

標準修業年限は2年とし、在学年限は4年とする。

2 修了要件

前期課程に2年以上在学し、必要な研究指導を受けた上で、次の各号のすべてを満たした者に、「愛知淑徳大学学位規程」に基づいて修士（学術）の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げたと認められた場合、1年以上在学すれば修了を認定することができる。

（1）修得すべき単位

研究科で定める30単位以上を修得しなければならない。

（2）学位論文または実践研究レポート

修士の学位論文の審査に合格しなければならない。修士論文を提出しない者は、研修科目4単位を含む34単位以上を修得のうえ、実践研究レポートの審査に合格しなければならない。

（3）学位試験

修士論文または実践研究レポートの内容に関する学位試験（口述試験）に合格しなければならない。

3 修士論文・実践研究レポート

修士論文は、博士前期課程での研究を学術的論文としてまとめるものである。

修士論文としての要件：

- ① 問題意識が明確で、論文のテーマが適切であること。
- ② 論理の展開が適切であり、説得力があること。
- ③ 先行研究論文を十分に調べ、それが論文に生かされていること。
- ④ テーマに基づく結論が導き出されていること。

実践研究レポートは修士論文に代えて執筆するものである。

実践研究レポートとしての要件：

- ① 「研修科目」の学修をベースにしたものであるが、個人的な体験の羅列はしないこと。
- ② 論理の展開が適切であり、説得力があること。
- ③ 特定の専門分野への実践的提言として、仮説、前提、方法が適切であること。
- ④ 特定の専門分野に対して、実際に有効性（実現可能性）、貢献度が認められること。

（1）入学後定められた指導教員の指導を受けて、「履修計画書」「研究計画書」を作成し、指定の期間内に提出しなければならない。

（2）修士論文・実践研究レポートの中間・構想・計画発表、発表のための予稿集原稿の提出は、修士論文・実践研究レポート執筆のための必要条件である。

（3）修士論文・実践研究レポートの執筆要項の詳細は指導教員の指示に従う。

(4) 修士論文・実践研究レポート執筆スケジュール

事項		日程	
		4月入学	10月入学
1年目	「履修計画書」提出	4月末日	10月末日
	「研究指導教員届」提出	4月末日	10月末日
	「研究計画書」提出	4月末日	10月末日
	修士論文・実践研究レポート計画発表	11月上旬	6月上旬
2年目	修士論文・実践研究レポート構想発表	6月上旬	11月上旬
	修士論文・実践研究レポート中間発表	11月上旬	6月上旬
	修士論文・実践研究レポート提出	1月10日	7月10日
	修士論文・実践研究レポート口述試験	1月下旬	7月下旬

※修士論文・実践研究レポートの提出日は、原則1月10日、7月10日とするが、当該年度の提出日は(5)のとおりである。

※年2回開催される「修士論文・実践研究レポート 中間・構想・計画発表会」の開催日程は各年度のはじめに決定し、院生に通知する。

(5) 修士論文・実践研究レポートの提出は次の通りとする。

- 1) 提出方法：所定の提出書（受領書）に氏名を記入し、修士論文・実践研究レポート原本1部とコピー2部、A4判2枚程度にまとめた修士論文・実践研究レポート要旨3部を提出する。
- 2) 提出場所：教学事務室（星が丘キャンパス）
- 3) 受付日時
別途通知する。

(6) 修士論文の審査基準は以下の通りとする。

- 1) 研究テーマの適切性
研究の学問的意義や問題意識・研究目的が明確であり、現代グローバル社会における課題解決において意義のある研究であるか。
- 2) 研究方法の妥当性
研究テーマにふさわしい学術上の研究方法および高度な情報分析能力が用いられているか。
- 3) 先行研究との関連性
先行研究論文を十分に調べ、当該分野の研究成果や研究動向の中に自らの研究成果を位置付けることができるか。
- 4) 研究の論理的整合性
論理の展開に一貫性があり、説得力があるか。体裁（表記、図表、引用、参考文献の提示など）が整っているか。
- 5) 研究の独自性と問題解決能力
グローバル市民意識と高度な異文化理解に基づく問題解決のための新たな知見を提示できているか。

4 学位試験

- (1) 学位試験は、修士論文または実践研究レポートの審査後、3名以上の審査委員によって行う。
- (2) 修士論文の学位試験（口述試験）では、その研究内容について、専門領域における十分な研究能力または高度の専門的職業能力が示されているかを審査する。実践研究レポートの学位試験（口述試験）では思考能力、企画運営能力、論理的判断力等が本研究科のプログラムの目的に照らして一定の水準に達しているかを審査する。



グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科 博士前期課程 カリキュラム表

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻科目

言語文化コース

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
日本語・日本語教育専修	195005	日本語教育特講		2	1・2	前期	専門科目のうち 4単位以上選択 必修	
	195006	日本語学特講		2	1・2	前期		
	195007	日本語文法特講		2	1・2	前期		
	195087	日本語音声学特講		2	1・2	前期		
	195008	日本語教育演習		2	1・2	後期	演習科目のうち 4単位以上選択 必修	
	195009	日本語学演習		2	1・2	後期		
	195010	日本語文法演習		2	1・2	後期		
	195088	日本語音声学演習		2	1・2	後期		
	195011	日本語教育課題実践a		2	1・2	前期	課題実践のうち 8単位以上選択 必修	隔年開講
	195012	日本語教育課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195013	日本語教育課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195014	日本語教育課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
総合英語専修	195015	英語統語論特講		2	1・2	前期	専門科目のうち 4単位以上選択 必修	
	195016	英語意味論特講		2	1・2	前期		
	195017	英語音声学特講		2	1・2	前期		
	195018	英語形態論特講		2	1・2	前期		
	195019	英語教育特講		2	1・2	前期		
	195020	アメリカ文学特講		2	1・2	前期		
	195021	イギリス文学特講		2	1・2	前期		
	195022	表象文化特講		2	1・2	前期		
	195023	アイルランド文学特講		2	1・2	前期		
	195761	言語獲得論特講		2	1・2	前期		
	195024	英語統語論演習		2	1・2	後期	演習科目のうち 4単位以上選択 必修	
	195025	英語意味論演習		2	1・2	後期		
	195026	英語音声学演習		2	1・2	後期		
	195027	英語形態論演習		2	1・2	後期		
	195028	英語教育演習		2	1・2	後期		
	195029	アメリカ文学演習		2	1・2	後期		
	195030	イギリス文学演習		2	1・2	後期		
	195031	表象文化演習		2	1・2	後期		
	195032	アイルランド文学演習		2	1・2	後期		
	195762	言語獲得論演習		2	1・2	後期		

言語文化コース

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
総合英語専修 課題実践	195033	英語統語論課題実践a		2	1・2	前期	課題実践のうち 8単位以上選択 必修	隔年開講
	195034	英語統語論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195035	英語統語論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195036	英語統語論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
	195037	英語意味論課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
	195038	英語意味論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195039	英語意味論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195040	英語意味論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
	195041	英語音声学課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
	195042	英語音声学課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195043	英語音声学課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195044	英語音声学課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
	195045	英語形態論課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
	195046	英語形態論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195047	英語形態論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195048	英語形態論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
	195049	英語教育課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
	195050	英語教育課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195051	英語教育課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195052	英語教育課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
	195053	アメリカ文学課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
	195054	アメリカ文学課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195055	アメリカ文学課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195056	アメリカ文学課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
	195057	イギリス文学課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
	195058	イギリス文学課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195059	イギリス文学課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195060	イギリス文学課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
	195061	表象文化課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
	195062	表象文化課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195063	表象文化課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195064	表象文化課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
	195065	アイルランド文学課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
	195066	アイルランド文学課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195067	アイルランド文学課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195068	アイルランド文学課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
	195763	言語獲得論課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
	195764	言語獲得論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195765	言語獲得論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195766	言語獲得論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講

言語文化コース

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
東アジア言語文化専修	195069	中国語教育特講		2	1・2	前期	専門科目のうち 4単位以上選択 必修	
	195070	日中比較言語学特講		2	1・2	前期		
	195071	アジア比較文化特講		2	1・2	前期		
	195072	中国語教育演習		2	1・2	後期	演習科目のうち 4単位以上選択 必修	
	195073	日中比較言語学演習		2	1・2	後期		
	195074	アジア比較文化演習		2	1・2	後期		
	195075	中国語教育課題実践a		2	1・2	前期	課題実践のうち 8単位以上選択 必修	隔年開講
	195076	中国語教育課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195077	中国語教育課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195078	中国語教育課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
	195079	日中比較言語学課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
	195080	日中比較言語学課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195081	日中比較言語学課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195082	日中比較言語学課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
	195083	アジア比較文化課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
	195084	アジア比較文化課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195085	アジア比較文化課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195086	アジア比較文化課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
専攻博士前期	195401	外国語教育実践演習（短期）		4	1・2	前期・後期	修士論文非提出 者は、研修科目 のうち4単位以 上必修	
	195402	外国語教育実践演習Ⅰ（長期）		6	1・2	前期		
	195405	外国語教育実践演習Ⅱ（長期）		6	1・2	後期		
	195501	言語文化研修（短期）		4	1・2	前期・後期		
	195502	言語文化研修（長期）		6	1・2	前期・後期		
	195627	英語教授法		2	1・2	前期	コース関連科目 のうち2単位以 上選択必修	
	195628	文芸翻訳		2	1・2	前期		隔年開講
	195629	身体文化論		2	1・2	前期		隔年開講
	195003	調査技法		2	1・2	前期		
	195004	プレゼンテーション技法		2	1・2	前期		

※ 前期課程修了要件

グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程（言語文化コース）を修了するためには、2年以上在学して、所属専修の専門科目4単位以上、所属専修の演習科目4単位以上、指導教員の課題実践8単位以上、所属コース関連科目2単位以上を含む30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。なお、30単位には、グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程（交流文化コース）の開設科目を含むことができる。また、修士論文を提出しない者は、研修科目（レポート提出を義務づける）4単位を含む計34単位以上修得しなくてはならない。この場合も、34単位には、グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程（交流文化コース）の開設科目を含むことができる。

交流文化コース

科目群	科目番号	科 目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備 考
国際交流・観光専修	専門科目	195406 多文化共生論特講		2	1・2	前期	専門科目のうち 4単位以上選択 必修	
		195407 国際NPO-NGO論特講		2	1・2	前期		
		195408 国際関係論特講		2	1・2	前期		
		195409 ディアスポラ論特講		2	1・2	前期		
		195410 エスニシティ論特講		2	1・2	前期		
		195411 歴史遺産論特講		2	1・2	前期		
		195412 観光文化論特講		2	1・2	前期		
		195413 観光マネジメント論特講		2	1・2	前期		
		195493 国際学特講		2	1・2	前期		
		195494 社会人類学特講		2	1・2	前期		
	演習科目	195414 多文化共生論演習		2	1・2	後期	演習科目のうち 4単位以上選択 必修	
		195415 国際NPO-NGO論演習		2	1・2	後期		
		195416 国際関係論演習		2	1・2	後期		
		195417 ディアスポラ論演習		2	1・2	後期		
		195418 エスニシティ論演習		2	1・2	後期		
		195419 歴史遺産論演習		2	1・2	後期		
		195420 観光文化論演習		2	1・2	後期		
		195421 観光マネジメント論演習		2	1・2	後期		
		195495 国際学演習		2	1・2	後期		
		195496 社会人類学演習		2	1・2	後期		
	課題実践	195422 多文化共生論課題実践a		2	1・2	前期	課題実践のうち 8単位以上選択 必修	隔年開講
		195423 多文化共生論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
		195424 多文化共生論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
		195425 多文化共生論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
		195426 国際NPO-NGO論課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
		195427 国際NPO-NGO論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
		195428 国際NPO-NGO論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
		195429 国際NPO-NGO論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
		195430 国際関係論課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
		195431 国際関係論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
		195432 国際関係論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
		195433 国際関係論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
		195434 ディアスポラ論課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
		195435 ディアスポラ論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
		195436 ディアスポラ論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
		195437 ディアスポラ論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
		195438 エスニシティ論課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
		195439 エスニシティ論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
		195440 エスニシティ論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
		195441 エスニシティ論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
		195442 歴史遺産論課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
		195443 歴史遺産論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
		195444 歴史遺産論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
		195445 歴史遺産論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
		195446 観光文化論課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
		195447 観光文化論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講

交流文化コース

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
国際交流・観光専修	195448	観光文化論課題実践c		2	1・2	前期	課題実践のうち 8単位以上選択 必修	隔年開講
	195449	観光文化論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
	195450	観光マネジメント論課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
	195451	観光マネジメント論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
	195452	観光マネジメント論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
	195453	観光マネジメント論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
グローバルスタディーズ専修	専門科目	195454 レトリック特講		2	1・2	前期	専門科目のうち 4単位以上選択 必修	
		195455 言語とコミュニケーション特講		2	1・2	前期		
		195456 メディア理論特講		2	1・2	前期		
		195457 異文化コミュニケーション論特講		2	1・2	前期		
		195458 日本文化研究特講		2	1・2	前期		
		195459 ビジネスコミュニケーション論特講		2	1・2	前期		
		195497 社会学特講		2	1・2	前期		
	演習科目	195460 レトリック演習		2	1・2	後期	演習科目のうち 4単位以上選択 必修	
		195461 言語とコミュニケーション演習		2	1・2	後期		
		195462 メディア理論演習		2	1・2	後期		
		195463 異文化コミュニケーション論演習		2	1・2	後期		
		195464 日本文化研究演習		2	1・2	後期		
		195465 ビジネスコミュニケーション論演習		2	1・2	後期		
		195498 社会学演習		2	1・2	後期		
	課題実践	195466 レトリック課題実践a		2	1・2	前期	課題実践のうち 8単位以上選択 必修	隔年開講
		195467 レトリック課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
		195468 レトリック課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
		195469 レトリック課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
		195470 言語とコミュニケーション課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
		195471 言語とコミュニケーション課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
		195472 言語とコミュニケーション課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
		195473 言語とコミュニケーション課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
		195474 メディア理論課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
		195475 メディア理論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
		195476 メディア理論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
		195477 メディア理論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
		195478 異文化コミュニケーション論課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
		195479 異文化コミュニケーション論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
		195480 異文化コミュニケーション論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
		195481 異文化コミュニケーション論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
		195482 日本文化研究課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
		195483 日本文化研究課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
		195484 日本文化研究課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
		195485 日本文化研究課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講
		195486 ビジネスコミュニケーション論課題実践a		2	1・2	前期		隔年開講
		195487 ビジネスコミュニケーション論課題実践b		2	1・2	後期		隔年開講
		195488 ビジネスコミュニケーション論課題実践c		2	1・2	前期		隔年開講
		195489 ビジネスコミュニケーション論課題実践d		2	1・2	後期		隔年開講

交流文化コース

科目群	科目番号	科 目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備 考
研修科目	195403	国際社会貢献実践演習（短期）		4	1・2	前期・後期	修士論文非提出者は、研修科目のうち4単位以上必修	
	195404	国際社会貢献実践演習（長期）		6	1・2	前期・後期		
	195503	地域文化交流研修（短期）		4	1・2	前期・後期		
	195504	地域文化交流研修（長期）		6	1・2	前期・後期		
コース関連科目	195608	ジェンダーと開発		2	1・2	後期	コース関連科目のうち2単位以上選択必修	
	195490	地域文化交流		2	1・2	後期		
	195491	ビジネスプレゼンテーション		2	1・2	前期		
	195492	グローバルビジネス		2	1・2	後期		
共通関連科目	195003	調査技法		2	1・2	前期		
	195004	プレゼンテーション技法		2	1・2	前期		

※ 前期課程修了要件

グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程（交流文化コース）を修了するためには、2年以上在学して、所属専修の専門科目4単位以上、所属専修の演習科目4単位以上、指導教員の課題実践8単位以上、所属コース関連科目2単位以上を含む30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。なお、30単位には、グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程（言語文化コース）の開設科目を含むことができる。また、修士論文を提出しない者は、研修科目（レポート提出を義務づける）4単位を含む計34単位以上修得しなくてはならない。この場合も、34単位には、グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程（言語文化コース）の開設科目を含むことができる。

1 修業・在学年限

標準修業年限は3年とし、後期課程に進学または入学後6年まで在学することができる。

2 修了要件

後期課程に3年以上在学し、必要な研究指導を受けたうえで、次の各号のすべてを満たした者に、「愛知淑徳大学学位規程」に基づいて博士（学術）の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた場合、博士課程に3年（博士前期課程または修士課程を修了した者は、その2年の在学期間を含む）以上在学すれば、修了を認定することができる。

- (1) 修得すべき単位
研究科で定める12単位以上を修得しなければならない。
- (2) 学位論文
博士の学位論文の審査に合格しなければならない。
- (3) 学位試験
学位論文を中心とした学位試験に合格しなければならない。

3 研究指導

- (1) 研究指導
博士後期課程においては、博士前期課程における研究の到達を一層発展・深化させ、その成果として博士論文を作成する。そのために、定められた教員による研究指導を受けなければならない。
- (2) 研究指導教員の決定
学生は、入学または進学年次の4月末日までに研究指導教員届を提出し、各コースはそれに基づいて研究指導担当教員を定め、研究科委員会に報告する。その際、主たる指導教員のほかに、従たる指導教員（複数可）を定めることができる。その場合、従たる指導教員は他コースまたは他研究科の教員をもって充てることができる。
- (3) 履修計画書および研究計画書の提出
学生は、研究指導教員の指導を受けて、履修計画書ならびに研究課題を含む研究計画書を作成し、入学または進学年次の6月末日までに提出しなければならない。
- (4) 研究中間報告書の提出
学生は、研究指導教員の指導を受けて、在学中の毎年度末に研究中間報告書を提出しなければならない。
- (5) 学内学会における研究発表
学生は、在学中に開催される公開の学内学会研究発表会において、口頭による研究発表を毎年度1回以上行わなければならない。

4 博士論文

- (1) 入学後、主と副の指導教員を定め、指導教員の指導のもとに研究計画書を作成し、指定された日時までに提出しなければならない。
- (2) 博士論文を提出するには、主指導教員から研究指導を受け、研究科で定める12単位を修得しなければならない。さらに随時、副指導教員の指導も受けなければならない。
- (3) 学生は毎年12月に研究論文および「研究成果報告書」を指導教員に提出し、その後、口頭審査を受けなければならない。
- (4) 博士の学位申請をする者は、申請期限の6ヵ月前までに「課程博士論文申請可否を決める発表会」の開催を指導教員に申請しなければならない。
- (5) 博士論文学位申請要件は、学会誌に掲載された3編以上の論文（副論文となる）が学位論文の主要部分を構成し、うち1編以上はレフリー付きの学会誌掲載のものでなければならない。
- (6) 博士論文は愛知淑徳大学大学院グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科博士学位審査規則に基づき、下記の書類を所定の部数提出しなければならない。
 - ① 学位授与申請書 ② 学位論文 ③ 副論文
 - ④ 参考論文 ⑤ 論文目録 ⑥ 主論文の要旨
 - ⑦ 履歴書
- (7) 博士論文は、提出された後1年以内に審査を終了する。
- (8) 博士論文は、指導教員を含む3名以上の教員によって審査を行う。
- (9) 博士論文の審査基準は、修士論文の審査基準に加えて、さらに以下の項目も含めて審査基準とする。
 - 1) 研究の独創性と体系性
当該の研究分野に独創的な知見が含まれており、体系性があるか。
 - 2) 研究の学術性と貢献度
グローバル社会において理論・実践両面から学術的・社会的価値を有し、当該分野の発展に貢献する研究であるか。

5 学位試験

- (1) 学位試験は、論文審査終了後、筆記または口頭で行う。
- (2) 学位試験は、論文の内容およびこれに関連ある専門分野の学識ならびに研究者として自立して研究活動を行うのに必要な高度の能力または高度で専門的な職業に従事するのに必要な高度の能力について審査する。
- (3) 学位を授与された後に、不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき、または、その名誉を汚辱する行為があったときは、研究科委員会および大学院委員会の議を経て、学位を取り消し、返還させる。
- (4) 学位を授与されたら、1年以内に、学位論文を印刷公表しなければならない。（学位授与前に印刷公表したものを除く。）

博士の学位論文申請は、下記の流れに沿って行われる。指導教員が開講する「特殊研究」（2単位）を各学期に履修し、3年の間に合計12単位を修得することが必要である。さらに、各年次において、下に示した手続き・発表会などを実施し、合格しなければならない。

1年次

研究指導教員届提出 研究計画書提出	(1) 指導教員の承認を得て、研究計画書を研究科長に提出する。	4月末
研究論文 博士後期課程研究成果報告書(1)	(1) 執筆した研究論文と研究成果報告書を指導教員に提出する。(2) 研究論文を基に口頭審査を受ける。指導教員を含む3名の審査委員が審査にあたる。	12月

2年次

研究論文 博士後期課程研究成果報告書(2)	(1) 執筆した研究論文と研究成果報告書を指導教員に提出する。(2) 研究論文を基に口頭審査を受ける。指導教員を含む3名の審査委員が審査にあたる。	12月
口頭審査2回合格後 博士論文執筆許可申請	3編以上の出版された研究論文（国際的または全国レベルのジャーナルに出版された査読付き論文1編を含む）がある場合に許可される。	

3年次

「課程博士論文申請の可否を決める発表会」開催申請書提出	学位申請のために指導教員1名を含む3名以上の発表会審査委員を研究科委員会にて決定し、研究科内部での公開発表を実施、予備審査へ進むかを判定する。	4月～6月申請書提出。 7月終わりまでに発表会を開催。
博士学位申請および予備審査	学位申請を受けて予備審査を行う。指導教員の承認を得たうえで研究科長に学位授与申請書・学位論文（正1部、副2部）・副論文を提出する。研究科委員会にて予備審査に合格と判断された場合、博士論文の本審査を実施する。	10月1日までに
博士論文の審査会	博士論文審査委員会（指導教員を含む3名以上の教員）は論文審査・筆記又は口述の試験および、公開の論文発表会を実施する。博士論文審査委員会の最終試験結果報告に基づき、研究科会議において博士論文の可否判定＝修了判定及び学位授与の決議をおこなう。	11月～2月
学位授与	修了認定者に対し、博士の学位を授与する。	3月

3年の学修を修了後に退学をした場合、学位申請をするために再入学をする必要がある。



1 グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻科目

後期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
言語文化コース	195910	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅰ (1)a		2	1	前期	合計12単位以上選択必修 各年次4単位以上、	
	195911	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅰ (1)b		2	1	後期		
	195912	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅰ (2)a		2	2	前期		
	195913	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅰ (2)b		2	2	後期		
	195914	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅰ (3)a		2	3	前期		
	195915	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅰ (3)b		2	3	後期		
	195928	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅳ (1)a		2	1	前期		
	195929	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅳ (1)b		2	1	後期		
	195930	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅳ (2)a		2	2	前期		
	195931	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅳ (2)b		2	2	後期		
	195932	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅳ (3)a		2	3	前期		
	195933	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅳ (3)b		2	3	後期		
	195934	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅴ (1)a		2	1	前期		
	195935	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅴ (1)b		2	1	後期		
	195936	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅴ (2)a		2	2	前期		
	195937	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅴ (2)b		2	2	後期		
	195938	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅴ (3)a		2	3	前期		
	195939	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅴ (3)b		2	3	後期		
	195940	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅵ (1)a		2	1	前期		
	195941	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅵ (1)b		2	1	後期		
	195942	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅵ (2)a		2	2	前期		
	195943	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅵ (2)b		2	2	後期		
	195944	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅵ (3)a		2	3	前期		
	195945	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅵ (3)b		2	3	後期		

後期課程

科目群	科目番号	科 目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備 考
言語文化コース	195946	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅶ (1)a		2	1	前期	各年次4単位以上、 合計12単位以上選択必修	
	195947	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅶ (1)b		2	1	後期		
	195948	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅶ (2)a		2	2	前期		
	195949	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅶ (2)b		2	2	後期		
	195950	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅶ (3)a		2	3	前期		
	195951	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅶ (3)b		2	3	後期		
	195958	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅸ (1)a		2	1	前期		
	195959	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅸ (1)b		2	1	後期		
	195960	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅸ (2)a		2	2	前期		
	195961	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅸ (2)b		2	2	後期		
	195962	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅸ (3)a		2	3	前期		
	195963	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅸ (3)b		2	3	後期		
	195964	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅹ (1)a		2	1	前期		
	195965	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅹ (1)b		2	1	後期		
	195966	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅹ (2)a		2	2	前期		
	195967	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅹ (2)b		2	2	後期		
	195968	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅹ (3)a		2	3	前期		
	195969	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅹ (3)b		2	3	後期		
交流文化コース	195916	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅱ (1)a		2	1	前期	各年次4単位以上、 合計12単位以上選択必修	
	195917	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅱ (1)b		2	1	後期		
	195918	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅱ (2)a		2	2	前期		
	195919	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅱ (2)b		2	2	後期		
	195920	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅱ (3)a		2	3	前期		
	195921	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅱ (3)b		2	3	後期		
	195922	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅲ (1)a		2	1	前期		
	195923	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅲ (1)b		2	1	後期		
	195924	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅲ (2)a		2	2	前期		
	195925	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅲ (2)b		2	2	後期		

後期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
交流文化コース	195926	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅲ (3)a		2	3	前期	各年次4単位以上、 合計12単位以上選択必修	
	195927	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅲ (3)b		2	3	後期		
	195952	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅷ (1)a		2	1	前期		
	195953	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅷ (1)b		2	1	後期		
	195954	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅷ (2)a		2	2	前期		
	195955	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅷ (2)b		2	2	後期		
	195956	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅷ (3)a		2	3	前期		
	195957	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究Ⅷ (3)b		2	3	後期		
	195970	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅠ (1)a		2	1	前期		
	195971	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅠ (1)b		2	1	後期		
	195972	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅠ (2)a		2	2	前期		
	195973	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅠ (2)b		2	2	後期		
	195974	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅠ (3)a		2	3	前期		
	195975	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅠ (3)b		2	3	後期		
	195976	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅡ (1)a		2	1	前期		
	195977	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅡ (1)b		2	1	後期		
	195978	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅡ (2)a		2	2	前期		
	195979	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅡ (2)b		2	2	後期		
	195980	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅡ (3)a		2	3	前期		
	195981	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅡ (3)b		2	3	後期		
	195982	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅢ (1)a		2	1	前期		
	195983	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅢ (1)b		2	1	後期		
	195984	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅢ (2)a		2	2	前期		
	195985	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅢ (2)b		2	2	後期		
	195986	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅢ (3)a		2	3	前期		
	195987	グローバルカルチャー・コミュニケーション 特殊研究ⅩⅢ (3)b		2	3	後期		

※ 後期課程修了要件

グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士後期課程を修了するためには、3年以上在学して上記科目中、指導教員（副指導教員を除く）の特殊研究を12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査および試験に合格しなければならない。

ビジネス研究科

1 ディプロマ・ポリシー(人材養成像)

(1) ビジネス専攻博士前期課程

ビジネス研究科博士前期課程では、企業等で活躍しうる問題解決能力を備えた人材、高度に専門的な職業人、あるいは大学院ビジネス研究科博士後期課程への進学者等となりうる人材を育成することを目的とし、以下の能力を全て修得した学生に対して修士の学位を授与する。

- ①各専門分野に関する十分な専門的知識と分析能力を修得している
- ②十分な論理的思考力を有し、ビジネスを取り巻く課題を発見、分析し、自らの研究テーマに必要な専門的・学術的、研究方法を身につけ、その研究テーマについての先行研究を踏まえ、新たな知見を提示できる能力を修得している
- ③国内外のビジネスの現場で通用する実践的スキルを修得している

以上の能力を修得するために、「専門的職業人コース（ビジネスプロフェッショナルコース）」と「研究者養成コース（リサーチプロフェッショナルコース）」を設置し、各コースの修了要件は以下のとおりとする。

専門的職業人コースでは、原則として2年以上在学して、34単位以上を修得し、課題研究レポートに関する審査および学位試験に合格したものに修士の学位を与える。なお、修士論文の執筆は妨げない。

研究者養成コースでは、原則として2年以上在学して、30単位以上を修得し、修士論文に関する審査および学位試験に合格したものに修士の学位を与える。

(2) ビジネス専攻博士後期課程

ビジネス研究科博士後期課程では、博士前期課程、修士課程での学修等、研究成果を踏まえ、専門分野における研究をさらに高度化、発展させることにより、ビジネスの各領域に関わる、学問の発展・向上に寄与でき、自立して活動できる研究者もしくは特に高度な専門的知識を有する職業人を育成することを目的とし、以下の能力を修得した学生に対して博士の学位を授与する。

- ①各専門分野に関する高度な専門的知識と分析能力を修得している
- ②高度な論理的思考力を有し、ビジネスを取り巻く課題を発見、分析する能力を修得している
- ③自らの研究テーマに必要な専門的・学術的、研究方法を身につけ、その研究テーマについての先行研究を踏まえ、独創的な知見を提示し、独立した研究者として研究を遂行する能力を修得している

以上の能力を修得するために、原則として3年以上在学して、必要な単位を修得し、研究指導を受けた上で博士の学位論文（以下、「博士論文」という。）を提出し、審査および学位試験において、十分な体系性、独創性を有した学術的価値が認められ、合格することをもって修了要件とする。

2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの)

(1) ビジネス専攻博士前期課程

ビジネス研究科博士前期課程においてはディプロマ・ポリシーに掲げた人材を育成するために、「アカウンティング専修」、「マネジメント&エコノミー専修」の2つの専門領域を設けるとともに、2つの修了要件「専門的職業人コース（ビジネスプロフェッショナルコース）」と「研究者養成コース（リサーチプロフェッショナルコース）」を設ける。

「専門的職業人コース（ビジネスプロフェッショナルコース）」と「研究者養成コース（リサーチプロフェッショナルコース）」それぞれのコースでは、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

【専門的職業人コース（ビジネスプロフェッショナルコース）】

- ①研究を進めるために必要な姿勢、研究倫理、方法論などについて学ぶことを目的として、必修科目の「基礎科目」を設置する（ディプロマ・ポリシーの①に対応）。
- ②必要とされる十分な専門知識を修得することを目的として、「アカウンティング専修」、「マネジメント&エコノミー専修」の2つの専門領域における「専門科目」を設置する。その中から、研究指導教員の指導の下に作成する研究計画、履修計画に沿った科目を選択し、規定の単位を修得する（ディプロマ・ポリシーの①に対応）。
- ③実践的課題を発見し、論理的思考力をもとに解決することを目的として、研究指導教員の「演習科目」を設置する（ディプロマ・ポリシーの②に対応）。
- ④国内外のビジネスの現場で通用する実践的スキルを身につけることを目的として、「実践科目」を設置する。実践科目は「グローバルビジネススキル」と「プラクティカルビジネススキル」で構成され、それぞれ4単位以上を修得する（ディプロマ・ポリシーの③に対応）。

【研究者養成コース（リサーチプロフェッショナルコース）】

- ①研究を進めるために必要な姿勢、研究倫理、方法論などについて学ぶことを目的として、必修科目の「基礎科目」を設置する（ディプロマ・ポリシーの①に対応）。
- ②必要とされる十分な専門知識を修得することを目的として、「アカウンティング専修」、「マネジメント&エコノミー専修」の2つの専門領域における「専門科目」を設置する。その中から、研究指導教員の指導の下に作成する研究計画、履修計画に沿った科目を選択し、規定の単位を修得する（ディプロマ・ポリシーの①に対応）。
- ③学術的課題を発見し、論理的思考力をもとに解決することを目的として、研究指導教員の「演習科目」を設置する（ディプロマ・ポリシーの②に対応）。
- ④国内外のビジネスの現場で通用する実践的スキルを身につけることを目的として、「実践科目」を設置する。実践科目は「グローバルビジネススキル」と「プラクティカルビジネススキル」で構成され、それぞれ2単位以上を修得する（ディプロマ・ポリシーの③に対応）。

(2) ビジネス専攻博士後期課程

博士前期課程、修士課程での学修等、研究成果を踏まえ、「アカウンティング専修」、「マネジメント&エコノミー専修」の各専門分野における研究をさらに高度化、発展させることにより、ビジネスの各領域に関わる学問の発展・向上に寄与し、独立して活動ができる研究者もしくは特に高度な専門的知識を有する職業人を育成することを目的とする。

この目的を達成するために博士論文作成を実質とする「特殊研究科目」を専修ごとに開講し、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

特殊研究科目

研究指導教員（主指導教員）の授業科目を3年以上履修して、博士論文作成のための指導を受けることとする。
原則として研究指導教員（主指導教員）の授業による12単位以上を修得することとする。

また、研究指導補助教員を置き、適宜その指導を加えて当該分野だけでなく隣接または異分野からの批判に堪えうる、広い視野に立ったより独創的で高度な自立的研究が展開できる環境を整える。

以上の授業科目の学修効果をさらに高めるために、後期課程では、半年ごと（5月と11月）に両専修合同で開催する、中間報告会での口頭発表を課し、専門性と学際性双方に秀でた研究活動を推進する。

また、研究指導教員、研究副指導教員は、担当学生の状況に合わせて、博士論文計画書作成から博士論文提出までの各段階で適切な指導と助言を行う。

3 アドミッション・ポリシー

（1）教育・研究目的

ビジネス研究科では、自ら考えるための専門的知識と問題解決能力を身につけた研究者や高度な専門的職業人を育成することを目指している。

博士前期課程では、この目標を実現するため専門的職業人コース（ビジネスプロフェッショナルコース）と研究者養成コース（リサーチプロフェッショナルコース）という2つの修了要件を設けている。専門的職業人コースは、所定の単位を修得すれば修士論文を必須とはせず、課題研究レポートをもって代えることができる。研究者養成コースは博士後期課程への進学を視野に研究能力を高めることを目指す。

博士後期課程では、広い視野に立つ高度な学識、分析能力を身につけるとともに、高度な専門性が求められる職業を担うための能力を培う。

（2）学生に期待すること

高度な知識とスキルを獲得する意欲、培った知識をベースに創造力と構想力のある提言を行い、プロフェッショナルとして活動することが求められる。

特に博士後期課程の学生については、修了後も研究テーマに強い意欲を持ち続け、自立した研究者として学術活動の進歩と発展に貢献する人材となることが期待される。

（3）学生募集に際して重視すること

多様な学歴と経歴を持つ学生を受け入れるが、それぞれの分野で学修に必要な、十分な知識を持つことが求められる。論理的にものごとを分析、考察する能力と共に、研究テーマに強い意欲を持ち続けられる学生を歓迎する。

特に博士後期課程の学生については、研究者としてさらなる学問的発展を目指す意欲を有することが求められる。

（4）入学前学修として推奨すること

博士前期課程においては、経営学、商学、経済学などビジネスに関する学問分野についての可能な限り高い知識を修得するとともに、経済・政治・社会などのニュースにも積極的にアクセスし、幅広く関心をもつことが望まれる。また研究分野やその近接領域については、学修をさらに深めておくことを推奨する。

博士後期課程においては、博士前期課程、修士課程での成果等に対する再検証と今後の研究に関する精緻な計画の立案を推奨する。

1 修業・在学年限

前期課程の修業年限は2年を標準とし、在学年限は4年とする。

2 修了要件

前期課程に2年以上在学し、次の各号のすべてを満たした者に、「愛知淑徳大学学位規程」に基づいて修士（学術）の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた場合、1年以上在学すれば修了を認定することができる。

【専門的職業人コース】

（1）修得すべき単位

研究科で定める**34単位以上**（研究指導教員の演習科目8単位を含める）を修得しなければならない。

（2）課題研究レポート

課題研究レポートの審査に合格しなければならない。

（3）学位試験

課題研究レポートについての学位試験に合格しなければならない。

【研究者養成コース】

（1）修得すべき単位

研究科で定める**30単位以上**（研究指導教員の演習科目8単位を含める）を修得しなければならない。

（2）学位論文

修士の学位論文（以下「修士論文」という）の審査に合格しなければならない。

（3）学位試験

修士論文についての学位試験に合格しなければならない。

3 研究計画・履修計画

入学後定められた研究指導教員の指導を受けて「研究指導教員届」、研究題目を含む「研究計画書」および「履修計画書」を作成し、指定の期間内に提出しなければならない。提出締切は、3月修了予定者は5月第2金曜日までとし、9月修了予定者の場合は10月第2金曜日までとする。

なお、「研究計画書」および「履修計画書」については、2年次の初めにも、同様の手続きを行うこととする。

4 修士論文および課題研究レポート

修士論文および課題研究レポートの作成は、以下に従うこと。

修士論文および課題研究レポートの作成

- (1) 関心のある学術テーマについて記した研究計画書を作成し、所定の期日までに提出しなければならない。
- (2) 修士論文または課題研究レポートの作成について研究指導教員から助言・指導を受けなければならない。なお、研究のためアンケートを行う際には、ビジネス研究科倫理委員会の承認を得なければならない。
- (3) 修士論文を提出する場合には、提出年次の6月（9月修了予定者は前年11月）に「構想報告」、10月（9月修了予定者は4月）に「中間報告」を必ず行い、主査および副査の助言・指導を受け、修士論文を完成させる。これらの報告会を欠席あるいは辞退した場合は、当該年度における修士論文の審査を受けることができない。また、「構想報告」および「中間報告」で指摘された事項についてまとめた「報告書」を研究科長に提出しなければならない。
- (4) 課題研究レポートを提出する場合には、提出年次の10月（9月修了予定者は4月）に「中間報告」を必ず行い、主査および副査の助言・指導を受け、課題研究レポートを完成させる。報告会を欠席あるいは辞退した場合は、当該年度における課題研究レポートの審査を受けることができない。
- (5) 修士論文または課題研究レポートの「審査願」を、中間報告・報告書提出後、12月上旬（9月修了予定者は6月上旬）に研究科長宛てに提出しなければならない。
- (6) 修士論文または課題研究レポートは、製本の上、指定の部数を所定の期日までに提出しなければならない。

作成・提出要領

- (1) 和文または英文で記述すること。
- (2) 用紙は、A4版とし、縦位置、横書き、左綴じ、とする。
- (3) 書式は、下記の通りに定める。
 - (a) 1行の文字数は40字、1ページの行数は36行とする。
 - (b) 文字の大きさは、11ポイントとする。
- (4) 下記の事項を記載した表紙と裏表紙を付すこと。
 - (a) 論文題目
 - (b) 入学年度
 - (c) 学籍番号
 - (d) 氏名
 - (e) 研究指導教員名
 - (f) 修了予定年月
- (5) 表紙、目次、本文の順とし、本文にはページ番号が付されていること。
- (6) 規定文字数・枚数は以下の通り。
 - (a) 修士論文は、30,000字以上とする。
 - (b) 課題研究レポートは、10,000字以上とする。

修士論文要旨の作成

修士論文要旨は、修士論文と同じ書式に従い、A4用紙2枚から3枚程度にまとめること。

日 程

事 項	月 日	
	3 月修了予定者	9 月修了予定者
研究科委員会にて主査・副査を審議決定	5 月	10 月
構想報告（修士論文を提出する場合）	6 月	11 月
中間報告	10 月	4 月
修士論文および課題研究レポートの審査願の提出期間	12 月上旬	6 月上旬
修士論文および課題研究レポートの提出期間	1 月上旬	7 月上旬
公開発表会	1 月中旬～2 月上旬	7 月下旬～8 月上旬

修士論文および課題研究レポートの審査願の提出

受付期間：9 月修了予定者の受付締切：6 月（別途掲示を参照すること）
3 月修了予定者の受付締切：12 月（別途掲示を参照すること）

修士論文および課題研究レポートの提出

- （1）提出方法：所定の書類に必要事項を記入したうえ、原本 1 部とコピー 3 部、論文要旨（修士論文を提出する場合）4 部、本文およびその要旨（修士論文を提出する場合）の電子データ 1 部を提出する。
- （2）提出場所：教学事務室
- （3）受付期間：9 月修了予定者の受付締切：7 月（別途掲示を参照すること）
3 月修了予定者の受付締切：1 月（別途掲示を参照すること）

修士論文および課題研究レポートの審査

ビジネス研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに従い、下記の事項を中心に審査を行う。

【課題研究レポート】

- （1）研究テーマの明確性
研究テーマが、実践的課題を発見し、課題を解決するために適切に設定されているか。
- （2）研究方法の妥当性
自らの調査によって入手した資料・データに基づき研究テーマにふさわしい学術上の研究方法および分析方法が用いられているか。
- （3）先行研究との関連性
先行研究を理解したうえで、当該分野の研究動向の中に自らの研究成果を位置づけているか。
- （4）論旨の一貫性、構成・表記の適切性
研究目的、分析、結果、考察において、論理的思考に裏付けられた展開がなされており、修士論文に準じた体裁（表記、図表、引用、参考文献の提示など）が整っているか。
- （5）問題解決能力
独自の視点により問題点を整理し、分析したうえで実務上の新たな知見が示され、妥当な結論を導き出せているか。

【修士論文】

- （1）研究テーマの明確性
研究テーマが、学術的課題に対して新たな知見を得るために適切に設定されているか。

(2) 研究方法の妥当性

自らの調査によって入手した資料・データに基づき研究テーマにふさわしい学術上の研究方法および分析方法が用いられているか。

(3) 先行研究との関連性

先行研究を理解したうえで、当該分野の研究動向の中に自らの研究成果を位置づけているか。

(4) 論旨の一貫性、構成・表記の適切性

研究目的、分析、結果、考察において、高度な論理的思考に裏付けられた展開がなされており、学位論文にふさわしい体裁（表記、図表、引用、参考文献の提示など）が整っているか。

(5) 問題解決能力

独自の視点により問題点を整理し、分析したうえで学術的に新たな知見が示され、妥当な結論を導き出せているか。

5 学位試験

公開発表会後に学位試験を行う。

学位試験は、修士論文または課題研究レポートの審査後、筆記または口頭で行う。

6 学位授与の取り消し

学位を授与された者が、不正な方法により学位を受けた事実が判明したとき、またはその名誉を汚辱する行為があったときは、研究科委員会および大学院委員会の議を経て、学位を取り消し、学位記を返還させ、かつその旨を公表する。



ビジネス研究科 博士前期課程 カリキュラム表

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ビジネス専攻科目

前期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
基礎科目	099360	ビジネススタディベーシック	2		1・2	前期		
専門科目 アカウンティング専修	099315	財務会計特講Ⅰ		2	1・2	前期	24単位以上選択必修 (演習科目を8単位、その他の専門科目を16単位以上修得すること)	
	099329	財務会計特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099354	財務諸表分析特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099355	財務諸表分析特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099356	国際会計特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099357	国際会計特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099317	原価計算特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099330	原価計算特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099318	管理会計特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099331	管理会計特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099358	監査論特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099359	監査論特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099333	租税法特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099334	租税法特講Ⅱ		2	1・2	後期		
演習科目	099613	アカウンティング演習Ⅰ		2	1・2	前期		演習科目はⅠ、ⅡとⅢ、Ⅳを隔年開講する。
	099614	アカウンティング演習Ⅱ		2	1・2	後期		
	099615	アカウンティング演習Ⅲ		2	1・2	前期		演習科目はⅠ、ⅡとⅢ、Ⅳを隔年開講する。
	099616	アカウンティング演習Ⅳ		2	1・2	後期		
専門科目 マネジメント&エコノミー専修	099361	マーケティング戦略特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099362	マーケティング戦略特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099363	サービスマーケティング特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099364	サービスマーケティング特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099452	データサイエンス特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099453	データサイエンス特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099454	マーケティングコミュニケーション特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099455	マーケティングコミュニケーション特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099365	経営戦略特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099366	経営戦略特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099367	ビジネスモデル特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099368	ビジネスモデル特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099352	リスクマネジメント特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099353	リスクマネジメント特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099369	ものづくり経営特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099370	ものづくり経営特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099343	人的資源管理特講		2	1・2	後期		

前期課程

科目群	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備考
専門科目 マネジメント&エコノミー専修	099397	コーポレートファイナンス特講Ⅰ		2	1・2	前期	その他の専門科目を16単位以上修得すること 24単位以上選択必修（演習科目を8単位、 研究者養成コースは2単位以上選択必修）	演習科目はⅠ、ⅡとⅢ、Ⅳを隔年開講する。
	099398	コーポレートファイナンス特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099005	国際ビジネス特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099064	国際ビジネス特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099442	ビジネスエコノミクス特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099443	ビジネスエコノミクス特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099460	経済政策特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099461	経済政策特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099622	グローバルマネジメント特講Ⅰ		2	1・2	前期		
	099623	グローバルマネジメント特講Ⅱ		2	1・2	後期		
	099617	マネジメント&エコノミー演習Ⅰ		2	1・2	前期		
	099618	マネジメント&エコノミー演習Ⅱ		2	1・2	後期		
演習科目	099619	マネジメント&エコノミー演習Ⅲ		2	1・2	前期	専門的職業人コースは4単位以上選択必修、研究者養成コースは2単位以上選択必修	演習科目はⅠ、ⅡとⅢ、Ⅳを隔年開講する。
	099620	マネジメント&エコノミー演習Ⅳ		2	1・2	後期		
	099411	ビジネスクラシックスリーディング		2	1・2	前期		
	099412	ビジネスジャーナルリーディング		2	1・2	後期		
	099621	グローバルリーダー研修		2	1・2	前期		
	099414	ビジネスプランニングⅠ		2	1・2	前期		
	099415	ビジネスプランニングⅡ		2	1・2	後期		
	099416	フィールドワーク		2	1・2	前期		
実践科目	099417	クリティカルシンキング		2	1・2	後期		

修了要件

【専門的職業人コース】

（１）修得すべき単位

研究科で定める34単位以上（研究指導教員の演習科目8単位を含める）を修得しなければならない。

（２）課題研究レポート

課題研究レポートの審査に合格しなければならない。

（３）学位試験

課題研究レポートについての学位試験に合格しなければならない。

【研究者養成コース】

（１）修得すべき単位

研究科で定める30単位以上（研究指導教員の演習科目8単位を含める）を修得しなければならない。

（２）学位論文

修士の学位論文（以下「修士論文」という）の審査に合格しなければならない。

（３）学位試験

修士論文についての学位試験に合格しなければならない。

1 修業・在学年限

後期課程の修業年限は3年を標準とし、在学年限は6年とする。

2 修了要件

後期課程に3年以上在学し、必要な単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査および学位試験に合格した者に、博士（学術）の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた認められた場合、博士課程に3年（博士前期課程または修士課程を修了した者は、その2年の在学期間を含む）以上在学すれば、修了を認定することができる。

3 修得すべき単位

研究指導教員の特殊研究科目12単位を修得しなければならない。

4 研究指導

（1）研究指導教員の決定

後期課程においては、研究テーマおよび学生の希望に基づき、入学時に研究指導教員（主指導教員）および研究指導補助教員（副指導教員）を研究科委員会によって定める。研究科委員会の定めに従い、「研究指導教員届」を5月第2週（10月入学者は10月の第2週）までに提出する。

（2）「研究計画書」・「履修計画書」の提出

後期課程への進学者または入学者は、進学後または入学後、研究科委員会が定めた研究指導教員および研究指導補助教員の指導のもとに、研究題目を含む「研究計画書」および「履修計画書」を作成し、5月第2週（10月入学者は10月の第2週）までに研究科長に提出しなければならない。2年次、3年次または4年次以降のはじめにも、同様の手続きを行うこととする。なお、研究のためアンケートを行う際には、ビジネス研究科倫理委員会の承認を得なければならない。

（3）研究指導の時間

当該指導学生は、博士論文作成のために、研究指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。さらに随時、研究指導補助教員による指導も受けなければならない。

（4）中間報告会における研究発表

後期課程においては、予備審査を通過するまでは1年次の11月（10月入学者は5月）より半年ごとに、中間論文または研究成果を提出し、中間報告会において研究報告をしなければならない。

(5) 論文の作成

研究指導教員は、博士論文に添付する副論文の作成の指導を行う。後期課程3年次では、各学生の研究の進展状況に応じ、博士論文提出に必要な知識と技能を持つか否か、また、研究課題と方法論が妥当か否か等を判断し、適切な場合には、研究計画書および副論文を指定された期日までに研究科長に提出する。研究科委員会で認められた場合には、博士論文作成作業に入るよう指導する。

5 博士論文

(1) 学位授与申請にかかる予備審査

博士の学位授与を申請する者は、博士後期課程3年次の4月もしくは9月（10月入学者は9月もしくは翌年の4月）または4年次以降の4月もしくは9月のそれぞれ末日までに、「研究計画書」および「副論文」を各3通（正本1部、副本2部）、研究科長宛に提出するものとする。研究科委員会は、その可否を審議する。

(2) 博士論文の提出

予備審査を通過し、博士の学位授与を申請する者は、博士後期課程3年次の10月（10月入学者は4月）または4年次以降の10月もしくは4月のそれぞれ第2週までに、申請にかかる書類を必要部数、研究科長に提出しなければならない。

(3) 提出書類

愛知淑徳大学大学院ビジネス研究科博士学位審査申請に必要な書類は以下の通りである（正本1部、副本2部）。

- ①学位授与申請書 ②学位論文 ③副論文
- ④参考論文 ⑤論文目録 ⑥主論文の要旨
- ⑦履歴書

③の副論文については、次の条件を満たすこと。副論文は第1著者として発表された、2編以上の学術論文で主論文の主要部分を含むものとする。また、換算した点数が3点以上となる既発表論文とする。具体的には、審査制度のある学術誌（国際誌、全国誌等）に単著者または筆頭著者として掲載された論文1編を2点と換算する。審査制度のない学術誌（国際誌、全国誌等）に単著者または筆頭著者として掲載された論文1編を1点と換算する。ただし、論文博士の場合は、申請時の前3年以内に発表されたものに限る。

なお、学位論文の字数基準は、8万字以上とする。

(4) 博士論文の審査

博士論文が受理されたときには、研究科委員会において、論文の内容に関連する教員3名以上を選出し、学位審査委員会（主査1名と副査2名以上）によって論文審査を行う。なお、主査は原則として研究指導教員を充てる。また必要がある場合には、研究科委員会の承認を得て、本研究科以外の教員、その他の者を副査として加えることができる。論文審査は、公開によって行うものとする。

博士論文は、受理された後1年以内に審査を終了する。ただし上記（2）において提出された課程博士論文については修了予定学期末までに審査を終了する。なお課程博士の場合は、博士後期課程進学または入学後6年で博士論文の審査が終了するよう、博士論文を提出しなければならない。

ビジネス研究科では、ディプロマポリシーに従い、下記の事項を中心に博士論文の審査を行う。

①研究テーマの明確性

研究テーマの設定が、明確な問題意識に基づき、研究の学問的意義及び必要性が明瞭に述べられ、申請された学位に対して妥当なものであるか。

②研究方法の妥当性

自らの調査によって入手した資料・データに基づき研究テーマにふさわしい学術上の研究方法及び分析方法が用いられているか。

③先行研究との関連性

先行研究を理解したうえで、当該分野の研究動向の中に自らの研究成果を位置づけているか。

④論旨の一貫性と構成・表記の適切性

研究目的、分析、結果、考察の過程において、論旨が一貫しており、学術論文としてふさわしい体裁（表記、引用、参考文献の提示など）が整っているか。

⑤独創性・有用性

学術的な独創性や有用性が明示され、新たな知見を含み、学術的・社会的に貢献するものであるか。

6 学位試験

- (1) 学位試験は、論文審査終了後、筆記または口頭で行う。
- (2) 学位試験は、論文の内容およびこれに関連する専門分野の学識並びに研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の能力または特に高度な専門的知識を有する職業に従事するに必要な高度の能力について審査する。
- (3) 論文博士の学位審査のための学力審査については、「学力審査委員会」を設けて本試験を行うものとする。
- (4) 学力審査委員会は、本研究科に所属する教員3人以上をもって組織し、そのうち1人を主査とする。
- (5) 必要があるときは、研究科委員会の承認を得て、本研究科以外の教員、その他のものを学力審査委員会に加えることができる。
- (6) 学力審査委員会は、学力認定の必要に応じて、「外国語を含む筆記試験または口述試験」を行う。

7 博士論文の公表

博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、当該学位の授与に係る論文の全文を公表しなければならない。ただし、学位を授与される前に当該学位論文を公表した場合は、この限りではない。

なお、博士論文そのもの、または博士論文を中核とする著作物を1年以内に出版社から刊行しなかった場合は、学位受領1年後の速やかな時期にリポジトリに登録公開すること。

8 学位授与の取り消し

学位を授与された者が、不正な方法により学位を受けた事実が判明したとき、または、その名誉を汚辱する行為があったときは、研究科委員会および大学院委員会の議を経て、学位を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表する。



ビジネス研究科 博士後期課程 カリキュラム表

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ビジネス専攻科目

後期課程

科目群	科目番号	科 目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	修了要件	備 考
アカウンティング専修	099607	アカウンティング特殊研究Ⅰ	2		1	前期	合計12単位以上選択必修 各年次4単位以上、	
	099608	アカウンティング特殊研究Ⅱ	2		1	後期		
	099609	アカウンティング特殊研究Ⅲ	2		2	前期		
	099610	アカウンティング特殊研究Ⅳ	2		2	後期		
	099611	アカウンティング特殊研究Ⅴ	2		3	前期		
	099612	アカウンティング特殊研究Ⅵ	2		3	後期		
マネジメント&エコノミー専修	099601	マネジメント&エコノミー特殊研究Ⅰ	2		1	前期	合計12単位以上選択必修 各年次4単位以上、	
	099602	マネジメント&エコノミー特殊研究Ⅱ	2		1	後期		
	099603	マネジメント&エコノミー特殊研究Ⅲ	2		2	前期		
	099604	マネジメント&エコノミー特殊研究Ⅳ	2		2	後期		
	099605	マネジメント&エコノミー特殊研究Ⅴ	2		3	前期		
	099606	マネジメント&エコノミー特殊研究Ⅵ	2		3	後期		

修了要件

ビジネス研究科ビジネス専攻博士後期課程を修了するためには、3年以上在学して上記科目中、研究指導教員の特殊研究科目を12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査および試験に合格しなければならない。

履修要覧 [2025年度入学者用]

大学院

2025年 4 月 1 日発行

編集・発行 愛知淑徳大学

長久手キャンパス

〒480-1197

愛知県長久手市片平二丁目 9

TEL (0561) 62-4111 (代) FAX (0561) 63-1844

星が丘キャンパス

〒464-8671

愛知県名古屋市千種区桜が丘23番地

TEL (052) 781-1151 (代) FAX (052) 783-1614

URL <https://www.aasa.ac.jp/>

履修要覧 大学院 [2025 年度入学者用]